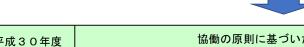
第2次奈良市市民参画及び協働によるまちづくり推進計画

平成30年度事業評価シート (協働事業)

N.	1 本米力	占かいまり	人然江土山	4+`H:						
No.	4 7/5 B	事業名 自治連合会等活動推進								
部名 市民活	·動部·市民生	・市民生活部 課名 地域活動推進課・各出張所・各行政センター・								
	章	章 第1章		<u>.</u>			① 地域活動の推進			
総合計画上の 位置付け	基本施策	1-01	地域コミュニティ、交流(均		也域間交流)	展開方向	地域住民に対し、奈月	良市自治連合会と協働	して、防災防犯、高齢	者支援、子どもの見
四色的竹	施策	1-01-01	地域コミコ	ュニティの活	性化		守りといった様々な地 帰属意識向上に努め		の参加を促し、住民の地	担城コミュニティへの
相手方の名和	奈良市自	治連合会、	各地区自	治連合会	協働事業の	の実施手法	補助・助成	È		
実施の時期	通年				事業開	始年度	_			
平成30年度事業	費予	 算額		14,634	決算	章額		14,469	(単位:	千円)
	111.14 oo 41	ST /D \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	41.11.00	+44	**** V == 1	. т. дн ч з. д	·	<u> </u>	7 20 4 100	マムソハナ
事業の 概要・目的	合会へ交会活動の	付金を交付活性化を促	けするととも	ュニティの推に、地区調!						
3 -14 -4	合会へ交会活動の	付金を交付	けするととも	に、地区調	整員による	住民自治の	の促進に向け	ナた地域活	動支援によ	り、自治
3 -14 -4	合会へ交会活動の	付金を交付 活性化を仮 標名	けするととも す。 自治会加	に、地区調	整員による	住民自治 <i>0</i> H28)促進に向い H29	ナた地域活 H30	動支援によ H31	的、自治 H32
概要・目的	合会へ交会活動の	付金を交付活性化を促	けするととも す。 自治会加	に、地区調	整員による	住民自治の	の促進に向け	ナた地域活	動支援によ	り、自治
概要・目的	合会へ交 会活動の 指 奈良市 合会の役	付金を交付活性化を仮 標名 1位 自員地区を 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 1位 100 100	けするととも とす。 自治会加 及び各地 会に出席し	に、地区調	整員による 年度 目標値 実績値 会へ交付会 与しながら、	住民自治 <i>0</i> H28 78.0 75.1 金を交付す	H29 79.0 74.1 るとともに、 かした取組を	けた地域活 H30 80.0 72.9 毎月開催さ 行った。	動支援による H31 81.0 なれる奈良市	H32 82.0 5自治連



	1			
平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きたっとも	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	37	35

総合点	72		総合	評価		В
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出 は行政の	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
点数を2倍して算出)	11411以()	90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
得られた効果	域コミュニティの再生の一助になっている。	行政と連携し情報を共有することによって、自治会活動 等の活性化を図り、地域の安全、安心のまちづくりにつな がる。また市の重要課題である新斎苑、クリーンセンター 等の建設問題にイコールパートナーとして今後とも継続し て取り組んでいくべきである。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	・地区調整員の地域への関わり方が地域によって様々であ り、市として統一した基準を設ける必要がある。	地域自治協議会は、地域が元気なうちに取り組み設立する必要がある。今まで以上に行政と地域が協働し、連携が重要になってくる。行政の窓口を一本化し、地域とのパイプを強固なものにする一方、行政間の横のつながりを密に課題を共有してほしい。また、拠点施設の確保整備を重要課題として、市側に検討を促し、地域自治協議会実現に向け確実な一歩を踏み出したい。

		Alle	4- H - 18	1	. h . m . //	7.33L					
No.	2										
部名	市民活動	部	る 課名 協働推進課								
総合計画上の 位置付け		章 第1章		市民生活			1	ボランティア	'·NPO活動	かの活性化	
		基本施策	施策 1-01 地域コミュニティ、交流(均			也域間交流)	展開方向	ボランティア活動の拠	点施設として、市民の	活動を支援するための	奈良市ボランティア
加度	크 173 ()	施策	1-01-02	市民交流	の活性化			モイフ・ツル大を図る	るとともに、奈良市ボラン ・動に関するきっかけつ	"ノイノコイノオグ" マミ	ョンセンターにおい
相手力	ちの名称	(社垣) 左	- 良市社会福	弘松議会		拉 働車業/	D実施手法	指定管理			
	の時期	通年	区川江五田	田川山の成云			分类心于丛始年度	10.00	度(指定管	田老制産道	(1) (1)
74,00		,	华 克万	I	10.700	2 111		十八八10千	24 (11.7 - 11		
平成30	年度事業費	74	算額		16,782		拿額		16,171	(単位:	十円)
事業の 概要・目的		市民の地域活動を支持			的な参加促					みせるボラ	ンティア
						みよい奈良	も のまちづく	(りを目指す	•		
		指标	票名	利用人数		みよい奈良	ものまちづく 	(りを目指す	- •		
日垣	声比墙	指标				みよい奈良 年度	ものまちづく H28	(りを目指す H29	H30	H31	H32
目標	票指標			利用人数						H31 22,225	H32 22,500
目標	票指標		票名	利用人数	の増	年度	H28	H29	H30		
平成 3	0.0 左 庄	単	票名 -位	利用人数	の増	年度 目標値 実績値 ンターと活	H28 21,400 19,904 動団体の約	H29 21,675 19,893 3介を行い、	H30 21,950 22,068 気軽にセン	 22,225 /ターを利月	22,500



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きしちょうなかっちもも	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	38	38

ı	総合只	76
ı	行政・協働相手の評価点を合計して	算出
	(※協働相手の評価が未記入の場合	
ı	点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
拉働によって	ボランティアセンターの設置目的である、市民の自主的な参加による自発的な活動の促進、市民福祉の向上について、指定管理者が指定管理料を効果的に配分しながら、自主事業を展開するなど、費用対効果に優れた管理運営を行うことができた。	日代信用性参加者へのがフラブイナがイント等人により、参加者の信加、 定着に繋がり、多くの市民に市民公益活動の魅力や意義を伝えることが でき、ボランティア活動に繋がるきっかけづくりを行うことができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して	今後も市民活動の拡充、グループ間の交流、活動の支援、利用促進、「災害ボランティアセンター」としての機能の整備などについて、一段と積極的な取組が行われることを期待する。また、活動中の事故が心配であるという利用者の声も多いので、年々増加傾向にあるボランティア活動保険の加入受け付け及び事故対応等を通して、誰もが安心してボランティア活動に取り組みことができる環境づくりに努めていただきたい。	様々な課題解決を協働することに重点をおくことにより、当センター単独では成し遂げれない課題や事業などについて一段と 積極的な取組を行えるよう、今後も中間支援組織としての役割 を大きく果たすことができると考える。

No. 3	事業名	にぎわいの	りなるまた。	べくり重要						
	尹未石	(CG 4)(10		17 7 714	- 	. h hh ru	部 フッドルン	シノフ トン・み	+ ∧ ==	
部名 総務部			課名	保健川• 教	「育総合で、	ノダー官理	課及ひはく	ベみセンタ	一內全課	
60 A -1 - 1 -	章	第1章 市民生活				① ボランティア・NPO活動の活性化				
総合計画上の 位置付け	基本施策	1-01	地域コミュニ	ニティ、交流(ナ	也域間交流)	展開方向	協働によるまち	づくりを推進する	ために、市民や	自治会などの
四百1317	施策	1-01-02	市民交流	の活性化			市氏公益活動に 動を支援します		[刮分担を博楽し	市民相互の活
相手方の名称	JR奈良駅	西地区の自	治会		協働事業の	の実施手法	実行委員:	会•協議会		
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成23年	度		
平成30年度事業費	予算	算額		370	決算	車額		324	(単位:	千円)
	l									
事業の 概要・目的	セミナー等 ていただく	などの集名こと、地域の	客イベントを の活性化を	にぎわいの。 と実施し、多 と図ること、J	くの市民の	方に、はぐ	くみセンタ・	一を知って	いただき有	
2 -14	セミナー等	などの集名こと、地域の	タイベントを	と実施し、多 と図ること、J	くの市民の	方に、はぐ	くみセンタ・	一を知って	いただき有	
概要・目的	セミナー等 ていただく	などの集名こと、地域の	客イベントを の活性化を	と実施し、多 と図ること、J	くの市民の	方に、はぐ	くみセンタ・	一を知って	いただき有	
2 -14 - 1	セミナー等 ていただく 指植	などの集名こと、地域の	タイベントを の活性化を 来館者数	と実施し、多 と図ること、J	くの市民の R奈良駅西	カ方に、はぐ うのまちづく	くみセンタりに寄与す	一を知ってることを目的	いただき有 的とする。	効利用し
概要・目的	セミナー等 ていただく 指植	まなどの集名 こと、地域の 票名	タイベントを の活性化を 来館者数	を実施し、多 を図ること、J の増加	くの市民の R奈良駅西 年度	か方に、はぐ fのまちづく H28	くみ・センタ・ りに寄与す H29	ーを知って ることを目的 H30	いただき有 的とする。 H31	効利用し H32
概要・目的	セミナー等く ていただく 指植 単 ①JR 奈 良 lv コン 焼き きしい コン 焼き 委 員 ③実行 委 員	票名 位 Rのある。市回、自見や等	タイベントを の活性化を 来館者数 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	を実施し、多 を図ること、J の増加	くのR 京良 の 京良 田	H28 200 204 おいて、年間により事業を表すづくりセ	くみセンタ りに寄与す H29 210 219 コ事業計画を 行った。	ーを知って ることを目的 H30 220 222 決定した。	いただき有 的とする。 H31 220	効利用し H32 220



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きたっとも	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	41	42

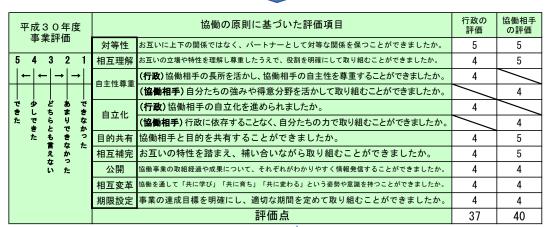
総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合評価								
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価					
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18					

切掛わての辛日

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	地域住民と行政職員が協働して、にぎわい市場やコンサート、セミナー等の集客イベントを継続して行うことにより、来館者数の目標22万人を達成でき、はぐくみセンターの認知度を高めたとともに、施設の有効活用や地域のにぎわいに寄与できた。	り事業が定着してきた。 来館者数の増加が実績の一つとして評価できる。
	た事業の立案や、地域住民と行政職員がお互いの特性を生 かしつつ協働の意識が高められるような事業や手法を検討	事業がマンネリ化にならないように継続していくこと。また、行政側は人事異動などで担い手が変わるが、やらされ感に陥らないよう理解を求め協力を得るための努力が必要である。一方、地域側も、にぎわいづくりの当事者としての自覚が必要であり、引き続き訴求していくとともに担い手の発掘に努力する。

No.	4	4 事業名 男女共同参画活動団体協働事業										
部名 市	市民活動	7 /IC E		課名	男女共同	参画課						
総合計画上の位置付け		章	第1章	市民生活				(I)	あらゆる分野の政策・力針	の決定及び実施の場への	男女共同参画の推進	
		基本施策	214- 1	男女共同	参画		展開方向		男女共同参画の視点を持ち、あらゆる分野で活躍			
		施策	1-02-01	男女共同	参画社会の	実現	-	できる女性の	の人材の育成	と活用に努め	ます。	
相手方の	D名称	女性団体	 等	•		協働事業	の実施手法	共催				
実施の田	時期	通年				事業開	始年度	平成17年	度			
平成30年度	度事業費	予算	算額		1,245	決争	算額		1, 245	(単位:	千円)	
事業の					し、喜びも責 会画に Fbめ		ら合い、性別	川にかかわ	りなく、その	個性と能力	を十分に	
事業の 概要・[発揮できる		現を市民参	し、喜びも責 参画によりめ 医」の受講者	ざす。						
概要・月	目的	発揮できる	社会の実	現を市民参	多画によりめ	ざす。						
	目的	発揮できる	社会の実	現を市民参	多画によりめ	ざす。 アンケート!	こよる満足月	度を平成32年	年度を目標(こ85%にまて	で上げる。	
概要・月	目的	発揮できる	会社会の実 票名	現を市民参	参画によりめ 医」の受講者	ざす。 アンケート! 年度	こよる満足月 H28	度を平成32 ² H29	年度を目標(H30	に85%にまで H31	ご上げる。 H32	
概要・月	自的 「標 」年度	発揮できる 指権 単 市民団体	票名 位	現を市民書店 下民講座 率(清	参画によりめ 医」の受講者	ざす。 アンケート 年度 目標値 実績値	こよる満足月 H28 92 61	度を平成32: H29 70 66	年度を目標(H30	に85%にまて H31 80 ズに合った	ご上げる。 H32 85 講座を開	



総合点 77 行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)

	//\ A	== / =		
	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	容の講演会やセミナーを開催することを目指した。それらを企画・立案の段階から協働し、様々な意見を事業に反映することで女性団体閣員の社会参画が促進され、男女共同参画社会の実現へと繋がった。	●ポスターやチラシのレイアウトやデザインを考えてもらえて 良かった。会場設営などにも配慮いただいている。今回は講師 の選定や交渉もスムーズだった。 ●女性問題や教育に関する調査研究や国際理解に関する事業を 行い、男女共同参画社会の協働事業は目的に合致した内容で取り おみ出来ている。特に一般市民と一緒に学ぶことは、当団体会員 に刺激をあたえている。 ●男女共同参画に関する事業を行うことが会員すべてに、どう いうものかなかなか分かってもらえないと感じた。男女共同参 画とは、何ぞやという話し合いをする機会を持たなきゃいけな いと考えるようになった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	市民講座の満足度においては、目標値に達することができず、内容がニーズに合ったものであったか次回の開催に向けて検討する必要がある。また、団体員の高齢化と加入者の伸び悩み等で事業実施が困難にならないよう団体の育成についても考えていきたい。	●男女共同参画課で求めておられる講演内容と、私達団体の会員様が求めておられる内容に少し開きがあるように思われる。 ●市民講座のアンケートやご意見で評価、反省しているが、次 に取り組む検討課題が見えて大いに参考としている。当団体の 最大課題は、会員の高齢化と新規加入の勧奨です。団体のPR と加入募集にもよい機会と捉えている。 ●事業が色風のために変更になったために、会員が参加が難しくなった。事業内容を、共感する会員と、無関心な会員と別れ 請座の内容にも考えさせられた。令和元年には、高齢者が引退することによって、残っ員会とのこの方に一回研修するように、計画を立て、会員な参員が、自分の団体を守っていこうという機運が観られるようになった。

No.	5	古光力	114年14年	サマナ (本)	F-W-						
		ナハロ									
部名	市民活動	部	課名 人権政策								
総合計画上の		章	第1章	市民生活				1	人権教育の	り推進	
総合計曲 位置を		基本施策	1-03	人権·平利	ÏΠ		展開方向		育の推進を図るため、 動としての人権学習を		
		施策	1-03-01	人権と平	和の尊重				動ことでの八種子目を 万民意識向上に努めま		が概念は思いなことによ
相手方の	D名称	奈良市人	権教育推進	進協議会		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の	時期	通年				事業開	始年度	昭和48年	度		
平成30年月	度事業費	予算	算額		1,458	決算	算額		1,458	(単位:	千円)
事業の 概要・目的					「奈良市人	権教育推進	生協議会」と	:協働し、地	域における	人権教育の	り推進を
					づくり条例」の	り具体化を	図る。				7,111.2
	I		₹市人権又 票名	活動地区		り具体化を	図る。				, , , , , ,
						D具体化を 年度	図る。 H28	H29	H30	H31	H32
目標指		指标		活動地区				H29 40	H30 40	H31 40	
		指标	票名	活動地区	数の増	年度	H28				H32
	指標	指権 単 運営団体の 主的な活動 平成29年	票名 位 のあり方や: 動を行うよう 度からを実	活動地区 地区別研修 、また、参 :施している	数の増	年度 目標値 実績値 斉講座、人 るよう双方	H28 40 33 権講座等の 協議しなが	40 32 事業実施 ら改善を図	40 32 こついてのか	40	H32 40



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき き し ち ま ち た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きたきともきたわっ	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in to	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
		評価点	42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合	合は行政の
占数を2倍1.て質出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によっ ⁻ 得られた効!		協働開催することで双方向のコミュニケーションを図りながら 事業を推進することができ、地区別研修会や指導者講座・人権 講座等を充実させることができた。また、各地区や関係団体と の信頼関係の構築に結び付けることが出来た。
協働することで えた課題や協働 手に対して求め ことなど		しして比道子準広な女宝されること ② またづくしの 1 佐

No.	6	事業名 地域で決める学校予算事業(地域学校協働活動本部)									
部名	学校教育	育部 課名 地域教育課									
総合計画上の位置付け		章	第2章 教育·歴史·文化				① 教育内容の充実				
		基本施策	2-01	学校教育	:		展開方向			、地域と連携し	た教育活動支
, — , <u>—</u>	-13.7	施策	2-01-01	特色のあ	る教育の推	進		援を推進します	•		
相手方	の名称	地域教育	劦議会			協働事業の	の実施手法	委託			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度		
平成30:	年度事業費	予算	車額		87,260	決算	算額		85,861	(単位:	千円)
中学校区を単位 事業の 活動の充実と地 概要・目的 区で取組む事業 る。											
		活動の充領 区で取組 る。	実と地域の な事業と、名	教育力のF 各学校園で	再生、地域コ で特色のある	ミュニティ 教育活動	の活性化を	:図る。地域	と学校が連	連携・協働し	、中学校
		活動の充実 区で取組を	実と地域の な事業と、名	教育力のF 各学校園で	再生、地域=	ミュニティ 教育活動	の活性化を	:図る。地域	と学校が連	連携・協働し	、中学校
概要		活動の充領区で取組を	実と地域の い事業と、名 票名	教育力の著各学校園で 各学校園で 会計担当	再生、地域=で特色のある。 で特色のある 者設置校区	マシュニティの 教育活動 数 年度	の活性化を を実施する H28	·図る。地域 ために取組 H29	と学校が連 引む事業を H30	連携・協働し	、中学校 で実施す H32
概要	・目的	活動の充領区で取組を	実と地域の な事業と、名	教育力の著各学校園で 各学校園で 会計担当	再生、地域コ で特色のある	では、 (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	の活性化を を実施する H28 13	:図る。地域 ために取組 H29 15	と学校が通出む事業を含	重携・協働し全中学校区	、中学校 で実施す
概要	・目的	活動の充領区で取組を	実と地域の い事業と、名 票名	教育力の著各学校園で 各学校園で 会計担当	再生、地域=で特色のある。 で特色のある 者設置校区	マシュニティの 教育活動 数 年度	の活性化を を実施する H28	·図る。地域 ために取組 H29	と学校が連 引む事業を H30	E携·協働し全中学校区	、中学校 で実施す H32



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日工任寺里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
たでらりな	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
i t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	40	39

総合点	/9
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の点
数を2倍して算出)	

拡大、縮小、廃止の理由

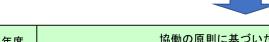
今後の方針

継続

		Α		
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	各地域教育協議会と学校がめざす「子ども像」を共有することで、地域全体で子どもを守り育てるという意識がさらに高まった。また、行政・地域・学校の更なる連携がすすみ、子どもたちの学びの場・体験の場が多様になった。	・目標や課題、学校の求める支援や、地域が提供できる情報の共有ができるようになってきた。 ・地域全体で子どもを守り育てる体制ができ、地域の中に子どもたちの豊かな学びの場を作ることができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	地域人材の高齢化・固定化、事業を継続するための次世代の地域人材不足が多くの校区でみられる。広報活動の強化や人材育成を目的とした研修の実施等、地域人材を確保・育成するための工夫が必要である。また、自律的な事業運営をすすめるための工夫を共に考える必要がある。	・各地域の特性に応じた、柔軟な取組が必要である。 ・事務処理の簡略化。 ・小学校や幼稚園、こども園職員への認知を広げる必要がある。 ・地域人材の不足。人材を確保するために、今まで以上により広く、わかりやすく活動内容を広報していく必要がある。 ・行政には長期を見据えた事業方針を求める。 ・行政は広く市民に協働という意識を持てるよう働きかけていく必要があると思う。

No. 7	7 事業名 教育セン			事業						
部名 学校教育	部	課名 教育支援課			課					
	章 第2章		教育·歴	史・文化				教育内容の	の充実	
総合計画上の 位置付け	基本施策	2-01	学校教育	Î		展開方向		•		
1211117	施策	2-01-01	特色のあ	る教育の推	進					
相手方の名称	ボランティ	ア団体・NPC	○法人・民	間研究団体	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成23年	度		
平成30年度事業費	予算	算額		18,679	決算	算額		17,430	(単位:	千円)
				学びのフロア						
事業の 概要・目的	育て、奈良平日にはクラブ」を多	きで学んだ、 は、学校園を 実施する。	ことを誇ら を対象とし	室等を開催す しげに語り、た「わくわくす	たくましく生 ピンター学 ^り	きていこう。 習」を、休日	とする子ど Iには、親王	もを育成する	5.	
3 514.14	育て、奈良平日にはクラブ」を多	きで学んだ。 は、学校園 <i>を</i>	ことを誇ら を対象とし	しげに語り、	たくましく生 ピンター学 ^り	きていこう。 習」を、休日	とする子ど Iには、親王	もを育成する	5.	
3 514.14	育て、奈良 平日には クラブ」を写 指 材	きで学んだ。 は、学校園を 実施する。 票名	ことを誇らを対象とし 民間協力	しげに語り、: た「わくわく† 」団体の数(たくましく生 センター学 ² 学校、営利 年度	きていこう。 習」を、休日	とする子ど Iには、親王	おを育成する 子等を対象と H30	る。 とした「キッ ² H31	ズホリデー H32
概要・目的	育て、奈良 平日には クラブ」を写 指 材	きで学んだ、 は、学校園を 実施する。	ことを誇らを対象とし 民間協力	しげに語り、 た「わくわく†	たくましく生 アンター学 ² 学校、営利 年度 目標値	きていこう。 習」を、休日 企業等を陽	とする子ど 1には、親 - 余く)	もを育成する 子等を対象と H30 9	る。 とした「キッ>	ズホリデー
概要・目的	育て、奈良 平日には クラブ」を写 指 材	きで学んだ。 は、学校園を 実施する。 票名	ことを誇らを対象とし 民間協力	しげに語り、: た「わくわく† 」団体の数(たくましく生 センター学 ² 学校、営利 年度	きていこう。 習」を、休日 企業等を陽	とする子ど 1には、親 - 余く)	おを育成する 子等を対象と H30	る。 とした「キッ ² H31	ズホリデー H32
概要·目的	育て、奈良 平日には クラブ」を写 指札 単	きで学んだ、 学校園を 実施する。 漂名 位	ことを誇らと対象とし民間協力	しげに語り、: た「わくわく† 」団体の数(たくましく生 デンター学 ² 学校、営利 日標値 実績値 ラブ」にお	きていこう。 習」を、休日 企業等を修 H28	とする子ど には、親 = (c) H29	もを育成する 子等を対象 H30 9 8	る。 とした「キッン H31 10	ベホリデー H32 11



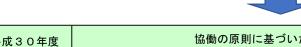
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
たでらりなきとでか		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in to	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	41	42

総合点	83	
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)		

>		総合	評価		Α
	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
	90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	協働によって、行政と民間団体が担うそれぞれの役割について相互理解を深めることができた。	自分たちの特性を損なうことなく事業に携わることができた。また、市や市民へ取組みを知ってもらう良い機会となった。
	協働の取みを理解した上で役割分担をするまでの事前調整 が難しい。行政主導となってしまいがちである。	達成目標は同じであるにも関わらず、自分たちがしたいことと、行政が求めていることの調整が難しい。

No.	8	事業名 学校規模適正化検討協議会との協議									
部名	教育委員	会事務局		課名	教育政策	課					
		章 第2章		教育·歷史	教育・歴史・文化		5	(5) 施設配置の適正化及び施設の長寿命化の検討		寿命化の検討	
	合計画上の 立置付け	基本施策	2-01	学校教育	;		展開方向	1 2545 112545	の規模適正化を	- 中长1 ナナ	
江巴	. 13 17	施策	2-01-03	義務教育	の充実			小子校•甲子校	(7) 規模 適 正 1 [2	ご夫虺しより。	
相手方	で名称	保護者•地	2域代表・学	2校関係者	ŕ	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度		
平成304	年度事業費	予算	算額		439	決算	算額		163	(単位:	千円)
		奈良市学校規模適正化実施方針及び中校の規模適正化の推進に向け協議し、よ									
	業の ・目的	校の規模i	適正化の推	進に向け	協議し、地域	並性等を考	慮した個性				小•中学
			適正化の推	進に向け		並性等を考	慮した個性				小·中学 ———
概要	・目的	校の規模は	適正化の推 票名	機に向け規模適正	協議し、地域	並性等を考	慮した個性				小·中学 H32
概要		校の規模は	適正化の推	機に向け規模適正	協議し、地域	或性等を考 する小・中 ² 年度 目標値	慮した個性 学校 H28 7	や特色ある H29 4	が学校づくり H30 4	をめざす。	
概要	・目的	校の規模は	適正化の推 票名	機に向け規模適正	協議し、地域	ずる小・中 ² 年度	慮した個性 学校 H28	:や特色ある H29	S学校づくり H30	かざす。 H31	H32
概要 目標 平成3	・目的	校の規模) 指植 単 平成28年	意正化の指票名位10月に策定(右京)	規模適正	協議し、地域	或性等を考 する小・中: 年度 目標値 実績値 を計画(案)	慮した個性 学校 H28 7 7 後期計画」	H29 4 4 こ基づき、Á	5学校づくり H30 4 4 & 4	をめざす。 H31 4 対象となっ	H32 4 ている平



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価対等性		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	- 自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	3	
	日工社导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
で 少 ど あ で き し ち ま ち た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きしちょきないできたもきたも		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	
		評価点	35	0

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

になる辛日

	総合	評価	В		
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18	

切りむくの立り

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	学校規模適正化や統合再編について対象地域と話し合うときは、対象地域に保護者・地域住民・学校関係者で構成された「検討協議会」を立ち上げてもらい、そこを通して協議を進めるが、今年度は「検討協議会」の立上げにまで至らなかった。しかし、地域や保護者への説明会を通じて、様々な思いやニーズを把握することはできた。	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	まず、協働の土台となる「検討協議会」の立上げが求められる。また、学校規模適正化についての説明会等を通じて、対象地域から、まちづくりや跡地活用等、多岐の分野にわたる様々な意見、要望が出た。それらに対応するためには、今後、関係部署との連携を一層強化し、横断的に対応していく必要がある。	

No.	9	9 事業名 放課後子ども教室推進事業						
部名	部名 学校教育部			課名	地域教育課			
60 A =	. —	章	第2章	教育·歴史	2・文化		2	地域の教育力の充実
	計画上の ∄付け	基本施策	2-02	青少年の何	建全育成	展開方向	各小学校区に	おいても、学校・家庭・地域が連携・協働し、子ど 安全な居場所を設け、地域ぐるみで子どもを育
	21317	施策	2-02-01	青少年の何	建全育成		てる仕組みづく	

位置付け	基本施策	2-02	青少年の健全育成		展開万回	各小学校区にお * * * * の安心・9	3いても、学校・3 5:今か早場所な5	₹庭・地域が連携 设け、地域ぐるみ	・協働し、子ど
4611.7	施策	2-02-01	青少年の健全育成			てる仕組みづく		又け、地域へのか	(1595H
相手方の名称	各小学校流	運営委員会	<u> </u>	協働事業の	D実施手法	委託			
実施の時期	通年			事業開	始年度	平成19年月	度		
平成30年度事業費	予算	算額	20,828	決算	草額		20,345	(単位:	千円)
事業の 概要・目的	の余裕教	室等を活用	会の中で、心豊かに健 し、地域の方々の参画 lを、全小学校区で実力	画を得て活!					
	指標	標名	放課後子ども教室の	年間実施日	数				
目標指標				年度	H28	H29	H30	H31	H32
口际旧标	単	位	日/校	目標値	33	34	34	35	35
				実績値	31	31	31		

平成30年度 取組内容 これまでに引き続き、各小学校運営委員会に事業委託を行うとともに、研修会の開催、意見交換・情報共有の場の設定等、各運営委員会・小学校・バンビーホームと連携・協働しながら、子どもたちに多様な教育活動を提供するための支援をした。

今後の方針 継続 拡大、縮小、廃止の理由



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕寻里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
ν t=	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の点
数を2倍して算出)	

•		総合評価						
	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価			
	90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18			

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	子どもの放課後等の居場所づくりだけでなく、コーディネーターやボランティアの参画等により、スポーツや文化・芸術等さまざまな分野の活動の機会を提供することができた。また、地域全体で子どもを見守り、育てるという意識が広がってきた。	・スポーツや文化等様々な活動を通して、子どもたちが目標をもって自発的に行動する力、相手を思いやる心、仲間との協働の大切さを体現し、自己肯定感を養うことができた。・地域、学校、保護者との連携・相互理解が深まり、地域ぐるみで子どもを育てる輪が広がった。・保護者や地域の方の認知度も少しずつ高まっている。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなと	や報道機関等を利用した広報活動の強化や、育成を目的とした研修を実施する等の工夫を共に考えたい。また、活動日数に大きな差があるため、各数室に訪問した時などに数	・視察にきてほしい。 ・事業協力者の高齢化により、継続的かつ安定的な人材の発掘、確保が課題。 ・事業を継続するには、予算の維持が必要不可欠である。 ・提出書類等の簡略化。 ・予算の使い方について柔軟性を持たせてほしい。 ・協働可能な団体等の情報が不足している。ボランティア団体や公益団体等の情報を提供するしくみがあればよい。

No.	10	0 事業名 青少年野外体験施設の運営管理									
部名	教育総務	部 課名 生涯学習課									
40. 41		章	第2章	教育·歴史	史・文化			3	青少年健全	全育成活動	の推進
	計画上の 畳付け	基本施策	2-02	青少年の	健全育成		展開方向	青少年が健やた	いに成長できる体	験の場所や機会	☆を提供しま
		施策	2-02-01	青少年の	健全育成			す。			
相手方	の名称		美山キャンプフ 川活動法人 奈			協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度		度(指定管理者 度(指定管理者		
平成30	年度事業費	予算	算額		29,213	決算	算額		28,093	(単位:	千円)
事	業の										
概要	・目的	自然環境	の中での野	外活動、『	ンクリエーショ	ョン等を通	じて青少年	の心身の傾	建全な育成る	を図ることを	:目指す。
概要			の中での野 票名	外活動、1 利用者数		ョン等を通	じて青少年	の心身の傾	建全な育成を	を図ることを	目指す。
	・目的	指柱	票名	利用者数	の増	ョン等を通ります。 年度	じて青少年 H28	の心身の優 H29	建全な育成な H30	を図ることを H31	:目指す。 H32
		指柱		利用者数		年度 目標値	H28 12,040	H29 12,080	H30 12,120		
	・目的	指柱	票名	利用者数	の増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標 平成 3	・目的	指定管理	票名 位	利用者数	の増人	年度 目標値 実績値	H28 12,040 12,279	H29 12,080 12,497	H30 12,120 11,888	H31 12,160	H32 12,200



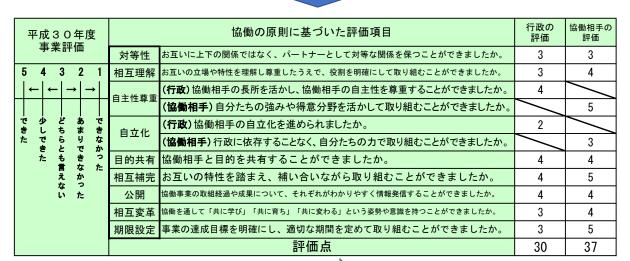
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		4	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	3
$\left \begin{array}{c c} \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow \end{array} \right \rightarrow \left \begin{array}{c c} \rightarrow \end{array} \right $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちまきたでらりなきとでか	пиі	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
き と で か た も き つ 言 な た	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
えかなっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
iv te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定 事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができました		4	4
		評価点	36	32

総合点	68
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 数を2倍して算出)	

	в			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	指定管理者の経験やノウハウを施設の管理運営に活かすことで、快適で安全な施設の提供が出来た。また、行政としてもHPやしみんだよりに掲載するなど広報面で協力ができた。	お互いにその立場を尊重し、やるべきことの役割を明確にしているため、施設利用者にとっては大いに楽しく効果的であった。施設の楷枯れ対策については未施工の部分があるが一応の成果はあった。他団体との協働により、新たな自主事業の方向性を構築できた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	利用者の固定化が見られるため、新規の利用者を増やすことが必要である。利用者アンケートを基に指定管理者と協議・連携し、広報の手法を工夫する等の効果的なPRを行っていく。	運営協議会役員の全てが現役年代で、仕事を抱えているため時間的制約が厳しい。施設維持管理運営スタッフについては全く問題はない。施設を適切に維持管理していくには現地調査を行い中長期計画修繕計画書の作成が望まれる。

No.	11	事業名	公民館の	運営管理							
部名	教育総務	部	Į.	課名	生涯学習	課					
		章 第2章		教育•歴9	教育・歴史・文化			① 生涯学習活動の推進			
総合計画上の 位置付け		基本施策		生涯学習			展開方向	地域の課題解	央に向けた学習	活動を含め、市	民の多様な学
		施策	2-03-01	生涯学習	の推進			智に対応できるます。	幅広い内容や力	、材の確保、機会	会の充実に努め
相手方	うの名称	公益財団	法人奈良市	7生涯学習	財団	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年	度(指定管	理者制度導	入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		614,771	決算	算額		590,167	(単位	: 千円)
事業の 概要・目的											レナッカー し
		域づくりに 民が健康7	つながる生 かつ豊かな	涯学習活 生活を送	i動を推進す ることができ	る。また、「	片民の生涯	進するととも 学習活動 <i>0</i>	に、学びの)拠点となる 	の成果が活力 る公民館を作	力ある地 管理し、市
		域づくりに 民が健康7	つながる生	:涯学習活	i動を推進す ることができ	る。また、「	方民の生涯 供する。	学習活動の)拠点となる	6公民館を行る公民館を行	管理し、市
概要		域づくりに 民が健康7 指 材	つながる生 かつ豊かな 票名	注注学習活生活を送り 生活を送り 利用者数	動を推進することができ ることができ ての増	る。また、「 る機会を提 年度	方民の生涯 供する。 H28	学習活動 <i>0</i> H29	O拠点となる H30	5公民館を ⁶ H31	管理し、市 H32
概要	・目的	域づくりに 民が健康7 指 材	つながる生 かつ豊かな	注注学習活生活を送り 生活を送り 利用者数	i動を推進す ることができ	る。また、「 る機会を提 年度 目標値	一供する。 H28 610,000	学習活動 <i>0</i> H29 620,000)拠点となる H30 630,000	公民館を行	管理し、市
概要	・目的	域づくりに 民が健康7 指 材	つながる生 かつ豊かな 票名	注注学習活生活を送り 生活を送り 利用者数	動を推進することができ ることができ ての増	る。また、「 る機会を提 年度	方民の生涯 供する。 H28	学習活動 <i>0</i> H29	O拠点となる H30	5公民館を ⁶ H31	管理し、市 H32
目標 平成 3	・目的	域づくりに民が健康な 指権 単 公多様なニー 公多世を いっこう とのいっこう かんしん かんしん かんしん いんしん いんしん いんしん いんしん いんしん	つながる生かつ豊かな かつ豊かな 漂名 位 事業に戻れた取 ここにた取	注注学習活生活を送れている。 利用者数 が施設・運動をである。 がを発行った。 がはないである。 はないでは、 はないではないでは、 はないではないでは、 はないではないではないでは、 はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	動を推進することができ ることができ ての増	る。また、「 表。 表。 表。 表。 表。 を、「、提 を を を を を を を で で で で で で で で で で で で で	FRの生涯 供する。 H28 610,000 591,696 トを指定管す もに公民館 つながりをj	学習活動の H29 620,000 610,304 理者と共有の管理運営 重視し、指別	H30 630,000 557,845 し、協議を行った。 定管理者と	H31 640,000 テいながら、 また、地域の情報共有	管理し、市 H32 650,000 市民の 課題を抽 に努め



総合点	67		総合	評価		В
(1) (1+ r 1 - r r r 2 + -	に算出 合は行政の	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
(※協働相手の評価が未記人の場合 点数を2倍して算出)	1611以()	90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	幅広い分野の団体と連携し、若年層へアプローチする事業を実施することができた。また、市民も多様なニーズに沿った事業を実施し、生涯学習の推進につながった。	市の所管課及び関係機関との連絡調整や協議を行い、市の方針に基づいた事業を実施することができた。
協働することで見えた課題や協働相手に対して求めることなど	協働相手が行政に依存せずに館運営ができるように、自立 化に向けた方策を共に検討する必要がある。	市民の多様なニーズに応える事業の計画・実施に向けて、より一層、情報共有を行っていきたい。

N -	10 + # 2	1.3-2-3-3-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2-2	<u> </u>							
No.	12 事業名	おはなし会	1							
部名 教育総	務部	四十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二								
	章	章 第2章		史・文化			2	② 子どもの読書活動の推進		
総合計画上の 位置付け	基本施策	2-03	生涯学習	ļ		展開方向				
	施策	2-03-02	図書館の	充実			子どもの読書活	動に関わる環境	の整備・充実に参	努めます。
相手方の名称	ボランティ	(P	-		協働事業の	の実施手法	共催			
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度		
平成30年度事業	予	算額		560	決争	算額		467	(単位:	千円)
	図 圭 舘 🗁	おいて「お	けわ! 今は	を開催』 公	*木の蒜ひ!	周かれ・た!	ナかし・パラ	ルジノアター	・人形劇ける	じた涌 [
事業の 概要・目的	て、物語を子どものが	などのすばら 建全育成を	うしさを伝え 図る。	を開催し、絵						
	て、物語を子どものが	などのすばら	っしさを伝え	え、子どもの						
概要·目的	て、物語を子どものが	などのすばら 建全育成を	うしさを伝え 図る。	え、子どもの						
	て、物語: 子どものf	などのすばら 建全育成を	らしさを伝え 図る。 参加人数	え、子どもの	想像力と豊	かな感性を	を育むととも	に、読書へ	の興味へと	導いて、
概要・目的	て、物語: 子どものf	などのすばら 建全育成を 標名	らしさを伝え 図る。 参加人数	え、子どもの	想像力と豊田の大学を関する。	かな感性を H28	と育むととも H29	に、読書へ H30	の興味へと H31	導いて、 H32
概要・目的	て、物語: 子どものf	などのすばら 建全育成を 標名	らしさを伝え 図る。 参加人数 参加	え、子どもの	想像力と豊 年度 目標値 実績値	+ H28 1,800 1,590	ド育むととも H29 1,800 1,446	に、読書へ H30 1,800	の興味へと H31	導いて、 H32



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 4 3 2	1 相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow$	│	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土住寺里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
で 少 ど あ き し ち ま た で ら り	で き 自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きしてきとももたちらとき	なしロジル	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
			33	34

総合点	67
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
点数を2倍1.て算出)	

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
		多くの子ども達に絵本の読み聞かせ、ストーリーテリングなどを通して、読書への興味を広げることができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	図書館が本来行うべき事業であるが、協働することにより、より多く開催できている。より多く利用者のニーズに 応えるためには、協働できる相手を増やしていく必要がある。	協働するにあたり、ストーリーテリングの勉強会などスキルを磨く機会などを多く作ってもらいた。

N.	10	± ** 5	+	11.12 2- 3	イギキ米						
No.	13	7-7-1	巾氏写古	サポーター	11111111111						
部名 教	女育総務	部		課名 文化財課埋蔵文化財調査センター							
総合計画上の 位置付け		章 第2章		教育·歴史·文化				① 文化財の保護・啓発			
		基本施策	2-04	文化遺産0	の保護と継	承	展開方向	文化財保護に関わるボランティア・市民活動などとの連携を促			シの連携を促
		施策	2-04-01	文化遺産0	の保存と活	用		進する。	42047271	/ IN POIL BOAC	C*>XE1)42 K
相手方の	2名称	寧楽考古	楽倶楽部			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の時	诗期	通年				事業開	始年度	平成21年	度		
平成30年度	度事業費	予算	算額		194	決争	草額		24	(単位:	千円)
				は、平成20							
事業 <i>0</i> . 概要・目		查•遺物整	理・展示な	、開・講演・記考古学を自	説明会等、 由な立場で	埋蔵文化原で楽しみなど	け調査セン がら学び、そ	ターが行う	考古学的調	查研究、係	存活用
		査・遺物整 事業に参	理・展示な	開・講演・請	説明会等、 由な立場で	埋蔵文化原で楽しみなど	け調査セン がら学び、そ	ターが行う	考古学的調	查研究、係	存活用
概要・目	目的	査・遺物整 事業に参	理・展示な	、開・講演・記考古学を自	説明会等、 由な立場で	埋蔵文化原で楽しみなど	け調査セン がら学び、そ	ターが行う	考古学的調	查研究、係	存活用
	目的	査・遺物整事業に参え う。	理・展示な	、開・講演・記考古学を自	説明会等、由な立場で	埋蔵文化原で楽しみなど で楽しみなどの の人員維持	け調査セン がら学び、 ⁴	ターが行う その活動を	考古学的課題じ文化財	を は は さ は き い ち と き く ち り た う り り り り り り り り り り り り り り り り り	保存活用 すしてもら
概要・目	目的	査・遺物整事業に参え う。	を理・展示なかます。	開・講演・記 考古学を自 市民考古サ	説明会等、由な立場で	埋蔵文化 で楽しみな の人員維持 年度	対調査セン がら学び、名 H28	ターが行うさ その活動を H29	考古学的調通じ文化財 田じ文化財 H30	香研究、保保護へ寄生 日本語へ寄生	R存活用 Fしてもら H32
概要・目	目的 #標 年度 日容	査・遺物整事に参う。 市の座・職場を平成30年	を理・展示ない。 地支援し、 位 位 は空間で、 は空間で、 でで、 でで、 でで、 でで、 では、 では、 でいる。 でい。 でいる。 。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でい。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 でいる。 でい。 でいる。 。 でいる。 でい。 。 でいる。 。 でい。 。 でい。 。 でい。 。 でいる。 。	開・講演・記 考古学を自 市民考古サ	説明会等、 由な立場で サポーター 毎習を 全を験にに加え 竟内に加え	理蔵文化は で楽しみなぶ の人 年標値 実動行当戦力 大きででで	対調査セン がら学び、名 H28 85 93 全策定し、過 その負責でも はと負責でも	ターが行う。 その活動を注 85 99 量物整理・展 事業ごとには 分後の方向。	考古学的 新通じ文化財 H30 100 106 最示公内容協 発生等を協	明査研究、係 保護へ寄与 H31 102	H32 104 と考古学見・要望



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
き し ち ま き な か で き と も き た	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	42	42

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
脚側によりて 単におれて	多彩な埋蔵文化財の活用事業について、職員と市民考古サポーターとの事前研修を行うことにより、お互い学び合い、専門性の高い活用事業を行うことができた。	発掘調査体験やハニワつくりの体験を通じて考古学の知識 が深まり、古代人の秀れた技能に感心するとともに、古墳 時代の労働力他への関心が深まった。
兄んに休起で励し	今後も協働の機会と内容の充実を図るため、業務内容の検 討を行うとともに、活用事業に応じた研修会を設定してい きたい。	

		Alle	/I. II l. 346 I								
No.	14		文化財講								
部名	教育総務	部		課名	文化財課						
#\A=\\\\\		章	章 第2章 教育・歴史・文化					① 文化財の保護・啓発			
	†画上の	基本施策	2-04	文化遺産	の保護と継	 承	展開方向	本民が本自の時	歴史文化を知る機	(今しわて ナル田	▶ 江田並及東紫
1立道	置付け	施策	2-04-01	文化遺産	の保存と活	用 用		の充実を図りま		元となる人工民	16日百尺爭未
相手力	うの名称	文化財関連団体、	公益財団法人奈月	良市生涯学習財団	団(都跡公民館)等	協働事業の	の実施手法	共催			
実施	の時期	年3回				事業開	 始年度	共催での	実施は平成	27年度から	<u> </u>
平成30	年度事業費	予算	算額		92	決算	算額		36	(単位:	: 千円)
事業の 概要・目的		市民に広ぐ 体験学習・			知し、理解と ナた講座を関		てもらい、	保護や活用	に積極的に	こ関わる契	機として、
						可性 タ 'ᢒ'。					
		指標	票名	協働での	実施回数	77 (庄 タ ゚┛。					
日垣	5 ts t=	指机	票名	協働での		年度	H28	H29	Н30	H31	H32
目標	票指標		票名				H28	H29 2	H30 2	H31 2	H32 2
目標	票指標				実施回数	年度					
平成 3	票指標 3 0 年度 日内容	単 従来実施し が完了した 験や、火か	位 している当 た大型登り ぶ入った窯	該事業の- 窯(登録有 こ薪をくべ	実施回数	年度目標値実績値で行った。。 がでいる。 をおいる。 をはいる。 をはい	3 3 3 歩膚山元窯 歩り窯の見等 を施した。都	2 2 2 保存会との 学や解説、 跡公民館と	2 3 協働では、 窯の入り口で この協働では	2 平成29年 シレンガで、 よ、公民館	度に修理 ふさぐ体 に隣接す



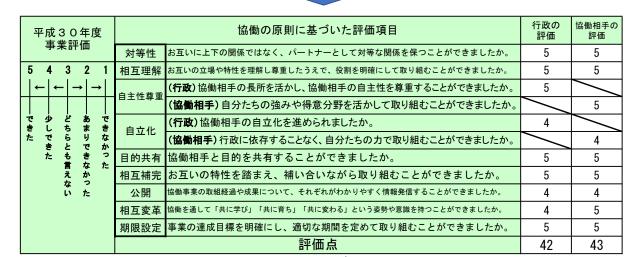
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きたっとも	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	41	41

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 は行政の

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	・赤膚山元窯保存会:登録有形文化財の登り窯を活用し、窯元の仕事を体験する講座を開催することで、地域の文化財や伝統工芸を知る機会を提供することができた。 ・(公財) 奈良市生涯学習財団 都跡公民館:市指定文化財の民家を活用して、昔のくらしを体験し、学ぶ機会を提供することができた。講座の開催経験が豊富な都跡公民館と協働で行うことで、円滑に講座を進めることができた。	・赤膚山元窯保存会:奈良に伝統工芸、産業があると広められた。また海外からの知名度も上がった。 (公財)奈良市生涯学習財団 都跡公民館:文化財についての基礎地意識や地域文化の継承や保護について、専門部署と協働したことで、市民の方々にその重要性や理解を深めてもらうなど、実施目的を果たすことができた。
見えた課題や協働相手に対して 求めることなど	・赤膚山元窯保存会:より多くの方に興味を持ってもらえるような護座の内容の検討が必要。参加者の年齢や人数に合わせて、当日の運営計画や説明内容など、事前の準備を十分に行っていきたい。 ・(公財)奈良市生涯学習財団 都跡公民館:ゆとりのある時間配分ができるように、講座内容について十分な打ち合わせが必要。隣接する市指定文化財を公民館の事業で使用してもらうなど、地域の文化財を活用する機会が増えるよう、今後も協力していきたい。	・(公財)奈良市生涯学習財団 都跡公民館:かまどでご飯を炊くという非日常的な体験に、受講生は大変満足していた。今後も旧田中家住宅に、市民の方々の心に残る催しを企画していくことで、文化財保護への理解につなげていきたい。そのために、連絡を密にし、協働を継続していくことが大切と考える。

No.	15	事業名	史料保存	館展示閣	車見学会						
部名	教育総務		~11/KI)	課名	文化財課						
ничн	4X H //L/1//			B1. E	2 1,2/1///				1.41 81 - 4	'D 5# 1 ⊒6 av	
終습計	画上の	章	第2章	0111	教育・歴史・文化			(1)	① 文化財の保護と啓発		
	付け	基本施策	2-04	> 41,010,00	の保護と継		展開方向			幾会となる文化財	活用普及事業
		施策	2-04-01	文化遺産	の保存と活	用		の充実を図りま	⁻⁹ •		
相手方	の名称	NPO法人な	ら・観光ボラン	/ティアガイ	ドの会「朱雀」	協働事業の	の実施手法	共催			
実施	の時期	年4回				事業開	始年度	平成28年	度		
平成30	年度事業費	予算	草額		2,566	決算	算額		2,562	(単位:	千円)
	業の ・目的	に対する知			わせた市内 保護の推進を		学と、史料係	保存館の展	示見学を行	fい、奈良 <i>の</i>	歴史文化
概要	・目的	に対する知	田識を深め	、文化財份	呆護の推進 を		学と、史料係 H28	R存館の展 H29	示見学を行 H30	fい、奈良の H31	歴史文化 H32
概要		に対する知 指 指	田識を深め	、文化財份 実施回数	呆護の推進 を	≥図る。					
概要	・目的	に対する知 指 指	票名	、文化財份 実施回数	保護の推進を	全図る。	H28	H29	H30	H31	H32
目標 平成 3	* 目的	に対する名 指体 単 ホームペーイ・ がランティ りの地を歩	中識を深め 票名 位 ・ジやしみ, アガイドの: く見学会を	、文化財代 実施回数 んだより、ご会「朱雀」の	保護の推進を	図る。 年度 目標値 実績値 解説保存を館 解職員の解	H28 1 1 1 イドツアー: の企画展示	H29 4 4 4 募集の記事 及び特別	H30 4 4 4 事を掲載し、 東列 なら。	H31 4 NPO法人な まち歳時記	H32 4 なら・観光 展にゆか



総合点	85		総合	評価		Α
行政・協働相手の評価点を合計して	算出 は行政の	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
(※協働相手の評価が未記人の場合 点数を2倍して算出)	11311100	90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

切倒ねての辛日

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	が 小* 付きツアーを通じて、展示だけでは得られない奈良の歴史の面白さを知ってもらえた。また活動を通じて、史料保存館の展示活動や奈良市の歴史資料の価値と継承の必要性について広く知ってもらう機会が得られた。	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	ツアー行程中における接遇均一化と見学先に関する情報の 共有化	毎回、本番実施前に下見や史料保存館での見学会などを実施して情報の共有化を図っているが、更に徹底して史料保存館との情報の共有化と質の高いガイドを目指したい

No.	16	事業名	上涇川麻	中早 公 咨 4	斗館(指定管	t抽)					
			工杯川庄	課名	文化財課	生)					
郡石 巻	教育総務	司)		誄名	又化知硃						
40 A =1 -		章 第2章		教育·歷史	史・文化			3	③ 文化財保存・展示施設の整備		
	合計画上の 立置付け 基本施策 2-04 文化遺産の保護と継承 展開方向		史料保存館など文化財保存公開施設の充実を図ります。								
	J .,	施策	2-04-01	文化遺産	の保存と活	用		文作体行路なる	. 文化的床行公:		凶りより。
相手方の	の名称	奈良市上	深川町自治	会		協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の	時期	通年				事業開	始年度	昭和53年			
平成30年度	度事業費	予算	算額		206	決集	算額		205	(単位:	千円)
重業(σ.	地域のする	ア財保を20	、盟施設と	して適切に気	奈理を行い	特に当該	地域の特色	5あろ文化目	けである臿፤	更無形 足
事業(概要・		俗文化財	「題目立」の)保存公開	して適切に管	運営を行う	0.				要無形民
		俗文化財)保存公開		運営を行う	の保存公開	肩、施設管 理	里に要する	∃数	
	目的	俗文化財	「題目立」の 票 名	重要無形	民俗文化財	運営を行う 「題目立」 年度	の保存公開 H28	用、施設管理 H29	里に要する H30	∃数 H31	H32
概要・月	目的	俗文化財	「題目立」の	重要無形	に寄与する	運営を行う 「題目立」 年度 目標値	の保存公開 H28 29	用、施設管理 H29 28	里に要する H30 52	∃数	
概要・月	目的 指標 〇年度	俗文化財 指植 単 「題目立」。	票名 位 か合同練習	重要無形	民俗文化財	運営を行う 「題目立」 年度 目標値 実績値 開館し、見:	の保存公開 H28 29 49 学希望者へ	引、施設管理 H29 28 50	里に要する H30 52 50	日数 H31 52	H32 52



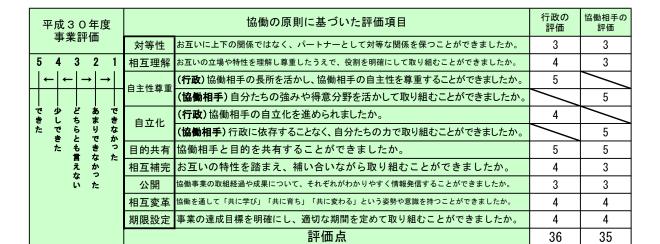
平成30年度 事業評価 一		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
争未計伽	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1 相	目互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
H.		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き [自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりなり	ᆸᅭᇿ	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	目互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
相	目互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
斯	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	A			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって	事業の目的である、地域の特色ある文化財の保存伝承に資するうえで、施設の所在する地域と当該文化財そのものを 象知する団体が、施設を管理し運営したことで、当該地域 の無形民俗文化財財の保存、伝承に効果を発揮することが できた。	建する貧料や装束などを保管して、後世に引き 継いでいくための活動の拠点施設を 市と協力
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	施設公開の機会の拡充、説明資料の充実など見学者への対 応をさらに充実させる。	来館者に対する応対や見学資料の作成、その他施設の活用について、さらに市と相談しながら進めていきたい。

No.	17	事業名	ならまちわらべうたフェスタ									
部名	観光経済	部		課名	奈良町に	ぎわい課						
		章	第2章	教育・歴史・文化				③ 伝統文化の普及と継承				
	計画上の 計付け	基本施策	2-05	文化振興	文化振興		展開方向		・ 及のために、市民	い伝統文化に角	虫れる機会を提	
		施策	2-05-01	文化の振	興	1		供する等の支援を行います。				
相手方	相手方の名称 文化団体・NPO・財団等			協働事業の	の実施手法	実行委員	会•協議会					
実施	実施の時期 10月				事業開	始年度	平成5年月	Ę				
平成30	年度事業費	予算	算額		1,732	決算	算額		1,732	(単位:	千円)	
	事業の 概要・目的 おらべうたは子どもたちによって遊びの中で伝えられ、それぞれの時代の子どもの様子や人々の文化 現されている。このわらべうたを貴重な無形文化遺産と位置づけ広く継承することと、「ならまち」の地域 化と文化振興を目的にわらべうたをベースとしたおまつりを開催する。											
		指標名		ならまちわらべうたフェ		1.14-1.5		6.1				
+ =		7	票名 ————	ならまちれ	っらべうたフェ					1		
目標	票指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32	
日份	票指標	単	票名 · ·位		つらべうたフ: 団体	年度 目標値	H28	H29	40	H31 45	H32 50	
平成 3	計標 3 0 年度 1内容		・ 位 のわらべうか	7		年度 目標値 実績値	H28 31 35	H29 32 35	40 31	45	50	

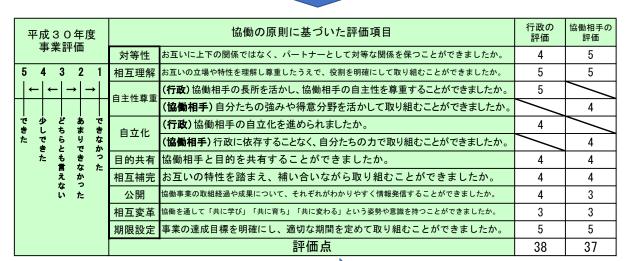


総合点	/1
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合評価								
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価					
90~76	75~61	60~46	45~32	31∼18					

	行政の意見	協働相手の意見
	当事業を継続するためには、企画のマンネリ化の打開を念 頭に置いた。新たな創意工夫と情報共有を図る必要があ る。	特になし

No.	18	事業名	奈良市西	部会館市」	ミホール (学	:園前ホー/	レ)の運営				
部名	市民活動	部		課名	文化振興語	課					
		章	第2章	教育•歴	史・文化			① 文化の発信と交流			
	計画上の ∄付け	基本施策	2-05	文化振興	ļ.		展開方向	市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文			
	21317	施策	2-05-01	文化の振	興			化政策を推進し		市氏との交流・)	単携を凶り、又
相手方	の名称	日本環境	マネジメント	株式会社	:	協働事業の	D実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度(指定管	理者制度導	入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		40,000	決算	算額		40,000	(単位:	: 千円)
西部会館市民ホール(学園前ホール)の設置により、市民の連帯感の育成と文化の向上を図るとともれあい豊かな地域社会づくりをめざす。 指定期間: 平成30年4月1日~平成35年3月31日 開館時間: 午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで) 休館日: 月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日 西部会館市民ホールの業務内容: ①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自主事業(コンサー演、文化講座など)											
		指標名 単位		来館者数の増加							
目標	票指標						H28	H29	H30	H31	H32
				人		目標値	40,000	38,000	38,130	38,750	39,375
						実績値	37,381	35,848	40,967		
	で成30年度 取組内容 指定管理を行う日本環境マネジメント株式会社と活発な情報交換、報告、助言に努め、効果的な施設運 を行った。							施設運営			

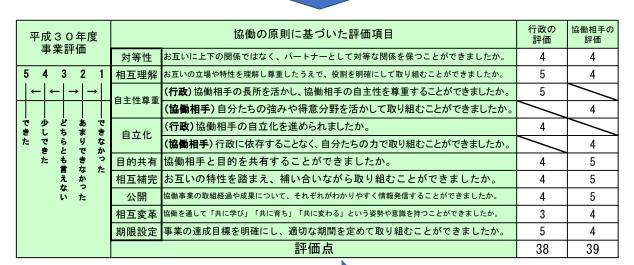


総合点	75		総合	評価		В
す政・協働相手の評価点を合計して (※投働相手の評価が表記入の場合	算出	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
(※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 複数を2倍して算出) ぱんしょ しゅうしゅう		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や 事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管 理や事業の企画運営をすることが出来た。	意見交換をする中で、新たな発見や気づきを得ることができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	もに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていく	市民に対し情報接触機会を増やすことが課題と考える。そのため事業計画を早目の段階で取りまとめ、告知広報へ反映できればと考える。

行(点

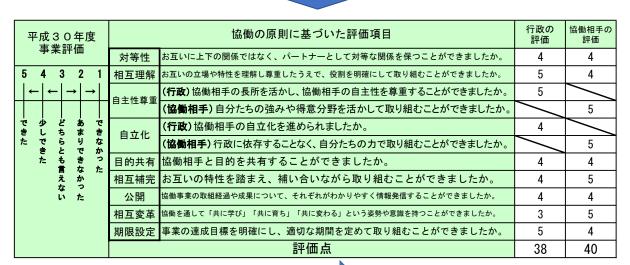
No.	19	事業名	北部会館	市民文化為	民文化ホールの運営							
部名	市民活動		7=111 = 1111	課名	文化振興語	 課						
		章	第2章	教育·歴史	史•文化			1	文化の発作	言と交流		
	計画上の 畳付け	基本施策	2-05	文化振興			展開方向		市民の文化活動・芸術活動の場の提供や、市民が文化に接する機会の拡充に努めるとともに、市民との交流・連携を図り、文			
17	± 13 17	施策	2-05-01	文化の振	興				-努めるとともに、 ます。 	市氏との交流・	単携を図り、又	
相手力	ちの名称	一般財団活	去人奈良市	5総合財団		協働事業の	の実施手法	指定管理				
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度(指定管	理者制度導	(入年度)	
平成30	年度事業費	予算	章額		32,200	決算	算額		31,163	(単位:	: 千円)	
北部会館市民文化ホールの設置により、市民の自主的な文化活動の促進、教養の向上図るとともに、市民の福祉の増進に資する。 指定期間:平成30年4月1日~平成35年3月31日開館時間:午前9時から午後5時まで(ただし施設の利用は午後9時半まで)休館日:月曜日、休日の翌日、12月28日から1月4日北部会館市民文化ホールの業務内容:①施設の貸し出し、②文化振興を図るための自講演など)						目主事業(ニ	o ak 1					
		415.44		+ &+ +/ */	- A 144 + H						ンザード、	
		指标	票名	来館者数	の増加	<i>+</i> +	1100	I 1100	1100	1104		
目標	票指標		·· -	,,,,,,		年度	H28	H29	H30	H31	H32	
目標	票指標		票名 位	,,,,,,	の増加	年度 目標値 実績値	H28 130,000 133,895	H29 134,000 128,036	H30 128,600 93,080	H31 130,700		
平成 3		単	位			目標値 実績値	130,000 133,895	134,000 128,036	128,600 93,080	130,700	H32 132,825	



総合点	77		総合	評価		Α
	算出	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
(※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	は1」以の	90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見		
協働によって 得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および施設利用者や事業参加者の意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企画運営をすることが出来た。	施設利用をするにあたり、理解をいただき、 様々な事業等を展開する事ができた。市のSN S等による広告発信により、イベントの増員に 繋がった。		
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	駅から近いアクセスの良さはあるもののベッドタウン地域であり、まだまだ会館に対する周知は不足していると感じる。市のHPや機関紙等で会館のアピールをお願いしたい。		

No.	20	事業名	入江泰吉	旧屋の運営							
部名	市民活動	7. 7. 1	八江水口	課名	文化振興	里.					
ньл					12 -1-47 +2 +1	<u>, ж</u>					
- 公本計	+画 F の	章 第2章		教育·歴史	4 2 11=			1	文化の発信		
総合計画上の 位置付け		基本施策	2-05	文化振興	-		展開方向	市民の文化活動	め・芸術活動の場 な好るとともに	易の提供や、市民 市民との交流・i	が文化に接す 車携を図り、文
		施策	2-05-01	文化の振	興			化政策を推進し		.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	2070117(21
相手方	うの名称	一般財団活	法人奈良市	7総合財団		協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成26年月	度(開館年)	变)	
平成30	年度事業費	予算	算額		10,500	決算	算額		5,497	(単位:	千円)
* .	** ^	もって奈良	を愛する心	ふを育むと	良を愛した ともに、文化 平成31年3月	の向上に貧		古で体行位	1用し、ての	未限ソ娯早	タで囚り、
	業の ・目的 	開館時間: 休館日:月 入江泰吉	: 午前9時半 曜日、休日 日居の業務	告から午後 日の翌日 5内容:①	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は			する事業の	開催	
		開館時間: 休館日:月	: 午前9時半 曜日、休日 日居の業務	生から午後! 日の翌日	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は公開、②入	江泰吉及で	ド写真に関			
概要	・目的	開館時間: 休館日:月 入江泰吉 指標	: 午前9時半 曜日、休日 旧居の業務	告から午後 日の翌日 5内容:①	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は			する事業の H30	開催 H31	H32
概要		開館時間: 休館日:月 入江泰吉 指標	: 午前9時半 曜日、休日 日居の業務	学から午後 日の翌日 5内容:① 来館者数	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は公開、②入	江泰吉及で	ド写真に関			H32 6,300
概要	・目的	開館時間: 休館日:月 入江泰吉 指標	: 午前9時半 曜日、休日 旧居の業務	学から午後 日の翌日 5内容:① 来館者数	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は公開、②入 年度	江泰吉及で	ド写真に関	Н30	H31	
田標平成 3	• 目的	開館時間: 外館日: 月入江泰吉 指相	: 午前9時半 曜日、休日 日居の業務 票名	台から午後 日の翌日 5内容:①日 来館者数	5時まで(た) 日居の一般:	だし入館は 公開、②入 年度 目標値 実績値	江泰吉及で H28 7,033	ド写真に関 H29 5,923	H30 6,100 7,387	H31 6,200	6,300



総合点	総合点 78			総合	評価		Α
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
点数を2倍して算出)	1141] 以(()		90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18
		•				_	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	所管課では把握しきれない施設の現状および事業参加者の 意見・ニーズを踏まえ、より効率的な施設管理や事業の企 画運営をすることが出来た。	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	十分な協議を行い目的や問題意識の更なる共有を図るとともに、連携を深め施設や事業の積極的な広報を行っていくべきと考える。	入江泰吉旧居の事業については、参加者多数の講座 もあるが、シリーズとしていつも参加者の集まりに くい講座については、今後事業担当者と意見交換を し、より良い事業にして行きたいと思う。

N.	0.1	± # 5	* A + >	1 -0- 38	₽1 Γ_L-+π +	п 👉 🖰 .					
No.	21	7.76	宗 艮 印 ノ 、		ェクト「古都社						
部名	市民活動	助部 課名 文化振				課					
		章	第2章	教育·歴史	史・文化			4	「東アジア文化都	市」事業主旨に基	づく施策の実践
総合計画、		基本施策	2-05	文化振興	Ļ		展開方向	文化庁との共催	事業である「東	アジア文化都市」	事業をけじ
位置付け		施策	2-05-01	文化の振	興			め、文化でまち	を豊かにする施	策を推進します。	7 /4 /4 /4 /4
相手方	の名称	奈良市アー	ートプロジェ	-クト実行す		協働事業の	の実施手法	実行委員:	会・協議会		
実施0	の時期	通年				事業開	始年度	平成29年	度		
平成30年	年度事業費	予算	算額		16,004	決争	算額		10,732	(単位:	千円)
		「東アジア	文化都市2	016奈良市	 おしの成果を	引き継ぐた	め. 平成28	8年12月に「	奈良市アー	-トプロジェ	クト実行
事 数要·	14	委員会」を めることに	r立ち上げ、 なりました。	社会課題	万」の成果を すをアートによ	こって掘り下	ドげ、新たな	8年12月に「 な価値につか	奈良市アーなげていくか	-トプロジェ: とめの取り約	クト実行 且みを進
	14	委員会」を めることに	立ち上げ、	社会課題	方」の成果を をアートによ	いと良いの	合計)	金価値につか	なげていくク	こめの取り約	1みを進
概要・	14	委員会」を めることに 指 材	・立ち上げ、 なりました。 票名	主	をアートによ	いと良いの 年度	ドげ、新たな	た価値につ ^が H29	なげていく1 H30	ための取り約 H31	日みを進 H32
概要・	·目的	委員会」を めることに 指 材	r立ち上げ、 なりました。	主	iをアー トによ	いと良いの 年度 目標値	合計)	た価値につか H29 80	はけていくた H30 80	こめの取り約	1みを進
概要・	指標 0年度	委員会」を めることに 指 材 単 奈良市ア- た。	r立ち上げ、 なりました。 漂名 位 一トプロジェ 子委員会の	事業満足 ニクト「古都	をアートによ	いと良いの 年度 目標値 実績値 業を進める	合計) H28 にあたって	A価値につか H29 80 88 88	H30 80 87 会と協議し	H31 80 ながら事業	H32 80 を実施し



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
争未計価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	3	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	2	
たでらりなきとでか		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
たもきなた	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	3
ロス たった なった	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	3
		評価点	31	30

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	本事業の実行委員会は事務局を市におくものの、実行委員会やプログラムディレクターの意見をもとに運営している。 そのため、現在のアートシーンを反映した企画が実施されており、著名な作家・芸術家の参加なども実現している。	中の企画として美施することで、教育会員会や地区在協などの団体協力が得やすい。 また、 た報節にないても 古族語などを通じて周知を行うこ
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	企画によっては専門性が高く市民に伝わりにくい内容となることがある。企画意図を平易に伝えるよう、実行委員会において工夫が必要である。	事業における将来的なビジョンが明確でなく、単年度の事業実施を繰り返しているように感じる。 今後、計画的な事業展開が必要である。

No.	22	事業名	太白 士却	がおおい	ターの運営	·,					
			宗民川仰/				L-A L-→ rra+ -bm				
部名	市民生活	部課名都祁行政センター地域振興課									
		章	第2章	教育•歴史	で文化			1	文化の発信	言と交流	
	画上の	基本施策	2-05	文化振興			展開方向	吉見の女ル活動,芸	5子動の根の根件の	市民が文化に接する機	シャン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン・マン
位置付け		———— 施策	2-05-01	文化の振り	興				fi・連携を図り、文化政		(XV)(A)(L)(-5-0)(3)
+0	0 7 Ib	én altra	<u> </u>	+ 600 A BLE	7	15 51 = 34		#\^ \d-> \tau\tau = \tau			
	の名称	70 0 11 11	医人 佘艮	市総合財団	<u>1</u>		の実施手法	指定管理			
実施の	の時期	通年				事業院	始年度	平成18年度	(指定管理者	制度導入年度	ŧ)
平成30年	年度事業費	予算	草額		30,000	決集	算額		29,923	(単位:	千円)
		t. □		11 - 12622 5				\h. \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			III
事 概要·	業の ・目的	市民の文化施設の管理		祉の増進を	を図るとともん	こ、地域間	・世代間交	流を促進す	るための文	に化活動の抗	処点となる
		施設の管理		祉の増進を		こ、地域間	・世代間交	流を促進す	るための文	に化活動の抗	処点となる
概要	• 目的	施設の管理	理を行う。			こ、地域間	•世代間交 H28	流を促進す H29	でるための文 H30	C化活動の H31	拠点となる H32
概要		施設の管理	理を行う。	利用者数							
概要	• 目的	施設の管理	理を行う。 票名	利用者数	の増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標 平成3	• 目的	施設の管理を表現しています。 おおまま おまま おまま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ま	理を行う。 票名 位	利用者数の	の増	年度 目標値 実績値	H28 16,000 20,456	H29 16,100 19,484	H30 16,200 19,521	H31 16,300	H32 16,400



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕守里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で少どあできしちまき	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
たでらりなきとでか	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
たもきった	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
ロえ かっな	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	_	_
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	32	33

総合点	65	
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)		

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
得られた効果		奈良市東部山間地域の各種団体の協力によって幅広い年齢 層や市民との交流の場として様々な事業展開が出来た。
	住民ニーズや満足度は複雑化、多様化しており、この変 化に対応していくため、環境や地域経済、社会福祉等に配 慮した持続可能な自主事業の強化を図る。	文化施設と体育施設の統一した管理運営ができる法整備の 推奨

No.	23	事業名 奈良市都祁生涯スポーツセンターコート等4施設の運営									
部名	市民活動	部		課名	スポーツ振	長興課		<u> </u>			
		章	第2章	教育·歴史	史・文化					_	
	計画上の 置付け 基本施策 2-06		2-06	スポーツ	振興		展開方向				
	11117	施策	2-06-01	スポーツ	の振興					-	
相手方	うの名称	一般財団	法人 奈良	市総合財	方総合財団 協働事業 (指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	l始年度	平成22年	度(8月供月	用開始)	
平成30	年度事業費	予算	算額		9,900	決算	算額		9,706	(単位:	千円)
	業の ・目的	運営を行う) ₀		で明るく豊か	な生活を営	さむことがで	きるよう、安	全・安心な	スポーツ施	設の管理
		運営を行う		しみ健康で 利用者数							
概要		運営を行う	· 票名	利用者数	で増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要	・目的	運営を行う) ₀	利用者数		年度目標値	H28 19,500	H29 20,000	H30 20,500		
概要	・目的	運営を行う	· 票名	利用者数	で増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標 平成 3	・目的	運営を行う 指植 単 案内パンスすい自主	票名 位 フレット等を事業を展開	利用者数配布し、利用を表し、その活	で増	年度 目標値 実績値 をび利用者であります。	H28 19,500 15,711 の地域拡大 集めた意	H29 20,000 17,731 大を図った。	H30 20,500 17,268 まただれて 今後の自主	H31 21,000 でも気軽にざ 事業内容を	H32 21,500 参加しや と検討し



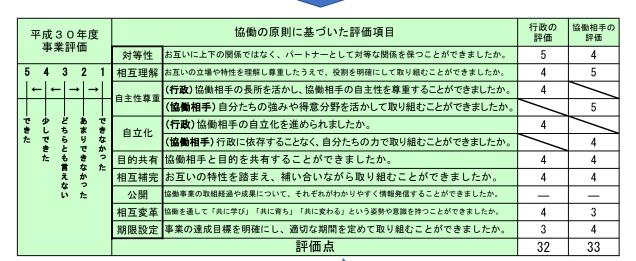
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価		
事表評価 	事業評価 対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか		5			
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5			
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4			
	日土性导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。				
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4			
きしちまきなかったもきたも	日立几	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。				
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4			
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4			
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4			
	期限設定	用限設定 事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。				
		評価点	37	0		

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	地域性を考慮した施設運営を行うことができた。	地域のスポーツ団体の活動や合宿での利用など利用率の向上に繋げることができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	近隣施設と合宿等のスポーツツーリズムを進めるにあた り、連絡調整が難しい面がある。	大会などの事前予約について、調整が必要なところがあ る。

No.	24	事業名 奈良市都祁体育館の運営									
部名	市民生活		77.72.1.1	課名	都祁行政	センター地	域振興課				
		章	第2章	教育•歷	教育•歷史•文化			② 生涯スポーツの推進			
	十画上の ^{置付け}	基本施策 2-06		スポーツ			展開方向			7,44	
14000	11寸1ブ	施策	2-06-01	スポーツ	の振興						
相手方	の名称	一般財団法人 奈良市総合財団 18				協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の	の時期	通年				事業開	l始年度	平成18年度	(指定管理者	制度導入年)	
平成30:	年度事業費	予算	算額		6,300	決算	算額		5,374	(単位:	: 千円)
事業の 健康で生きがいを持って 概要・目的 を維持・推進できるよう安					とるよう、生涯	スポーツ宣	宣言地域とし		ノ・レクリエー	ーションを通	じて健康
概要 ————	・目的			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		ソ施設の管	理運営を行	デ う。 			
概要 	・目的		進できるよ 票名	う安全・安利用者数							
	• 目的	指标	票名	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	女の増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
		指标		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		年度 目標値	H28 6,300	H29 6,400	10,100	H31 10,200	H32 10,300
		指标	票名	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	女の増	年度	H28	H29			
目標平成3		指体単	票名 位	利用者数	女の増	年度 目標値 実績値	H28 6,300 9,072	H29 6,400 10,059	10,100 8,542	10,200	10,300

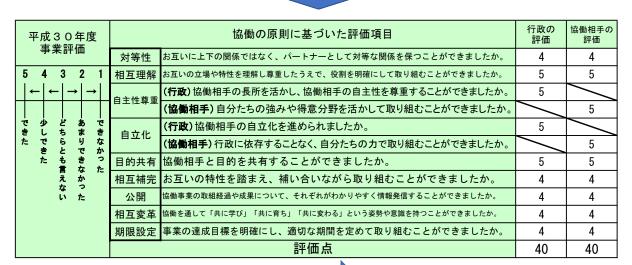


総合点	65
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
(水) 励動性子の計画が不能人の場合 占数を2倍 で質用)	1141]以(()

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	携により利用促進を図ることができるなど、地域性を考慮した状況の第四次党を行うことができます。	担当課の推奨もあり、奈良電子自治体共同運営システム施設予約サービスを導入することで、奈良市以外の団体・個人の利用が増加した。市内体育施設としての知名度は得られたので、一定の成果はあった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	地域のスポーツ施設の拠点として、自主事業を積極的に 行い自主運営の強化を図る。	文化施設と体育施設の統一した管理運営ができる法整備の推奨

No.	25	事業名	地域福祉	活動の支持	淫事業						
部名	福祉部	予末11	地次曲血	課名	福祉政策	課					
нгы	IIII IIII III		****	B1. E		VIX		I 6	11.144-11.	T = 1 = 14 14	
総合計	†画上の	章	第3章	保健福祉				2	地域福祉	舌動の推進	
	付け	基本施策	3-01	地域福祉			展開方向	■地域ことに1F放	まする地域福祉? 発働して推進しま	新計画の策定を	·奈良市社会
		施策	3-01-01	地域福祉	の推進			価性励議会と助	が馴して推進しま	9 .	
相手方	うの名称	地区社会	福祉協議会	È		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成16年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		0	決集	<u></u> 算額		0	(単位:	千円)
		抽械往足/	民の立場から地域特性にあった「地域福祉活動計画」を作成し、住民の福祉活動への理解やみよい生活環境づくりを実現する。現在46の地区社会福祉協議会があり、住民自治に根ざしたでいる。と行政の対等なパートナーシップのもと、連携・協働による福祉のまちづくりをめざす。						の名がある		
	業の ・目的	促し、住み	よい生活野 可政の対等	環境づくりを なパートナ	を実現する。	現在46の5もと、連携・	地区社会福・協働による	i祉協議会2	があり、住民	と自治に根る	解や参加を ざした地
概要	・目的	促し、住み 域住民と行	よい生活野 可政の対等	環境づくりを なパートナ	を実現する。 ーーシップの	現在46の5もと、連携・	地区社会福・協働による	i祉協議会2	があり、住民	と自治に根る	解や参加を ざした地 H32
概要		促し、住み 域住民と行 指植	よい生活野 可政の対等	環境づくりをないペートナ	を実現する。 ーーシップの	現在46のはもと、連携・	地区社会福・協働による	祖協議会が福祉のまた	があり、住民 らづくりをめ	さす。	ざした地
概要	・目的	促し、住み 域住民と行 指植	よい生活野	環境づくりをないペートナ	を実現する。 ーーシップの 上活動計画の	現在46の もと、連携・	地区社会福 ·協働による 数 H28	社協議会 福祉のまた H29	があり、住民 らづくりをめ H30	H31	ざした地 H32
目標 平成 3	・目的	促し、住み域住民と行 域住民と行 指植 単 地区社協等	よい生活野 テ政の対等 票名 位 等の地域福 ができるよう	環境づくりるない。 なパートナ 地域福祉 よ	を実現する。 ーーシップの 上活動計画の	現在46のもと、連携 策定地区 年度 目標値 実績値	地区社会福 ・協働による 数 H28 20 20 共通の目標	H29 26 25	があり、住民 らづくりをめ H30 32 31 画的に福祉・	H31 38 のまちづくり	H32 46



総合点	80			総合	評価		Α
	算出 は行政の	"	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
点数を2倍して算出)	11411政()		90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	市社協を通じて、市社協の地区担当者と地区社協等活動者が地域における福祉課題の解決に向け議論・協議を行い、一部の地域で地域福祉活動計画を作成することができた。	地域福祉活動計画を推進する上で、行政・市社協・ 地域住民(地区社協)が協働するために、市社協と 当該課との協議や、地区社協会長会を通じた行政と の協議の場で地域課題や行政施策等の情報共有・協 議を図ることができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	市社協を通じて未策定の地域については、今後も地域の福祉課題解決に向けた議論・協議が必要と考える。	複雑・多様な今日的な地域課題を解決していくためには行政内の縦割りをなくし、組織横断的な協議の場の設定や制度の狭間の福祉課題に対応するためにも課題解決に向けた組織横断的な庁内の連携体制が必要である。

Na 00	古米 力	* 5 + 0	、海岩丸に	n /h _ n \'T	274					i
No. 26	事業名	余 艮甲月	1	ンターの運						
部名 福祉部			課名	長寿福祉						
	章 第3章 保健福祉					③ 地域福祉推進体制の充実				
総合計画上の 位置付け	基本施策	3-01	地域福祉			展開方向	地域福祉技	#進に係る	各種団体と	の連携を
江直刊()	施策	3-01-01	地域福祉	の推進			充実します			1,2,7,2
相手方の名称	(福)奈良	市社会福祉	上協議会		協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成22年月	度(指定管理	里者制度導	入年度)
平成30年度事業費	予算	算額		29,200	決算	車額		28,906	(単位:	千円)
事業の 概要・目的	市民の福	祉活動の振		康の増進を	図り、市民	の福祉の向]上に資する	5.		
	指	票名	利用者数	の増						
目標指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
口1示1日1示	単	.位		人	目標値	25,500	25,600	25,700	25,800	25,900
					実績値	25,248	24,254	22,206		
平成30年度 取組内容				康の増進を 祉センター(祉の向上に	資するため)、指定管理	里で、奈良



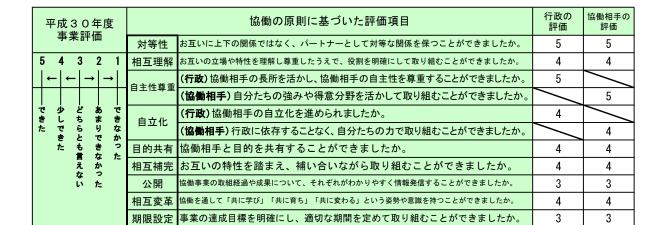
	平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目 対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		協働相手の 評価
	事業評価	対等性			5
	5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	$\left \leftarrow\right \leftarrow\left \rightarrow\right \rightarrow\left $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
	き 少 ど あ でき しち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
1	とでらりな	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	き と で か た も き っ 言 な た	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
	ロえ かっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
	いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
		期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
			評価点	36	36

総合只	12
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

		В		
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

		行政の意見	協働相手の意見
	動によって られた効果		行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解 決ができ、良好な地域環境を維持することが出来るように なった。
見え 働相	.た課題や協 手に対して	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

No.	27	事業名	事業名 奈良市都祁福祉センターの運営								
部名	福祉部			課名	課名 長寿福祉課						
		章 第3章 保健福祉				③ 地域福祉推進体制の充実					
	↑画上の 畳付け	基本施策		地域福祉	:	展開方向		地域福祉	性進に係る	各種団体と	の連携を
加度	担刊17	施策	3-01-01	地域福祉	の推進			充実します	0		.,
相手力	ちの名称	(福)奈良	市社会福祉	Ŀ協議会		協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成22年	度(指定管理	理者制度導	入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		32,700	決算	算額		32,694	(単位:	千円)
	業の ・目的				康の増進を	図り、市民	の福祉の向]上に資す	5.		
		指标	票名	利用者数	の増						
日標	票指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
"		単位		人		目標値	30,100	30,200	30,600	30,700	30,800
						実績値	23,412	25,950	25,844		
平成3	0.0左曲			*****							
取組	10年度 11内容				康の増進を 祉センターの			祉の向上は	で資するため)、指定管理	里で、奈良



評価点

l	総合点	72
	行政・協働相手の評価点を合計して	
	(※協働相手の評価が未記入の場合 占数を2倍して質出)	は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

36

36

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果		行政と協働することで、単独では出来ないことへの課題解 決ができ、良好な地域環境を維持することが出来るように なった。
見えた課題や協	行政と奈良市社会福祉協議会および地域組織と情報の共有を行い、互いの組織で出来ることを確認し補う等の役割分担を行い、今後も地域の福祉課題を解決できるよう取り組んでいく必要がある。	地域福祉をより推進するために、各関係機関と地域組織のネットワーク作りを行っていく必要がある。行政には各関係機関と協働するための協議の場作りに対する支援等を行ってもらい、より関係が密になるよう取り計らってもらいたい。

No.	28	事業名	事業名 奈良市子ども会議開催事業								
部名	子ども未え	 夫部		課名 子ども政策課							
総合計画上の 位置付け		章 第3章 保健福祉				② 子育て中の親子の居場所で					
		基本施策	3-02	子育て			展開方向		子育てに関する情報について広く周知し、子育て世代が奈良		
		施策	3-02-01	子育て支	援の推進			市に住みたい、	住み続けたいと	感じるまちづくりる	を目指します。
相手方	の名称	市民(原則	月10~17歳	の子ども)		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施0	の時期	通年				事業開	l始年度	平成27年	度		
平成30年	年度事業費	予算	算額		900	決算	算額		664	(単位:	千円)
		「奈良市子	ンとにやさ	しいまちつ	づくり条例」に	ナーインもた	ちが今を幸	をせに生きる	ることができ	、将来に夢	レ希望を
事 期要 •		もって成長	していける	らように、子	ども参加に。が意見表明	よって大人	とともにまち	づくりを進		目的とする。	そのため
		もって成長この条例で	していける	らように、子 ハる子ども:	ども参加に。	よって大人 をし、参加・	とともにまち する場とし ^っ	っづくりを進 て「奈良市-	子ども会議」	目的とする。	そのため
概要・	• 目的	もって成長この条例で	としていける ご規定してい	ように、子 ハる子ども: 奈良市子	ども会議を	よって大人 をし、参加・	とともにまち する場とし ^っ	っづくりを進 て「奈良市-	子ども会議」	目的とする。	そのため
概要・		もって成長 この条例で 指 材	としていける ご規定してい	ように、子 ハる子ども: 奈良市子	ども参加に。 が意見表明	よって大人 をし、参加 加者の意見 年度 目標値	とともにまち する場として 記表明に対 H28 80	oづくりを進 て「奈良市= する満足度 H29 85	子ども会議」 H30 90	目的とする。 を開催する	そのため
概要・	• 目的	もって成長 この条例で 指 材	していける ご規定してい 票名	ように、子 ハる子ども: 奈良市子	ども会議を	よって大人 をし、参加 加者の意見 年度	とともにまち する場として 見表明に対 H28	oづくりを進 て「奈良市- する満足度 H29	子ども会議」 H30	目的とする。 を開催する H31	そのため 。 H32
概要・	· 目的 指標 O年度	もって成長 この条例で 指 指 単 4回目とな の公園の 動	していける で規定してい 票名 位 る「奈良市	会会で、子 奈良市子 会会でも、 奈良市子 子ども会議 で、この公	ども参加に。 が意見表明 ども会議参 % 場」では話して 園に地元の	よって大人加 加者の意見 年度 目標値 実績値	とともにませ する場とし ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	がくりを進 て「奈良市ー する満足度 H29 85 80.1	子ども会議」 H30 90 79.7	H31 95 丁目緑地と	そのため つ。 H32 100



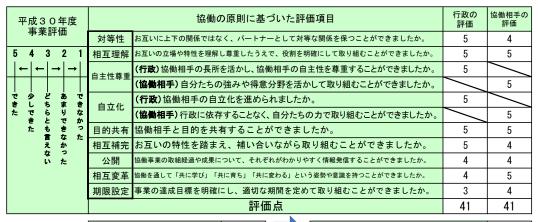
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことが		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きたちちょきなかったも	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	3	
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	2	
		評価点	37	0

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合	合は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	子ども参加者から「子どもにやさしいまちづくり」に関して「子どもの遊び場」をテーマに多くの意見をいただき、それらの意見を参考に社会実験イベント「まちの食卓」を開催するなど、子ども参加者の意見を奈良市の施策に反映させることができた。	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	奈良市の子どもが自主的及び自発的に参加し取り組んでもらえるように、どのようにして子どもたちの関心を高めていくかが課題である。	

No.	29	事業名	子育て親-	子の集える	場の提供						
部名	子ども未え	来部	7 17 102	課名	子ども育成	 					
章		章	第3章	保健福祉				2	子育て中の	り親子の居	場所づくり
総合計画上の 位置付け		基本施策	3-02	子育て			展開方向		を流の促進や育り 支援活動の取組		
76	.13.7	施策	5 3-02-01 子育て支援の推進			を図ります。	· 又1友/白劇// / JX批	1亿 作與作品 P J V C 1 J V	、争来の元英		
相手方	の名称	子育て支援団体(社会 地区民生児童委員協	会福祉法人、NPO法 3議会・地区社会福祉	(等) 協議会等		協働事業の	の実施手法	委託			
実施の	の時期	通年またに	は月1・2回			事業開	始年度	平成5年度	Ē		
平成30年	年度事業費	予算	草額		136,380	決犯	算額		132,619	(単位	: 千円)
	集の										
概要	●目的	相談及び 子育て支持 指標	爰活動を実	施する。	子育で関連の親子の集				文援に関す	る講習等の	か多様な
		子育て支持	爰活動を実	施する。					文援に関す 	る講習等の H31	かる様な H32
	指標	子育て支持 指権	爰活動を実	施する。		える場の利	川用者数の地	曽 加			
		子育て支持 指権	爱活動を実 票名	施する。	の親子の集	える場の和 年度	川用者数の H28	普加 H29	H30	H31	H32
目標平成3		子育て支持 指林 単 子育て新	漂名 位 記子の集える	施する。 子育て中 人(年間 る場におい	の親子の集	える場の和 年度 目標値 実績値 子育で支援	川用者数の H28 151,000 159,359 受活動を実	着加 H29 164,000 160,874 施し、地域	H30 177,000 156,996	H31 190,000 もの育ち・*	H32 190,000



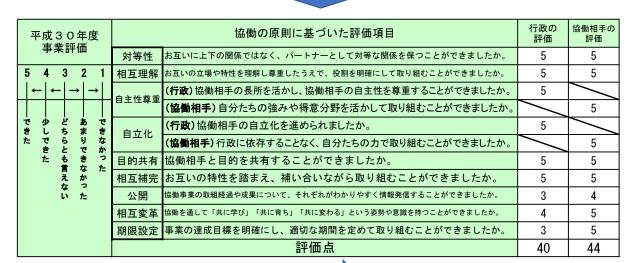
総合点 82

行政・協働相手の評価点を合計して算出
(※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 自数を2位して算出)

	総合	評価		Α
A 評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	点数を2倍して算出)		90~76	75~61	60~46	45~32	31~18
	行政の意見			協	働相手の意	見	
協働によって 得られた効果	子育て支援団体、地区社会福祉協議会について様々な資源を持つ団体の特色を活かし、市民ニに応じた子育て支援を行うことができた。地区民生児童委員協議会については、地域に表積極的に子育て支援に関わることができた。	たけ、 たっぱ、 たっぱ、 たっぱい たっぱい たっぱい たっぱい たっぱい たっぱい たっぱい たっぱい	・た・が・の・し・し・様。子低そ二子な重て連れ一方が篤保会ないである。不なぞズでらな係会ないである。	多 ご かなご業題関を を ご かなご業題関を を ゲ 市拠にゲー変のと連期	て が が が が が が が で で を を に に に に に に に に に に に に に	ムースでは、 接者の専民となった。 とでった。これで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないでは、ないでは	性が高な垣根で、拠点とをからなって、地がでをからなった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対しな 求めることなど	全ての利用者について、各団体の持つ特色を活た形での地域貢献を求める。	野かし ! !	・見・点・・・見・点・換点のり間・点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が現場に足る。といいまれば、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	を運び、実際 浦助金を増額 しい。 内容や質の評 品議しながら	「修を行うで見います」である。 で現場をするのでである。 では、できますが、できます。 では、できますが、できます。 できますが、できますが、ある。 できまずが、ある。	たうえで意 しやすい拠 。 たい。

No. 30	事業名 子育て支援アドバイザー										
部名 子ども未	来部		課名	課名 子ども育成課							
	章 第3章						(5)	⑤ 子育ての相談窓口			
総合計画上の 位置付け	基本施策	3-02	保健福祉 子育て			展開方向	子育て親子にと	子育て親子にとって身近な場所で、子育てに関する相談や情			
12001017	施策	3-02-01	子育て支	援の推進				報提供を行うとともに、関係機関と連携し、子育て支援の機能 強化を図ります。			
相手方の名称	個人ボラン	ケィア及し	ド子育て支	援団体	協働事業の	の実施手法	委託				
実施の時期	随時				事業開	始年度	平成18年	度			
平成30年度事業費	予算	算額		1,224	決算	算額		1,224	(単位:	千円)	
事業の	地域の子育て経験豊かな市民を「子育て支援アドバイザー」として登録し 育てに関する相談、助言、情報提供を行い、親の育児の負担感や不安感を 遊び、親子体操等、子育て支援アドバイザーができる範囲で支援を行う。 なお、事務の効率化及び事業内容の充実を図るため、子育て支援の経験: 援拠点事業の実施団体に、事業を委託している。						つる。また、絵	本の読み聞	かせ、手		
概要・目的	なお、事務 援拠点事業	の効率化 の実施団体	及び事業内本に、事業を	容の充実を を委託してい	図るため、子 る。	青て支援の		スタッフが在	籍する地域	:子育て支	
概要・目的	なお、事務 援拠点事業	务の効率化	及び事業内本に、事業を	容の充実を	図るため、子 る。 ボーの派遣	一育で支援の回数	経験豊富な				
概要・目的	なお、事業援拠点事業	客の効率化 との実施団体 票名	及び事業内体に、事業を	容の充実を1と委託してい 接アドバイナ	図るため、子 る。	- 育で支援の 回数 H28	経験豊富な H29	H30	H31	H32	
	なお、事業援拠点事業	の効率化 の実施団体	及び事業内体に、事業を	容の充実を を委託してい	図るため、子 る。	- 育で支援の 回数 H28 500	経験豊富な H29 500	H30 500			
	なお、事業 援拠点事業 指権 単 アドバイザ・ 会等を実施	等の効率化が での実施団体 標名 位 一の活動内: し、アドバイ 重団、体に委言	及び事業内本に、事業を 子育で支 子育で支 座 容を3区分り	容の充実を1と委託してい 接アドバイ・ 国数 こ分類し、依 との交流・連 り効率化と事	図るため、子 ボーの派遣 年度 目標値 実績値 頼元の深めた	回数 H28 500 552 ズに沿ったi 。また、引き	H29 500 537 派遣を行うと続きアドバー	H30 500 500	H31 500 子育で支援	H32 500	



総合点	84			総合	評価		Α
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
点数を2倍して算出)	1161] 政の		90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18
		•'					
行政の意見	Į.		協働相手の意見				

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	個人ボランティアについて、地域の子育で支援に関わることにより、子育て親子の孤立化や、育児不安・負担軽減ができた。 子育て支援団体について、団体の持つ資源を事業に活用することができた。	運営上の困りごとが発生したときに、一緒に対応にあたることができた。
見えた課題や協働相手に対して	個人ボランティアについて、アドバイザーとしての活動を契機に、他の事業への協力も求める。 子育て支援団体について、派遣するアドバイザーに 偏りがないよう求める。	

Na 01	古米力 -	7211	.11-12 1 .	トン・カー 古さ	11/4					
No. 31	7.76.1	ノアミリー・	リー・サポート・センター事業 コスピック 古中部							
部名 子ども未	来部		課名	子ども育成	え 決					
	章	章 第3章 保健福祉					③ 子どもの預り			
総合計画上の 位置付け	基本施策	3-02	子育て			展開方向	多様化する家庭環境に対応するため、保護者が一時的に子ど			
1年1717	施策	3-02-01	子育て支	援の推進			もの養育が困難 できる子育て支持			預けることが
相手方の名称	個人ボランプ	ニュマエィド	士士太江	計・ナフ 汁 !	おほま業	の実施手法	委託			
	11 12 1 1	ノイノ及い	田内 (福)	助りる伝入	1335 1-55 3 514		2111	<u> </u>		
実施の時期	随時				2 -141/	始年度	平成16年月	<u> </u>		
平成30年度事業費	予算	.額		10,782	決	算額		9,149	(単位:	千円)
	事業の							録〕児童		
事業の 概要・目的	の放課後のうなお、事業	預かりや保	育所等の追	を迎等で育児	の援助が必			相互の援助	活動を行って	ている。
2 212 - 7	の放課後のうなお、事業	預かりや保 の運営にイ	育所等の説 ついては、『	を迎等で育児	の援助が必公及び事業の	内容の充実を	と図るため、「	相互の援助	活動を行って	ている。
概要・目的	の放課後のうなお、事業る。	預かりや保 の運営にイ	育所等の説 ついては、『	送迎等で育児 事務の効率化	の援助が必公及び事業の	内容の充実を	と図るため、「	相互の援助	活動を行って	ている。
	の放課後のうなお、事業る。	預かりや保 の運営に 2 名	育所等の送 ついては、『 ファミリー	送迎等で育児 事務の効率化	の援助が必定及び事業を	内容の充実を	図るため、京動件数	相互の援助されて活動で	活動を行ってする法人に多	でいる。 委託してい
概要・目的	の放課後のうなお、事業る。	預かりや保 の運営に 2 名	育所等の送 ついては、『 ファミリー	送迎等で育児 事務の効率化 ・サポート・1	の援助が必	内容の充実を 相互援助活 H28	図るため、i 動件数 H29	相互の援助 市内で活動 [・] H30	活動を行って する法人に多 H31	でいる。 委託してい H32
概要・目的	の放課後のうなお、事業る。	預かりや保の運営になる	育所等の送っいては、『ファミリー	送迎等で育児 事務の効率化 ・サポート・1 件 F10月から、5	の援助が必 で を を を を を を を を を を を を を	日互援助活 H28 7,000 6,695 産後の家庭	動件数 H29 7,000 6,682	相互の援助 市内で活動・ H30 7,000 7,288	活動を行ってする法人に多 する法人に多 H31 7,000	H32 7,000



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
き し ち ま き な た き と き さ た も き	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
		評価点	40	45

ı	総合只	85
ı	行政・協働相手の評価点を合計して	算出
ı	(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
ı	点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	個人ボランティアについては、相互援助活動を行うことで、地域コミュニティの活性化につながった。 市内で活動する法人については、法人の持つ資源を 事業に活用することができた。	平成30年10月より「エンゼルサポート」「利用料助成」などの援助が加わり、行政とも相談することが増え、互いの立場も理解し尊重しあえる関係になってきたと思います。他機関との連携もスムーズに行えるようになってきました。
兄えに誄越や協	依頼会員数は増加傾向にあるものの、対応する援助 会員数が伸び悩んでいるため、今後も確保に努める 必要がある。	ファミリーサポート事業が、今後幼児教育無償 化の対象になることなどもふまえ、より深い結 びつきや、連絡のタイムロスなどがないよう、 密に連絡を取り合っていきたいと思います。

No.	32	事業名	相骨陪が	い者向けり	広報等発行!						
		于木山	ル元中が、	課名	障がい福祉	* /					
	1227 14 14		444		11.00				prefer 200 . Het en	. 41 A 45 4 1 1 1	스 1. 스 1호
総合計画上の 位置付け		<u>章</u>	第3章	保健福祉				2)社会参加と	
		基本施策	3-03	障がい者	/ B III I		展開方向	障がい者があら めることを目的	ゆる分野の活動 とした啓発、広報	に積極的に参加 等の充実を図る。	1する意欲を高 とともに、ス
		施策	3-03-01	障がい者	・児福祉の5	充実			動の振興を図り		
相手方の名	名称	ボランティ	ア団体			協働事業の	の実施手法	補助・助成	ţ.		
実施の時	期	通年				事業開	始年度	昭和57年	度		
平成30年度事	事業費	予算	算額		739	決算	算額		639	(単位:	千円)
		視覚障害者の内、希望者にしみんだよりなどの広報の点字版や録音版を製作し配布する。									
事業の概要・目						どの広報の	京字版や	禄音版を製	作し配布す	-5。 	
		視覚障害		望者にしる							
	的	指标	票名	活動の育	成	年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要・目I	的	指标		活動の育		年度 目標値	H28	H29	H30 60		H32 60
概要・目I	的	指标	票名	活動の育	成	年度	H28	H29	H30	H31	
概要・目I	的	指植 単 市は点訳バボランティ	票名 位 ボランティフアは市の広	活動の育ポランテア及び録音な影等の	成	年度 目標値 実績値 アに総合福石 音版を作成	H28 60 60	H29 60 60	H30 60 60 ・や録音テー	H31 60 ープ、機材を	60 60



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		5	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り な	白さル	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きたできともまなかっ	日立に	自立化 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	
	相互変革			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	
		評価点	41	0

総合点	82
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
(太伽動伯子の計画が不記八の場合 占数を2倍 て質出)	110111100

	A			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	害者に対し配布することによって行政からの情報を伝える	市の広報誌等の点字版・録音版を製作し、希望する視覚障害者に対し配布することによって行政からの情報を伝えることができた。
見えた課題や協	ボランティア団体、行政とそれぞれの特性や役割を活かし 協働して事業を実施しているが、年々の状況の変化で生じ た新たな課題等の共有・解消をより進めていく必要があ る。	市民や広報担当課からの意見がほしい。 広報担当課等を含めて協議の場を持ちたい。

No.	33	事業名	太白古绘								
		甲未 1	尔 及川沁	1							
部名	福祉部			課名	障がい福祉	止課					
60. 4 -	. —	章	第3章	保健福祉	-			2	障がい者の	社会参加と	:自立支援
総合計画上の 位置付け		基本施策	3-03	障がい者	•児福祉		展開方向	障がい者があら	ゆる分野の活動 した啓発、広報	に積極的に参加	する意欲を高
	21317	施策	3-03-01	障がい者	・児福祉のま	充実			動の振興を図りる		22810,1
相手方	うの名称	(社福)奈	良市社会福	a祉協議会	?	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成22年月	度(指定管理	里者制度導	入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		180,900	決算	算額		180,622	(単位:	千円)
	業の・目的	福祉の増	進に資する	ために設け	会福祉施策置された総合				活動の育成?	を図り、もつ	て市民の
		福祉の増			置された総合		ターを運営		活動の育成?	を図り、もつ	
概要	・目的	福祉の増	進に資する	ために設け	置された総合				后動の育成を H30	を図り、もっ H31	て市民の H32
概要		福祉の増造	進に資する	ために設置施設の利	置された総合	福祉セン	ターを運営	する。			
概要	・目的	福祉の増造	進に資する 漂名	ために設置施設の利	置された総合 用者数	合福祉セン	ターを運営 H28	する。 H29	H30	H31	H32
田標平成3	・目的	福祉の増加 指本 単 障害者福	進に資する 票名 位 祉及び市目	ために設置施設の利	置された総合 用者数	音福祉セン 年度 目標値 実績値 図り、もつ	ターを運営 H28 90,000 84,859 (市民の福	する。 H29 90,000 90,945 祉の向上に	H30 90,000 89,456	H31 90,000	H32 90,000



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	- 自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち り な	白立ル	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちらとき	日立几	自立化 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	て算出 合は行政の

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
		市行政との協働としての事業(行事・イベント)を行うことにより、上記の評価項目において相応の評価をする事が出来た。互いにより良い成果の目標を持つことができた。
見えた課題や協 働相手に対して	対し、迅速に対応じさるア昇指直が必要じめる。予復も、 効果的・効率的な体弧運営を行うために適宜技護 両妻	指定管理制度の予算執行の現状を考えたときに利用者地域 住民のニーズに即対応するスピードに欠ける所が課題であ る。

No . 3	事業名 奈良市子ども発達センター										
部名 子ども未	来部 課名 子育て相談			淡課							
	章	章 第3章		保健福祉			1	障がい者	章がい者福祉サービスの充実		
総合計画上の 位置付け	基本施策	3-03	障がい者・児福祉		展開方向	発達の遅れや障がい	のある子どもと保護者	に対し、相談や療育を	行うため、子ども発達		
区區1317	施策	3-03-01	障がい者・児福祉の		· 定実		センターの事業の充実を図るとともに、医療機関や教育機関などと協力して支援の充実に努めます。				
相手方の名称	(社会福祉	Ŀ法人)宝山	」寺福祉事	業団	協働事業の	の実施手法	指定管理				
実施の時期	通年				事業開	l始年度	平成23年度	度(指定管理	制度導入年	度)	
平成30年度事業費	予算	算額		26,509	決算	算額		23,319	(単位:	千円)	
事業の 概要・目的	事業の 概要・目的 奈良市子ども発達センターで児童発達支援を行う。										
	指相	票名	当該年度	に児童発達		用した幼児	の実数				
目標指標				に児童発達	 支援を利 年度	用した幼児 H28	の実数 H29	H30	H31	H32	
		票名			i支援を利用 年度 目標値	H28	H29	60	H31 60	H32 60	
				に児童発達	 支援を利 年度	H28	H29				
	単		発達支援 発 発援 を 発援	に児童発達 人	支援を利用 年度 目標値 実績値 実績値	H28	H29	60			



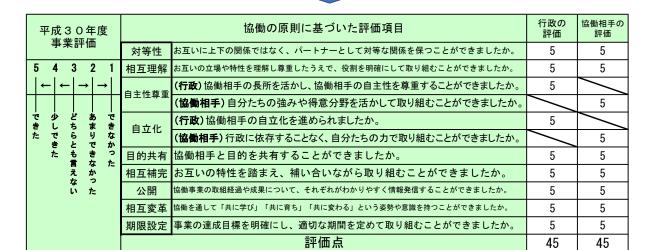
平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1 相	1互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
		(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き E	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりな		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
	1互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
相	目互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
期	阴限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
		評価点	45	44

ı	総合只	89
ı	行政・協働相手の評価点を合計して	算出
ı	(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
ı	点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	「相談支援」と「発達支援」を一連の流れとして切れ目なく行えたことにより、市民(保護者)の不安の軽減を図った。	適切な連携を図ることにより、児童・保護者のニーズに対応するとともに保護者に適宜必要な助言等を行うことができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	強みや不得意を含め互いの専門性に対する理解を深めあうことで新たな協働体制の在り方を考えることができた。	お互いの専門性を理解することにより、協働体制の推進を 図ることができた。

	35	事業名 認知症サポーター養成講座									
部名	福祉部			課名	福祉政策	課					
		章	第3章	保健福祉	保健福祉			2	高齢者福祉	止サービスの	の充実
	計画上の 骨付け	基本施策	3-04	高齢者福祉		展開方向		も住み慣れた地域で安 マンターと連携を図り			
四直刊订		施策	3-04-01	高齢者福	音祉の充実				でングーと連携を図り、 し、総合的かつ継続的		人と七の家族を文ス
相手方	うの名称	地域包括支	援センター職	員を含むキー	ャラバンメイト	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	l始年度	平成20年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		401	決算	算額		397	(単位:	千円)
事類	業の • 日的	国の認知症サポーター100万人キャラバン事業に基づき、認知症について正しく理解し、認知症の人の家族を温かく見守り、支援する認知症サポーターの養成や、その養成のための講師となるキャラバントの活動を支援する。									
	ци	トの活動を			公部を担任 ゲ	<i>"</i> — <i>y</i> — <i>0)</i>	食成べ、て	♥/氏♥//	このクレク語典印度	こなのイヤン	ハン・メ4
	——————————————————————————————————————				つ						
			支援する。								
	票指標	指标	支援する。	認知症サ		5ヶ年で約1 年度 目標値	12, 000名 H28 14,200	を養成予定 H29 16,500	三、その後継 H30 18,900	送続して実加	<u>t</u>
		指标	支援する。	認知症サ	-ポーターを	5ヶ年で約1 年度	12, 000名 H28	を養成予定 H29	E、その後組 H30	K続して実施 H31	<u>н</u> Н32
目標 平成 3	雲指標	指本 単 認知症サッ 講座の講 を行った。	栗名 位 ポータとし認知また、認知また、認知	認知症サ 更なる養质 な活動で 症の人や	-ポーターを	5ヶ年で約 年度 目標値 実績値 、未活動と3 知症地域3 どが集う場	12,000名 H28 14,200 14,037 なっている 支援推進員 であるオレン	を養成予定 H29 16,500 17,908 キャラバンパ や地域包括 ノジカフェ(E、その後組 H30 18,900 20,807 メイトが認知 舌支援セン/ 認知症カフ	#続して実施 #31 23,100 症サポータ ターと協働い エ)運営者	を H32 17,000 /一養成 し取り組み



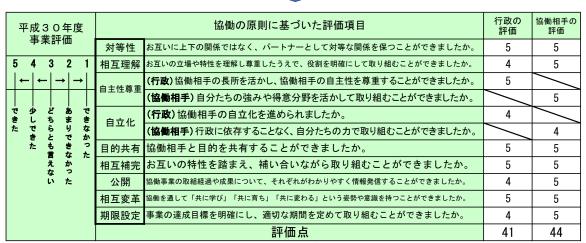
総合点	90		総合	評価	
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出	A評価	B評価	C評価	D評価
点数を2倍して算出)	1141111111111	90~76	75~61	60~46	45~32

Α

E評価 31~18

		行政の意見	協働相手の意見
	働によって られた効果	認知症サポーター養成講座開催を通じて、開催先となる各種団体や受講者に認知症の人に優しいまちづくりのための認知症への理解を深める普及・啓発の推進ができた。	行政との協働により、多層な市民・団体・学校などへの普及啓発が推進できた。本人・家族を含み、すべての人が自分ごととしてとらえて認知症を理解し、共に生きる地域を考える講座となっている。
見え働相	動することで えた課題や協 目手に対して かることなど	認知症サポーター養成講座開催の要望が多い地域では、講師 役となる地域包括支援センターのキャラバンメイトの負担が大き くなってきている。メイトにはなっているが、活動に至っていない 人の中で、意欲のあるメイトを発掘し、活動へと結びつける支援 が必要。	活動に至っていないキャラバン・メイトに対しての交流会が始まり つつある。講師として活動するための、知識や教材などの学習 面の支援が中心となっている。今後さらにフォローアップし、活 動を活性化させるため、全体(市全体)で集う場を設け、課題把 握することが必要。

No.	36	事業名	太白古老	1 行がかい	/ターの運営	<i></i>					
		争耒名	宗民川七.			•					
部名	福祉部			課名	長寿福祉	课					
		章	第3章	保健福祉	:			③ 高齢者福祉施設の整備			
	画上の	基本施策	3-04	高齢者福	 i祉		展開方向	老人福祉センターにおける高齢者の各種相談、健康の増進・介			
12000	付け	施策	3-04-01	高齢者福	祉の充実				生きがいづくりと		
				7-				11			
	の名称	(11-17-74-17-4	(福) 奈良市社会福祉協議会 協働事業の実施手法					指定管理			
実施(の時期	通年				事業開	始年度	平成20年	隻		
平成304	年度事業費	予算	算額		129,489	決!	算額		129,320	(単位:	: 千円)
		± ₩ * ~	> ±. ~ /± ±	-/D4+7/~	114144 EE =	1121- 0	د د د د د د د د د د د د د د د د د د د	7 -4-4-6-10	11 -/-	2 /II. I- 1	-11-1
	業の ・目的	て生きがい 運営する。	いづくりに寄	うし、もっ	が増進を図る て高齢者の						
	14	て生きがい 運営する。	いづくりに寄		て高齢者の	福祉に資	するため、『	東・西・南・コ	と4箇所のき	老人福祉セ	ンターを
概要	14	て生きがい 運営する。 指 材	でつくりに寄	利用者数	で高齢者の	福祉に資金	するため、『 H28	東・西・南・コ H29	L4箇所の ⁵ H30	老人福祉セ H31	ンターを H32
概要	・目的	て生きがい 運営する。 指 材	いづくりに寄	利用者数	て高齢者の	福祉に資 年度 目標値	するため、『	東・西・南・コ	と4箇所のき	老人福祉セ	ンターを
概要	・目的	て生きがい 運営する。 指 材	でつくりに寄	利用者数	で高齢者の	福祉に資金	するため、『 H28	東・西・南・コ H29	L4箇所の ⁵ H30	老人福祉セ H31	ンターを H32
目標 平成3	・目的	で生きがい 運営する。 指材 単 施設の老	べづくりに寄票名位朽化に伴う	利用者数故障等に。	で高齢者の	福祉に資 年度 目標値 実績値	するため、 H28 192,000 190,319	ド・西・南・オ H29 194,000 182,883	比4箇所の ³ H30 196,000 185,302	H31 198,000 が予想され	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・



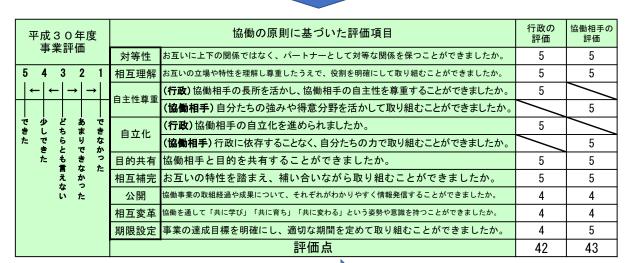
総合点 85 行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)



	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	緊密に連携をとることで故障・事故等の情報共有を的確に行うことができた。	高齢者の心身の健康保持及び増進、生きがいづくりに繋がる事業を実施し、長寿健康ポイント対象事業指定や各関係機関や地域住民との連携を図りながら介護予防の視点での利用者のニーズに沿った事業展開も図り利用者増となった。また世代間交流等の交流の場として事業するにあたり理解、協力を得ることが出来た。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	予算を確保し施設整備を進める必要がある。 さらに来館者を増やし、地域と密接に関わっていくこと が重要である。	高齢者をはじめ地域の多様化するニーズの対応や地域包括ケアシステムの展開等における地域等の実情に沿った事業を一層充実していくことが必要であるが、関係とりや地域住民の協力はもとより、さらなる情報共有と指導、協議を行う必要がある。また、施設の老朽化に伴う故障により利用者の便宜をできる限り削がないよう情報提供と共有、それに早期対応のため、改修・整備予算の獲得が必要である。

No.	37	事業名	太自古立	立都祁診療所・月ヶ瀬診療所の運営							
			示以山 <i>工</i> /		1		<u> </u>				
部名	健康医療	部		課名	医療政策	果					
60 A -1		章	第3章	保健福祉	:			① 地域医療体制の充実			
	計画上の 計付け	基本施策	3-05	医療			展開方向	東部・月ヶ瀬・都祁ゾーンの医療ニーズを把握するとともに、地 域医療の確保のために各診療所の充実や在宅医療の充実に			
	21317	施策	3-05-01	医療の充	実			努める。	ノ/こ&ノ(こ合 <i>砂原)</i>	ガジ元夫で任七	医療の元夫に
相手方	の名称	公益社団法人 地域医療振興協会			協会	協働事業の	D実施手法	指定管理			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成22年	度(指定管	理者制度導	算入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		39,800	決算	算額		39,800	(単位	: 千円)
	業の ・目的	等)を行う	ことにより、	地域の住員 特性上、目	おいて、安気 民の方々に5 1標値の設定	安心して健・	やかな生活	を営んでい	建康診断、 いただくより	健康相談、 どころとする	予防接種 分。
		指标	票名	診療所利用者数							
日輝	標指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
口 1示	〒1日1 示	単	.位	人		目標値		\setminus			под
											1102
						実績値	18,188	17,467	16,871		H3Z
	3 O 年度 1内容	指定管理	者との管理	運営協議	会を設置し、	2 3 18 3 18	,	,	,	を行うことが	

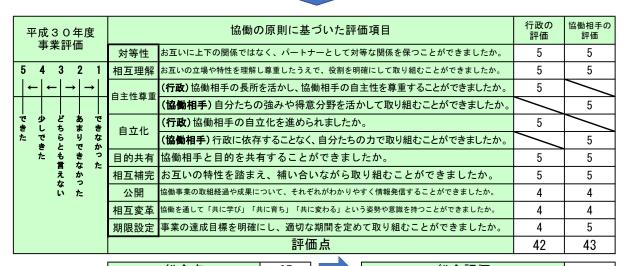


総合点 85	
行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出))

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって	協働の相手方である協会(地域医療振興協会)の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映させることができた。また、協会は市立奈良病院の指定管理者でもあるため、市立奈良病院との連携を図ることができた。	また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活か し、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への 貢献につなげていく。	施設が経年による劣化をしてきているので、奈良市と協議 しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上 に努めたい。

	20	事業名 奈良市立柳生診療所・田原診療所の運営									
No.			宗民川立/								
部名	健康医療	部		課名	医療政策	课					
, <u>-</u>		章	第3章	保健福祉	Ŀ			① 地域医療体制の充実			
	†画上の 畳付け	基本施策	3-05	医療			展開方向	東部・月ヶ瀬・者	ポポゾーンの医療 りために各診療!	マニーズを把握~	するとともに、地
	21317	施策	3-05-01	医療の充	実			努める。	りために合む焦	外の元夫や仕も	医療の元夫に
相手方	うの名称	公益社団	法人 地域	医療振興	協会	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年	度(指定管	理者制度	尊入年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		26,245	決算	算額		26,245	(単位	: 千円)
	事業の 概要・目的 医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)									マルナナナイチ	
		等)を行う (※東部地	ことにより、: 地域医療の!	地域の住! 特性上、E	民の方々に領	安心して健	やかな生活	を営んでい	運康診断、 いただくより	健康相談、 どころとする	了防接種 3。
		等)を行う (※東部地	ことにより、:	地域の住り	民の方々に領	安心して健	やかな生活	を営んでい	建康診断、 いただくより	健康相談、 どころとする	了防接種 5。
概要	・目的	等)を行う (※東部地	ことにより、: 地域医療の!	地域の住! 特性上、E	民の方々に領	安心して健	やかな生活	を営んでい	建康診断、ただくよりH30	健康相談、 どころとする H31	于防接種 5。 H32
概要		等)を行う。 (※東部地 指権	ことにより、: 地域医療の!	地域の住具特性上、目標を持たいます。	民の方々に領	安心して健	やかな生活施値のみ言	を営んでいる。)	いただくより	どころとする	3.
概要	・目的	等)を行う。 (※東部地 指権	ことにより、: 地域医療の: 票名	地域の住具特性上、目標を持たいます。	民の方々に5 目標値の設定 月用者数	安心して健 Eはせず実 年度	やかな生活施値のみ言	を営んでいる。)	いただくより	どころとする	3.
田標平成 3	票指標	等)を行う。 (※東部地 指権 単	ことにより、: 地域医療の 漂名	地域の住具の住人では、「おけっぱ」を表示する。	民の方々に5 目標値の設定 月用者数	安心して健実 年度 目標値 実績値	やかな生活 施値のみ言 H28 6,549	H29 6,120	H30 6,112	どころとする H31	H32



総合点	85			総合	評価		Α	
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合			A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	
点数を2倍して算出)	1141]以(()		90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18	
		-						
行政の意見	ļ.		協働相手の意見					
			+	+ ** - 1	2 N M + 1		+ + * + + +	

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	協働の相手方である協会(地域医療振興協会)の管理運営 のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映さ	また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど		施設が経年による劣化をしてきているので、奈良市と協議 しながら、適切な補修等を行い患者の利便性と満足度向上 に努めたい。

			1.4.1.1.	T A	5 - V= V/						
No.	39	事業名	奈良市立身	興東診療所	Tの運営						
部名	健康医療	部		課名	医療政策	課					
		章	第3章	保健福祉				① 地域医療体制の充実			
	計画上の ∄付け	基本施策	3-05	医療			展開方向	東部・月ヶ瀬・者	『祁ゾーンの医療	ミニーズを把握	するとともに、地
	יו נין ב	施策	3-05-01	医療の充実	実				のために各診療	外の允美や仕名	と医療の允美に
相手方	の名称	公益社団	法人 地域	医療振興協	協会	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成28年	度		
平成30	年度事業費	予算	草額		10,000	決算	算額		10,000	(単位	: 千円)
	医療機関の少ない東部地域において、安定した保健医療サービス(診療、健康診断、健康相談、予防接利等)を行うことにより、地域の住民の方々に安心して健やかな生活を営んでいただくよりどころとする。 (※東部地域医療の特性上、目標値の設定はせず実施値のみ記載する。)										
						- (a t y /	旭1世のグラテド	□ 4 X、)			
		指标	票名	診療所利			他他のみ言	山野 (タ ´┛₀ /			
日樗	■ 指煙	指标	票名	診療所利		年度	ル1世のから H28	H29	H30	H31	H32
目標	票指標		票名				, ,		H30	H31	H32
目標	震指標		·· -		用者数	年度	, ,		H30 494	H31	H32
平成 3	雲指標 3 0 年度 目内容	単	.位	,	用者数	年度 目標値 実績値	H28 322	H29 427			



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価対等		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち り ち	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちらききなかったもきたも	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
		評価点	42	43

ı	総合只	85
ı	行政・協働相手の評価点を合計して	算出
ı	(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
ı	点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって	協働の相手方である協会(地域医療振興協会)の管理運営のノウハウを活かし、協会が行う他の事業の実績を反映さ	また、運営に関しては協会が市立奈良病院の指定管理者であることなども活かして医師の手配などを円滑に行い、診
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	今後も互いの協力関係を継続しながらも協会の特性を活か し、自主性・独自性を発揮することにより、地域医療への 貢献につなげていく。	近隣住民や患者の方から頂いた意見を情報共有し/問題の解決に努めたいと考えている。また自主性・独自性を発揮することにより地域医療の貢献につなげていく。

NI a	10	古光力	00 11 452 5	L, , ,							
No.	40	ナベロ	20日なら		I						
部名	健康医療	部		課名	保健所健康	東増進課					
		章	第3章	保健福祉	:			2	成人保健	事業の推進	
総合計画上の 位置付け 相手方の名称 実施の時期 平成30年度事業費	基本施策	3-06	保健	提開方向 運動習慣べりや食生活改善、禁煙等生活習慣病発症の予防を目的 健康相談など身近な保健サービスを提供し、一人ひどりの健康べくりを							
	21317	施策	3-06-01	健康づく	り推進			市民・民間・行政が一	保健サービスを提供し ・体となって健康づくり	に取り組む体制づくりを	くりを文仮するはか、 ・行います。
相手力	うの名称	奈良市運!	動習慣づく	り推進員協	協議会	協働の	の形態	委託			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		240	決算	章額		240	(単位:	千円)
	業の ・目的				協議会との協 の定着を支					。効果的な	ウォーキ
		+6+	西 <i>夕</i>	太貞士海	(金属)	の批准日内	達 会主席9	老坛同类			
		指标	票名	奈良市運	動習慣づく				1100	1104	Шоо
目標	票指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標	票指標		票名		動習慣づく	年度 目標値	H28	H29	11	H31	H32
平成 3	票指標 30年度 目内容	単 ウォーキングは雨天6	位 グイベント のため4回中	(年1回)及 中止となり、		年度 目標値 実績値 *ーキング 実施できな	H28 11 10 (年10回)を かった。ウ	H29 11 10 2 実施するi オーキング	11 7 十画であっ?	11 たが、屋外ワ	11



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちまきないできともきたもき	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	45	45

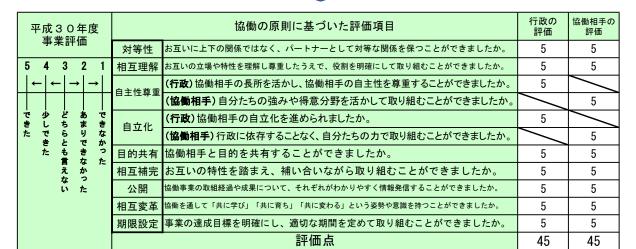
総合点	90
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

切りしての辛日

	行政の意見	協働相手の意見
但これた効用	奈良市運動習慣づくり推進員の高いチームワークの下、参加者が300人を超える20日ならウォークの運営を円滑に実施することができている。	20日ならウォークの運営面、緊急安全対策対応のみならず、適切な助言、迅速な対応をいただき、都度意見交換し、順調に実施できました。計画実行する上において意識が高く、準備がすべてを支配することを学びました。
	動習慣づくり推進員としての認識を深めていただけるよう	20日ならウォークが定着し順調に推移する現状に満足することなく、参加者減少傾向にあり、市民ニーズに対応すべく相互理解相互協力のもと変えるべき所は変える変革意識をもち、さらなるものを構築して行きたいと思います。

No.	41	事業名	奈良市総	合医療検	査センターの	運営					
部名	健康医療			課名	医療政策						
		章	第3章	保健福祉	Ŀ.					_	
		基本施策		保健福祉	Ŀ		展開方向				
14 億	里刊17	施策	3-06-01	健康づく	りの推進				_	_	
相手力	ちの名称	一般社団	法人 奈良	市医師会	:	協働事業の	の実施手法	指定管理			
						事業開	l始年度	平成28年	度(当該指	定管理開始	台年度)
平成30	年度事業費	予算	算額		4,021	決算	算額		4,021	(単位:	千円)
		+800	当の独市は	4年 佐庄	のるはなな	70 H 11 1	ベルテーシン	いまでの句	せんりょう た	#压快斗	
		果的に提信	洪するため	総合医療	の予防及び 検査センター 導及び健康	-を設置し、	、人間ドック	、がん検診	を 及び定期	建康診断等	の検診事
		果的に提付業並び食品	洪するため	総合医療	検査センター	-を設置し、	、人間ドック	、がん検診	を 及び定期	建康診断等	の検診事
概要	・目的	果的に提付業並び食品	供するため 事栄養指導	総合医療算、運動指	検査センター 導及び健康 利用件数	-を設置し、	、人間ドック	、がん検診	を 及び定期	選集診断等 開31	ピスを効 の検診事 H32
概要		果的に提信業並び食業並び食業が	供するため 事栄養指導	総合医療算、運動指	検査センター 導及び健康	ーを設置し、 講座等のM 年度 目標値	、人間ドック 建康増進事 H28 127,500	、がん検診 業等を実施 H29 128,000	>及び定期1 直する。 H30 140,000	建康診断等	の検診事
概要	・目的	果的に提信業並び食業並び食業が	供するため 事栄養指導 票名	総合医療算、運動指	検査センター 導及び健康 利用件数	ーを設置し、講座等の依	、人間ドック 建康増進事 H28	、がん検診 業等を実成 #29	》及び定期 直する。 H30	建康診断等 H31	in (大会の検診事) H32
目標平成3	・目的	果的に提供業並び食: 指権 単 市民の健康	供するため 事栄養指導 票名 位 泰の保持・	総合医療指 センタージ	検査センター 導及び健康 利用件数	ーを設置し、 講座等の係 年度 目標値 実績値	、人間ドック 建康増進事 H28 127,500 131,806	、がん検診 業等を実施 H29 128,000 135,528	及び定期 直する。 H30 140,000 137,239	建康診断等 H31 140,000	H32 140,000



総合点	90		総合	`評価		Α
「政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出	A 評値	b B評価	C評価	D評価	E評価
(然励動作子の計画が不能人の場合 (数を2倍して算出)	11411100	90~7		60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	市医師会が総合医療検査センターの管理運営を行うことにより、検診検査を専門とする本施設の特性を活かし、市民の健康の保持増進を図ることができた。	施設の運営にあたり指定管理者として協働することで、市民の健康の保持増進という目的を共有することができ、各事業の取り組みにおいて協力体制が築けた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	経年による施設の維持補修が必要となっており、予算措置 に苦慮している。	施設に関して、日々の即効性を必要とする小規模回収は、 業務が滞ると困るので行っているが、大規模補修について は、施設の老朽化に伴い今後も増えてきますので、予算措 置をお願いしたい。

行(点

N	10		+ + + A	J. 2. 28 -	7 . L . 1 - 						
No.	42	7.76.1	佘艮巾 筤	育つなかる	るネット事業						
部名	観光経済	部		課名	農政課						
		章	第3章	保健福祉	t					_	
部名 観光経済 総合計画上の 位置付け 相手方の名称 実施の時期 平成30年度事業費 事業の 概要・目的		基本施策	3-06	保健福祉	t		展開方向				
山田	נו נוו	施策	3-06-01	健康づく	りの推進				_	_	
相手方	の名称	ボランティア団体	5、大学、職能団(体、飲食店、企業	業、生産者団体等	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成27年月	度		
平成304	年度事業費	予算	算額		2,107	決算	車額		1,679	(単位:	千円)
			注 M 7 K 左 E	市食育粕	能進計画に基	- (づき. 家屋	€や地域、≒	2校、事業月	近等の連携	・協働を促	進すること
		で市民が「 る。 平成30年」	食」を通じ	て健全ない 良市食育 と担う。	心と体を培レ ネット」と改々	、健康で豊か、規約を改め、規約を改め、規約を改め、					
		で市民が「 る。 平成30年」 はサポート	食」を通じ 度より、「奈	て健全ない 良市食育 と担う。	心と体を培い	、健康で豊か、規約を改め、規約を改め、規約を改め、					
概要	・目的	で市民が「 る。 平成30年」 はサポート	食」を通じ 度より、「奈、する役割を	て健全ない 良市食育 と担う。	心と体を培レ ネット」と改々	、健康で豊か、規約を改め、規約を改め、規約を改め、					
概要		で市民が「 る。 平成30年」 はサポート	食」を通じ 度より、「奈、する役割を	で健全なり良市食育を担う。	心と体を培レ ネット」と改々	、健康で豊か、規約を引かれています。 の、規約を引かれています。 の団体数	女正し、より	参加団体が	ぎ主体的に	舌動できる。	よう、行政
概要	・目的	で市民が「 る。 平成30年」 はサポート	度」を通じ度より、「奈、する役割を	で健全なり良市食育を担う。	いと体を培い ネット」と改め で で で で で で で で が で が と で を で く で く で く で う に う に う に う に う に う に う に う た う た う た	、健康で豊 の、規約を引 の団体数 年度	女正し、より H28	参加団体が H29	i主体的にi	舌動できる。 H31	よう、行政 H32
概要 目標 平成3	・目的	である。 である。 である。 成30年は はサポート 15月に事業を できましま。 でも言います。	食」を通じ 度より、「奈 する役割を する役割を でする役割を でするでいた。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	で健全なが 良市食 と担う。 奈良市食 ・・幹を行 ・・幹を行 いた報	いと体を培い ネット」と改め で で で で で で で で が で が と で を で く で く で く で う に う に う に う に う に う に う に う た う た う た	、健康でも は規約をも は規約をも は大数を度値 実により、 をもし。 をもし。 をもし、 をもし。 をもし。 をもし。 をもし。 をもし。 をもし。 をもし。 をもし。	女正し、より H28 35 43 会では、規 こついて話 を行った。9	参加団体が H29 45 48 見約を全面に し合い必要 月に「ならの	H30 50 59 改正し、代: 事項につい の食育未来	括動できる。 H31 55 表・副代表、 いて協議した ワークション	はう、行政 H32 60 幹事を決 き。交流会 パプ」を開



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きたっとも	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	45	44

ı	総合只	89
ı	行政・協働相手の評価点を合計して	算出
ı	(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
ı	点数を2倍して算出)	

A評価 B評価 C評価 D評価 E評価		Α			
00 - 76 75 - 61 60 - 46 45 - 22 21 - 10	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~70 75~01 00~40 45~52 51~18	90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見		
「奈良市食育ネット」として組織化したことで主体的な活協働によって動が可能となった。第3次奈良市食育推進計画(平成31年3月策定)に組織体制や協働の取組が明記できた。これまでの取組が農林水産省「第2回食育活動表彰」で評価され、		国紀後運営が進められている。行政が適切なアト		
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	団体が協働し取り組んでいきたい。また、協働による効果	奈良市食育推進計画の目標達成に向け、今後も引き続き多様な関係者による連携・協働の取り組みが必要である。今後とも支援をお願いしたい。		

	44	事業名 自主防災防犯組織活動										
No.		7 711 1	日土的炎	1								
部名	総合政策	部		課名	危機管理	課						
60 A -	. —	章	第4章	生活環境	Ē			② 防災意識の高揚				
	計画上の 計付け	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防・		·防犯·交通安全)	F·防犯·交通安全) 展開方向		目王防災組織の結成率同上、十育て世代の加入促進など組織強化への支援、防災			
位置付け 		施策	4-01-01	総合的な	危機管理			士の育成支援等、組	織体制の充実・活性化	に努め、防災意識の高	高揚を図ります。	
相手力	ちの名称	市民、自治	台会(自主)	方災防犯組	且織)	協働事業の	の実施手法	補助・助成	Ž			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年	度			
平成30	年度事業費	予算	算額		19,185	決算	算額		18,780	(単位:	: 千円)	
事業の 概要・目的 概要・目的 格地区の防災防犯力の向上を図り、安全安心な街づくりを推進するため、自主防災防犯組織の 様、防犯決起集会等の各種防災防犯活動を支援する。この際、各地区の自主防災防犯組織の 性化に留意しつつ、自主防災防犯協議会と合同で防災訓練等を実施するとともに、防災土育成 入等の防災防犯活動に対して、活動交付金を交付し、自助・共助・公助連携の向上を図る。							犯組織の均 災士育成、	一的な活				
										図る。	A IM I MI	
		指標	票名	各地区自	治連合会等					図る。 	X IVIT NIT	
日垣	声比插	指标	票名	各地区自						図る。 H31	H32	
目標	票指標		票名			を基本とし	た自主防災	炎防犯組織	の結成率			
目標	票指標				治連合会等	を基本とし 年度	た自主防ジ H28	災防犯組織 H29	の結成率 H30	H31	H32	
平成 3	票指標 3 0 年度 租内容	単 自主防災	位 が 佐	二自主防災	治連合会等	を基本とし 年度 目標値 実績値	た自主防5 H28 98 100	炎防犯組織 H29 100 100	の結成率 H30 100 100	H31	H32 100	



平成30年度	協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日工社导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちらときなかっ		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
言 な た え か な っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
ů t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	37	40

総合点	11
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

総合評価							
A評価	B評価	C評価	D				
90~76	75~61	60~46	45				

	協働相手の意見
ら要べきよ	行政の事務局機能が効果を発揮して協議会メンバーの情報交換に役立った。協議会メンバーから行政への連携を図ることが多くなった。
	行政が単年度主義であるため、継続性にかける。また、 年度途中での取り組みに対して柔軟性がなく、次年度扱い になる事があるため、迅速性が劣る。

A E評価 31~18

協働によって 得られた効果
待り化に効果

安全安心まちづくりには、行政主導での事業のみならず、地域が自主的に防災・防犯活動に取り組むことが重要であることの相互理解が深まった。また、合同防災訓練の実施により、それぞれが行うべきことの認識を深めるとともに、協働して取り組むことにより、災害に強いまちづくりを促進した。

行政の意見

協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど

会長や役員の交代により、今まで相互に理解・認識し実施できていた事がうまく引き継がれず、協働で取り組んでいる事項等について、一から説明しなければならないという事象も発生したため、組織内の人材育成や会員増強が今後の課題である。

N	1 45		AT 12 井 2 3		H+17+ 1 34-00						
No.	45	事業名	独り春らし		帯防火訪問						
部名	消防局		課名 予防課								
		章 第4章		生活環境			② 防火、防災における市民等との協働の推済				
	†画上の 聲付け	基本施策	4-01	危機管理と地域の安全・安心(防災・消防		坊・防犯・交通安全)	展開方向	女性防災クラブとの制	- 第働による一般家庭防り 施等防火対策の推進と	:訪問(住宅用火災警	収器の普及促進と
17. [5	21317	施策	4-01-02	消防•救急	急救助体制	の充実		出火防止対東)の美 化を図ります。	地等防火対東の推進と	、目刀避難困難有収名	・施設への登祭の強
相手力	ちの名称	奈良市女	性防災クラ	ブ		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	昭和46年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		10	決算	算額		10	(単位:	千円)
_	* 0	 火災時に	死傷者の発	生する割っ	合の高い高	齢者世帯に	こ対する防:	火啓発によ	り住宅火災	の防止、被	害の減少
	業の ・目的	を図ること そのために	を目的とす こ、70歳以	る。 上の独り暮	らし高齢者	世帯を対象	やに防火訪	問を実施す	,	の防止、被	害の減少
		を図ること そのために	を目的とす	る。 上の独り暮		世帯を対象	とに防火訪 間回数の増	問を実施す	-3.		
概要		を図ること そのために 指植	を目的とす こ、70歳以 票名	る。 上の独り暮 女性防災	らし高齢者	世帯を対象 人当たり訪! 年度	やに防火訪 間回数の増 H28	問を実施す H29	ーる。 H30	H31	H32
概要	・目的	を図ること そのために 指植	を目的とす こ、70歳以	る。 上の独り暮 女性防災 一人	らし高齢者クラブ員一	世帯を対象 人当たり訪! 年度 目標値	きに防火訪 間回数の増 H28 1.3	間を実施す H29 1.7	H30 1.8		
概要	・目的	を図ること そのために 指植	を目的とす こ、70歳以 票名	る。 上の独り暮 女性防災 一人	らし高齢者 クラブ員一, 当たり	世帯を対象 人当たり訪! 年度	やに防火訪 間回数の増 H28	問を実施す H29	ーる。 H30	H31	H32
田標 平成 3	・目的	を図ること そのために 指植 単	を目的とす こ、70歳以 票名 位	る。 上の独り暮 女性防災 一人 訪問	らし高齢者 クラブ員一 当たり 目回数	世帯を対象 人当たり訪 年度 目標値 実績値	間回数の増 H28 1.3 1.6	問を実施す H29 1.7 1.8	H30 1.8	H31 1.9	H32



平成30年度	協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ でき き し ち ま す た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きたちらとも	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	36	40

	総合点	76
	行政・協働相手の評価点を合計して	
	(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
ı	占数を2倍 て笛出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	地域に密着した女性防災クラブ員の防火訪問により、独り暮らし高齢者世帯への火災予防啓発を実践することができた。また、クラブ員個々が防火防災指導を実施することで、クラブ員としての自覚、意識の向上が図れている。	防火訪問実施世帯数が前年度比22.5%増の3,000世帯 以上となり、地域に密着した火災予防啓発を実践す ることが出来た。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	引続き、全クラブでの円滑な防火訪問実施を目標とする。	引続き、クラブ員への防火に関するデータや資料等の情報 提供及び円滑な防火訪問を実施するため関係機関との協力 体制の構築を希望。

No.	46	事業名	応急手当:	世 12 14 36 36 3	江						
		甲未 在	心心于日	1							
部名	消防局			課名	救急課						
40 A =	章		章 第4章		É			2	防火、防災にお	sける市民等との	協働の推進
	計画上の 計付け	基本施策	4-01	危機管理と地域	成の安全(防災・消防	・防犯・交通安全)	展開方向	本尺な対角に	た広告エン並及	啓発活動を推進	1 ++
	213.7	施策	4-01-02	消防•救?	急救助体制	の充実		同氏を対象とし	/	石光伯勒飞胜连	· L 4 9 .
相手方	の名称	市内在住	•在勤者			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成6年度	ŧ		
平成30	年度事業費	予算	算額		648	決算	算額		606	(単位:	千円)
事業の 概要・目的											
		図る。			らうことにより				いただき、病	院前救護の	の充実を
		図る。	講習会を受 票名		らうことにより 人に1人が応				いただき、病	院前救護の	D充実を
概要	・目的	図る。							いただき、病 H30	i院前救護の	の充実を H32
概要		図る。 指権		市民の4		5急手当講	習修了者と	なること			
概要	・目的	図る。 指権	票名	市民の4	人に1人が応	5急手当講 年度	習修了者と H28	なること H29	H30	H31	H32
概要 目標 平成 3	・目的	図る。 指 4 単 各種事業)	票名 位 听·各種団	市民の4	人に1人が応	急手当講年度目標値 実績値	習修了者と H28 3,360 2,521	かること H29 3,360 2,103	H30 3,593 2,161 進し、また、	H31 3,593 応急手当詞	H32 3,593



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価対等性お		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ でき き し ち り り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きなかっ	日立に	立化 (協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	37	36

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	応急手当の必要性がについて理解が得られた事により、救 急現場における市民による応急手当実施率が増加してい る。	救命・悪化の防止・苦痛の軽減という応急手当 の必要性および重要性が理解できた。
兄んに休起で励	市民の応急手当で傷病者の救命率は高まるが、時間経過とともに技能低下が予想され、また一定期間ごとに手技等の変更があるため、定期的な受講が必要である。	時間経過とともに、知識・技能が低下することは認識できるも一定期間ごとに再講習を受けることが難しい。

No.	47	事業名	業名 放置自転車対策の推進								
部名	市民生活			課名 交通政策課							
		章 第4章		生活環境	ž.			3	③ 放置自転車対策		
	計画上の 計付け	基本施策	4-01	危機管理と地域の	つ安全・安心(防災・消防	·防犯·交通安全)	展開方向	駅周辺の放置	駅周辺の放置自転車の撤去を強化することにより、道路交通		
	21317	施策	4-01-03	交通安全	との確保			安全と円滑化を	:図ります。		
相手方	の名称	地元商店征	街			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	l始年度	平成23年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		0	決算	算額		0	(単位:	千円)
	ME -	-t	l	0.70	L + 6-6- 1 / 1		S. I. S		m (.)		
	業の ・目的 	めざす。			自転車等放置				置されてい	る自転車等	の一掃を
概要	・目的				自転車等放置	の放置自			置されてい H30	る自転車等 	の一掃を
概要		めざす。 <u>指</u> 材					転車等の湯	Ž			
概要	・目的	めざす。 <u>指</u> 材	票名] 禁止区域内	の放置自 年度	転車等の減 H28	₹ H29	H30	H31	H32
田標平成 3	・目的	めざす。 指植 単 (社)奈良i	票名 位 市商店街扱	市内放置] 禁止区域内	の放置自 年度 目標値 実績値 等の情報を持	転車等の湯 H28 2,080 1,876 是供し、商別	大 H29 2,060 1,653	H30 2,040 1,173	H31 2,020	H32 2,000



平成30年度	平成30年度 協働の原則に基づいた評価項目 事業評価		行政の 評価	協働相手の 評価
争未計価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
たでらりなきとでか	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
たもきった	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	
った えかなっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	
		評価点	36	0

総合点	72
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
(太伽衡伯子の計画が不記人の場合 占数を2倍 て質出)	114111111111

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	情報共有、啓発、移動等により放置自転車は減少傾向にあ る。	特になし
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続してい く。	特になし

No.	48	事業名 奈良市自転車駐車場の運営									
部名	市民生活		ホム 市口	課名							
		章	第4章	生活環境	生活環培			③ 放置自転車対策			
	画上の) 安全・安心(防災・消队	h·防犯·交通安全)	展開方向			道路交通の安全	シン口滑化を図
位置	付け	施策	4-01-03	交通安全			נייו כלנולואני	るため、民間活	力を利用し、駅周	周辺に自転車駐1	車場を充実さ
相手方	の名称	事業者(ミ	ディ総合管	理株式会	社)	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年度	(指定管理者	制度導入年月	度)
平成30	年度事業費	予算	算額		68,493	決算	算額		68,506	(単位:	千円)
	業の ・目的		司辺におけ 車の利便を		等の駐車秩	序を確立す	- ることによ ¹	り、街の美術	見を維持すん	るとともに、	自転車利
			車の利便を	図る。	等の駐車秩 用者の利便	, -,- ,					自転車利
概要	・目的	用者の駐車	車の利便を	図る。		, -,- ,					自転車利 H32
概要		用者の駐車	車の利便を	図る。		性を高め、	道路交通	の安全と円	滑化を図る		
概要	・目的	用者の駐車	車の利便を 票名	図る。	別用者の利便	性を高め、 年度	道路交通(の安全と円 H29	滑化を図る H30	H31	H32
概要 目標 平成 3	・目的	用者の駐車	車の利便を 票名 位	自転車利	別用者の利便	性を高め、 年度 目標値 実績値	道路交通 H28 3,360 3,360	の安全と円 H29 3,360 3,360	滑化を図る H30 3,360	H31	H32



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕寻里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりなきとでか	日五元	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきっ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
これ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in to	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
		評価点	43	43

総合点	86
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
占数を2倍1.て質出)	

		Α		
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	利用者の意見や施設管理状況を適時共有し、施設のより良い運営管理を行うことができた。	情報を共有することによって、迅速かつ丁寧な サービスを提供することができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	放置自転車の更なる減少を目指し、情報共有を継続していく。	情報共有を密にし、より質の高い運営管理を行う。

	4.0	AHE	111. I-474-Vn 3	T #1 111.14	F- 3114						
No.	49	771	地域防犯								
部名	総合政策	部 課名 危機管理課									
		章 第4章 基本施策 4-01		章 第4章 生活環境			③ 地域の防犯力の強化				
	ー画上の 計付け			危機管理と地域の	安全・安心(防災・消队	ち・防犯・交通安全)	展開方向	防犯意識の普及及び	《防犯施策を推進する》	とにより、犯罪や事故	等のない明るく住み
1210	. 13 17	施策	4-01-04	防犯力の	充実			よい地域社会を推進	する。		
相手方	で名称	市民·自治	会・自主防	5犯組織・	事業者	協働の	の形態	事業協力			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成21年	度		
平成304	年度事業費	予算	算額		994	決算	<u></u> 算額		694	(単位:	千円)
事業の 概要・目的 奈良市安全安心まちづくり基本計画に基づき、安全で安心して暮らせるまちづくりを推進するため、下目的の安全は自ら守り、地域の安全は地域で守るという自主防犯意識を高めるため、市民や自主防犯などの団体を対象とした防犯教室を実施する。											
概要	・目的						う目主防犯	意識を高め	かるため、市	民や自主	防犯組織
概要	・目的	などの団体			室を実施す		う目主防犯	意識を高め	かるため、市	一生の発生を	防犯組織
		などの団体	を対象とし	た防犯教	室を実施す		ウ目主防犯 	意識を高め H29	かるため、ri: H30	R	防犯組織 H32
	• 目的 	などの 団体 指 材	を対象とし	た防犯教	室を実施す	·る。					
		などの 団体 指 材	本を対象とし	た防犯教	室を実施す	る。	H28	H29	H30	H31	H32
目標平成3		などの団体指権を関する。	本を対象とし 票名 位 全安心まち 全とは自ら守り	た防犯教 防犯教室 づくり基本の、地域のシ	室を実施す	る。 年度 目標値 実績値 ざき、安全い	H28 8 8	H29 11 12 集らせるまち	H30 14 23	H31 17 進するため	H32 20



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	5	5	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき き し ち ま す た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちちちなかったもきなかっ	日立几	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。		3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	35	42

総合点	77
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合 占数を2倍して質出)	訂は行政の

		A					
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価			
90~76	90~76 75~61 60~46 45~32						

		行政の意見	協働相手の意見
	れた効果	・互いの予定を調整することにより、防犯教室の回数を増 やすことができた。また防犯教室の内容に関して、お互い の分野の情報を発信することで、効果的な啓発活動を実施 することができた。	- 互いに建物が取れた関係を構造してたことに
見えた動相	することで た課題や協 手に対して ることなど	・お互いの意見を意見をフィードバックする場を設けることが出来なかった。情報共の体制強化に努めたい。	・今後もあらゆる施策を進めていく中で更に連携した打ち 合わせや準備を密にしてゆきたい。

			1	-1	I federal I I Is late :	A 210					
No.	50	TAL NAMED IN THE PROPERTY OF T									
部名	環境部		環境政策課								
=.		章	第4章	生活環境				② 地球温暖化対策の推進			
	計画上の 骨付け	基本施策	4-02	環境保全			展開方向	奈良市地球温暖化対協働し、環境教育、エ	策地域協議会等を通し コバッグの普及等3Rの	ン、市民、事業者、行政 の推進や公共交通機関	と等あらゆる主体が 別の利用促進及び省
2.6	21317	施策	4-02-01	環境にや	さしい社会の	の構築		エネを実践できる仕組 の推進に取り組みます	且みづくりなど温室効果 ト。	ガスの排出量を削減	.、地球温暖化対策
相手方	の名称	市民・NPC)・事業者な	<u>.</u> ک		協働事業の	の実施手法	実行委員:	会•協議会		
実施の	の時期	通年				事業開]始年度	平成21年	 度		
平成30:	年度事業費	予算	算額		628	決算	 算額		628	(単位:	千円)
	業の ・目的		プにより地球		者、学識経 策等の活動						
		指標名 環境行事実施回数									
日捶		単位				年度	H28	H29	H30	H31	H32
口信	〒1日1示			Į į	口	目標値	20	23	25	27	30
						実績値	24	24	18		
	3 0 年度 1内容	取組を支持	爰する)、3I	R(レジ袋律	ナ、市民・市 有料化の取約 迎え、会の治	組)、公共3	を通、環境	教育等の様	々な分野で		
今後(の方針	継続	拡大、縮小、	廃止の理由							



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日工仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で少とあでき	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
たでらりな		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な っ い た	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	2	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	2	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	2	4
		評価点	29	40

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合	合は行政の
点数を2倍して算出)	

	В			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31∼18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	種々の立場の人間が、共通の目的を持って活動することにより、会員同士のネットワークの構築に寄与し、個々の取	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	各人が、関心のある分野に対してのみ活動を進めていく傾向があり、他の分野の活動で手助けが必要な場合に、協力しているメンバーが固定化されつつある。また、運営に主に関わるメンバーが固定化されている。総会にて新たな役員を選出し、体制の見直しについて検討し、協議会の活性化を求めたい。	会員の多くは他の活動グループにも属している者が多く、 当協議会の活動に時間が取りにくいことは課題であり、会 員を増やす工夫が必要である。体制を見直し、固定された メンバーだけでなく、新たな会員にも参加してもらいやす い環境づくりを求めたい。

N-	F-1	古米力	FOOT .	ブ 1 よっと or	V 7 134						
No.	51	事業名	ECOキッ		, - 0		Line				
部名	環境部			課名	環境政策	课·学校教	育課				
総合計画上の 位置付け		章	第4章	生活環境	生活環境			① 環境保全行動の推進			
		基本施策	4-02	環境保全	<u> </u>		展開方向	エ どもからナ / すでそ	カぞれの発達段階に	応じた環境教育を推進	tすることにより 一人
		施策	4-02-01	環境にや	さしい社会の	の構築		ひとりが自発的に気化			., , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
相手方	うの名称	市民・市民	尼団体等			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成25年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		1,505	決争	算額		1,051	(単位:	千円)
		次世代を担う子ども達に環境問題や省エネ・節電などライフスタイルに対する気づきを与え、環境保全を推進する人材を育成するため、市立全小学校3年生を対象に、地球温暖化防止や省エネなどの環境に関す出前授業を行う。									
	業の ・目的	進する人村	オを育成す	室に環境間るため、計	問題や省エネ す立全小学校	、・節電など ₹3年生を対	ライフスタッけ象に、地球	ハルに対する 水温暖化防.	る気づきを- 止や省エネ	与え、環境(などの環境	呆全を推 意に関する
	-1	進する人材出前授業	オを育成す	るため、市	問題や省エネ i立全小学校 立全小学校 みに家庭で!	で3年生を対	け象に、地球	^找 温暖化防.	止や省エネ	与え、環境化 などの環境	呆全を推 ぎに関する
概要	・目的	進する人材出前授業	オを育成す を行う。	るため、市	ī立全小学校	で3年生を対	け象に、地球	^找 温暖化防.	止や省エネ	与え、環境(などの環境 H31	R全を推 ぎに関する H32
概要	-1	進する人材出前授業・	オを育成す を行う。	るため、市	ī立全小学校	で3年生を交 取り組むエ	け象に、地球ロチャレンジ	ド温暖化防. ジを実施した	止や省エネ	などの環境	ぎに関する
概要	・目的	進する人材出前授業・	オを育成す を行う。 漂名	るため、市	う立全小学校 みに家庭で!	t3年生を対 取り組むエ 年度	†象に、地球 コチャレン: H28	ド温暖化防ブを実施したH29	止や省エネ た割合 H30	Kなどの環境 H31	ぎに関する H32
田標 平成 3	・目的	進する人林出前授業 指本 おかりまた。 おかりまた。 を行ってで取ります。 でで取ります。 は、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが、これが	オを育成す を行う。 漂名 位 校3年生全い ジュ出担ジエコ・ り組むエコ・	るため、計 夏・冬休。 クラスを対こ 実施後にに チャレンジ	う立全小学校 みに家庭で!	ま3年生を交 取り組むエ 年度 目標値 実績値 まこための施したのを はなるた実にあった。 はないでは、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 はないでも、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とないとは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、 とは、	対象に、地質 コチャレンジ H28 100 92 防止や省から 対り返りとして た。また、昨		止や省エネ と割合 H30 100 80 投境に関する さずに、推進 フに関する たに導入し	H31 100 る出前授業 ものの項目 た夏休み後	#32 100 を実施し 崔し改善 について



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
争未計価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工仕寻里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりなきとでか	日五元	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきなた	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
ロ え な な	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	2
		評価点	42	41

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	総合	評価		A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	教育現場に教員以外の講師を派遣することで、子ども達と 地域の人々とのコミュニケーションが生まれるとともに、 教員への波及効果が期待され、環境保全に対する興味や意 識が向上することが期待される。	ながら考えることができた。
兄んに休起で励し		新たに導入したフォローアップ講座(2回講座)を活用する小学校が少なく、授業時間の確保とマッチングする方法を検討したい。

No.	52 事業名	事業名 アダプトプログラム推進事業「さわやかクリーン奈良」			-ン奈良」						
部名 市民活	3. N. H	1 2 2 1 2	課名	協働推進		. ,,,,,,,					
	音	章 第4章		生活環境			(I)	環境美化剂	舌動の推進		
総合計画上の 位置付け		214 = 1	生活•環境衛生			———— 展開方向		アダプトプログラム推進事業を実施し、地域のボランティアによ			
1 1 単直打け	施策	4-03-01	環境美化	どの推進			る道路、河川等	の公共施設の美	化活動を支援し	ます。	
相手方の名称	自治会・ス	ドランティア		美者等	協働事業の	の実施手法	事業協力				
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成20年月	隻			
平成30年度事業	費予	算額		3,125	決争	算額		2,845	(単位:	千円)	
	市民の方々による身近な道路、河川等の公共施設の美化活動を通して地域コミュニティの再生を図る。										
事業の 概要・目的					、共施設の	美化活動を	通して地域	なコミュニテ	ィの再生を[図る。	
概要・目的		々による身 標名	近な道路、 活動団体								
	指		活動団体		共施設の 年度 目標値	美化活動を H28 64	通して地域 H29 66	はコミュニテ H30 83	イの再生を H31 85	図る。 H32 87	
概要・目的	指	標名	活動団体	この増	年度	H28	H29	H30	H31	H32	
概要・目的	指 ボームペ ドカップからい である	標名 4位 ージやしみ, D回収、90 、ごみ袋45 などを基に	活動団体 - E んだより、† たのごみ袋 5L及び901	sの増 団体 情報誌「りろら の提供、ボ Lの支給、ご 方法を改善し	年度 目標値 実績値 ぱ」を通して ランティレマル、	H28 64 60 C参加団体 新保険へ ボランティ	H29 66 81 を募集し、「 の加入を行 ア活動保険	H30 83 92 市の支援といった。また、 への加入を	H31 85 て、報奨会 報奨金を	H32 87 ≥10,000 希望しな	



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	3
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	3
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちちちなかったもきなかっ	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
iv te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	38	31

総合点	69
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	アダプトプログラム推進事業の活動団体が増えることにより、市が活動支援を行い、地域の有志の団体が美化活動を行うことで、「自分たちのまちを自分たちの手できれいにしよう」という意識が広がり、地域コミュニティの再生につながった。	・地域がきれいになった。・地域の親睦が深まった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	それぞれの団体によって清掃方法が異なるため、すべての 団体ニーズに沿うことができない。	・メンバーの高齢化、担い手不足。 ・美化活動をする人を対象にした人材育成講座を行う。 ・情報誌「りろぱ」を住民や自治会にも配布してほしい。

No.	53	事業名	佐保川清:	·····································							
部名	環境部	7 212 E		課名	まち美化丼	推進課					
		章 第4章		生活環境	生活環境			<u>(1)</u>	環境美化活	舌動の推進	
	†画上の 景付け	基本施策	4-03	生活·環境	竟衛生		展開方向	【ノグントノログ)	ラム推進事業を実	実施し、地域のボ	ランティアによ
位置付け		施策	4-03-01	環境美化	の推進			る道路、河川等	の公共施設の美	化活動を支援し	ます。
相手方	うの名称	佐保川清	帚対策委員	会		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	春				事業開	始年度	昭和34年			
平成30	年度事業費	予算	算額		0	決算	草額		0	(単位:	千円)
	業の ・目的	地域住民	地域住民の方々のボランティア活動により佐保川の美化活動を行う。								
		指標名									
	指标	票名	美化活動	への参加人	.数						
1 日標	型 指標	指标	票名	美化活動	への参加人	数 年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標	票指標		票名	3 4 1 - 1 - 1 - 1 - 1	への参加人 人	年度 目標値	1,500	1,500	1,500	H31 1,550	H32 1,550
目標	票指標			3 4 1 - 1 - 1 - 1 - 1		年度					
平成 3	票指標 3 0 年度 目内容	単 地域住民(位	ィア活動に		年度 目標値 実績値	1,500 1,200	1,500 1,200	1,500 1,200	1,550	1,550



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性			
5 4 3 2	1 相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow$	│	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工任守里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
	き自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらり	b EXIL	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		
たもき		協働相手と目的を共有することができましたか。	5	
えか なっ		お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	
		評価点	40	0

総合点	80
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	総合評価					
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18		

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	美化活動と共に、水辺に棲む生物の生活環境を保持し、 「自分たちの手で自分たちのまちの美化を促進する」とい う意識を保持することが出来た。	
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	自主的な参加が減っている。	

No.	54	事業名	人と動物が	h物がともに暮らせるまちづくり事業							
部名	健康医療		/C3/19/7	課名	生活衛生	() () ()					
即在	() () () () () () () () () () () () () (다)		禄石	土伯俐土	米					
総合計画上の 位置付け		章	第4章	生活環境	1			2	人と動物がと	もに暮らせるま	ちづくり事業
		基本施策	4-03	生活・環境	竟		展開方向	狂犬病に対する認識	や動物愛護の意識の	高揚に努めるとともに劇	物の正しい飼い方
		施策	4-03-02	生活・環境	竟衛生の向	上と増進		を啓発し、人と動物が	『良きパートナーとして	共に暮らせるまちづくり	を推進する
相手方	の名称	自治会				協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成15年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		59	決算	算額		17	(単位:	千円)
事	業の	自治会をi	甬じて動物	の適切な負	同い方に関っ	 よるポスター	ーを配布しれ	掲示してもん	ううとともに.	地域住民	一の意見
	業の ・目的	交換を行い	ハ、良い意	見を反映さ	同い方に関っ いくこと					地域住民	この意見
		交換を行い			いせていくこと	とで、飼い言	主のマナー	啓発に努め) Š	- / / / /	
概要		交換を行い	票名	見を反映されてターで	配布枚数	年度	Eのマナー H28	啓発に努め H29	H30	H31	H32
概要	・目的	交換を行い	ハ、良い意	見を反映されてターで	いせていくこと	とで、飼い言	主のマナー	啓発に努め) Š	- / / / /	
目標平成3	・目的	交換を行い 指 動物いて有を のので かい 有を が りのに かい れ う。 り り り り り り り り り り り り り り り り り り	票名 位 か方に関する は からと は からと は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な は な な な な は な	見を反映される ボスターで お布したで はたったで で ボスターで で ボスターで が れたいで は たっした で ボット同行	記布枚数 松 村 を集約・ で、 市全体に発	年度 目標値 実績値 整理しなが動物にあるなど	H28 800 451 ら、市の各 つる迷惑行ぎ、人と動物	PS に	H30 800 491 携し、動物 り組みにつらせるまち	H31 800 の適切な飼いて意見ろ づくりを推進	H32 800 引い方に を換を行 生する取り



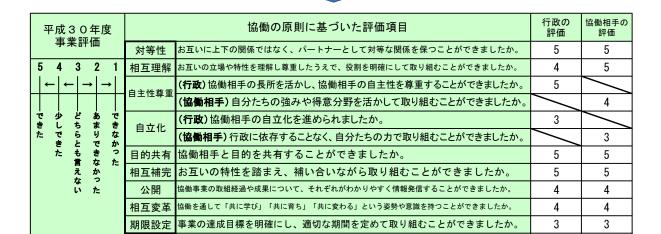
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができまし		5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土性导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちょきなかったもきたも	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	3
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	41	35

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	市と自治会がともに動物に関わる迷惑行為防止等の 取組みを行うことにより、動物の適正飼養に対する 意識を高めるとともに、飼い主に対しマナー啓発を 行うことで、人と動物がともに暮らせるまちづくり の推進を図ることができた。	継続してポスターを掲示することにより動物に関する迷惑行為に対してある程度の抑止効果があった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	動物に対する意識の隔たりが大きく、合意の形成が 困難であると感じる。根気よく啓発を継続すること を望む。	飼い主のマナー啓発には限りがあるため迷惑行為を 根絶することは難しい。

No. 5	事業名	環境フェス	スティバル、	ならクリーン	/フェスタ					
部名 環境部			課名	廃棄物対策						
	章	章 第4章 生活環境					1	ごみ減量・	リサイクルの	の推進
総合計画上の 位置付け	基本施策	4-04	廃棄物処	理		展開方向			て、各種市民団体と近 (図ります。また、ごみの	
	施策	4-04-01	一般廃棄	物の処理			し、関係法令に則った 事業系ごみの減量を		不適正なごみの搬入	を抑制することにより、
相手方の名称	奈良市ご	み懇談会			協働事業の	の実施手法	共催			
実施の時期	通年				事業開	l始年度	平成6年度	Ę		
平成30年度事業費	予算	算額		164	決算	算額		133	(単位	: 千円)
			ハる環境月間や3R(スリーアール)推進月間などの契機に、本市の取糸 揚とごみ減量・リサイクル促進の必要性を訴えるため、啓発活動の一:							
事業の 概要・目的	関する問題	題意識の高	揚とごみ流	或量・リサイク	アル促進の					
	関する問題		揚とごみ流		水促進の	必要性を訴	えるため、	啓発活動の	一環として	開催す
	関する問題 る。 指標	題意識の高	揚とごみが	▼・リサイク への参加者数	ル促進の 女の増加 年度	必要性を訴 H28	えるため、 H29	啓発活動の)一環として H31	開催す H32
概要・目的	関する問題 る。 指標	類意識の高 票名	揚とごみが	或量・リサイク	水促進の	比要性を訴 H28 6,000人/2回	えるため、	啓発活動の H30 6,000人/2回)一環として H31	開催す H32
概要·目的	関する問題 る。 指相 単 しみんだよ た。市民団 ペースを扱	質意識の高票名 でないないでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	揚とごみ減 イベントへ 人 一ムページ 備段階から 品団体には	▼・リサイク への参加者数	アル促進の。 女の増加 年度 目標値 実績値 フリーマーク ただいた。 を生かした	比要性を訴 H28 6,000人/2回 3,000人/1回 ケット出店オイベント当 3Rへの啓	H29 6,000人/2回 3,000人/1回 皆を公募し 日は当選し 発を展開し	P発活動の H30 6,000人/2回 6,000人/2回 で募者から た市民ヘフ ていただい	H31 6,000人/2回 抽選を行い リーマーク いた。また、気	開催す H32 6,000人/2回 決定し ットのス 乗良市手を



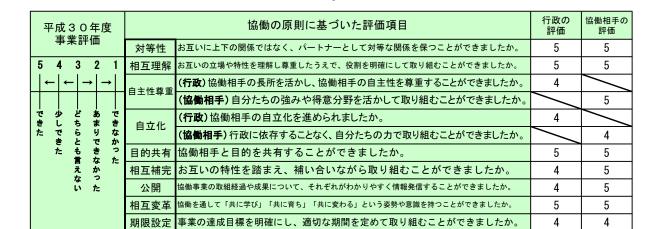
評価点

総合只	76
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	交換会のイベントは盛況であり、来場者に、ごみがまだ使えるものであるという認識を変化させる機会が提供されている。今後の開催時も、さらなる協力が得られる可能性が高い。	靴・鞄・縫いぐるみの交換市は浸透してきているとは思うが、秋のフェスタでは市で回収した中から抜くということができなかったので数量的に減少した。春と秋の2回で合計約230 kg、延べ人数150名の参加があった。
見えた課題や協 働相手に対して	長年継続して実施している事業であり、フリマ応募者も減少傾向にあることから、マンネリ化を防ぐための催事内容や次期の見直し(協働相手の発掘と関係性の強化)を検討していく必要がある。	担当の職員さんが1年で異動や変動するので、またごみ懇談会の会員も関われる人数が減少しているので、どちらも自分たちのことで手いっぱいで協働の作業がなかなかできない。話し合いの時間も取れないので十分な準備ができない。

No.	56	事業名 ごみ減量キャラバン									
部名	環境部			課名	廃棄物対策						
総合計画上の 位置付け		章	第4章	生活環境	ĵ			1	ごみ減量・	リサイクル(の推進
		基本施策	4-04	廃棄物処	理		展開方向		点を置いた啓発活動とし し、家庭系ごみの減量を		
江原	נוטיי)	施策	4-04-01	一般廃棄	物の処理				た指導・啓発を強化し、		
相手方	の名称	ごみ懇談会	会等			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成24年	连度		
平成30	年度事業費	予算	算額		132	決算	算額		98	(単位	: 千円)
					くの市民に、廃棄物の課題を認識していた						
	業の ・目的	んでいたた	::\\. ·					こだき、ごみ	みの減量及で	び3Rの促進	能に取り組
			::\\. ·		に、廃棄物 ノへの参加者	音数の増加					
概要		んでいたた	票名	キャラバン	ノへの参加者	香数の増加 年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要	・目的	んでいたた	::\\. ·	キャラバン		f数の増加 年度 目標値	H28 600	H29 600	H30 600		
目標 平成 3	* 目的	んでいたた 指植 単 奈良市内の	票名 位 の公民館や	キャラバン	ノへの参加者	音数の増加 年度 目標値 実績値 分別・減量	H28 600 396	H29 600 570	H30 600 292	H31 600	H32



評価点

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	じ目線で)でごみ減量手法やごみ分別について話していた だけることから、参加する市民の方にも、よりわかりやす	市からの説明をしっかりすることで毎年同じ公民館、同じ参加者であっても毎回市から伝えたいことを言い続けて浸透を計ることでごみのことへの理解を深めることができた。市民に「何故そうするのか」という説明をよりわかりやすく伝えることができた
周 男 か 世 野 わ か	認識してくれているが、まだまだ浸透していける余地がある。今後、小学生を対象に実施するなど、裾野を広げてい	市の担当職員さんが短期間で異動したり変動があるので キャラバンの継続を維持するためには最初から関わってい るごみ懇談会の役目も重要と感じる。お互いの役目を協働 で分担することによってより良いキャラバンへと継続する ことができると思う。

No.	57	事業名	(左) 於 92 制 /	企 型新川-	L ース・リサイ	カル東娄					
	٥.	尹未石	阿似伯没								
部名	環境部			課名	環境政策	课					
		章	第4章	生活環境	Í			① ごみ減量・リサイクルの			り促進
	計画上の 計付け	基本施策	4-04	廃棄物処	L理		展開方向				
 14 	ני עו ב	施策	4-04-01	一般廃棄	手物の処理				った指導・啓発を強化し	、不適正なごみの搬力	
相手方	の名称	関西ワンラ	ディッシュエ	/ド協会		協働事業の	の実施手法	委託			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成27年月	变		
平成30	年度事業費	予算	算額		3,732	決算	 算額		3,121	(単位:	千円)
			₩n 上 / ¬ -	プおしくま、コープ七条、はぐくみセンター)や奈良市の主催イベント等にて、家庭で 食器類を持ち込んでいただき回収するとともに、持ち帰りたい食器があれば配布する」を開催する。本事業を通じて、ごみの2R(発生抑制、再使用)を促進し、ごみに対					マロッテ		
	業の ・目的	用になった 「もったい	こ陶磁器製	食器類を	持ち込んでい	へただき回り	収するととも	に、持ち帰	りたい食器	があれば西	己布する
	10.00	用になったいる意識の高	た陶磁器製 ない陶器市	食器類を打を開催す	持ち込んでい	いただき回り を通じて、、	収するととも	に、持ち帰	りたい食器	があれば西	己布する
概要	・目的	用になったいる意識の高	と陶磁器製ない陶器市 高揚を図る。	食器類を打を開催す	持ち込んでいた。 する。本事業	いただき回り を通じて、、	収するととも	に、持ち帰	りたい食器	があれば西	己布する
概要	10.00	用になった 「もったい」 る意識の配 指植	と陶磁器製ない陶器市 高揚を図る。	食器類を開催する	持ち込んでいた。 する。本事業	いただき回い を通じて、 一ス率	収するととも ごみの2R(に、持ち帰発生抑制、	りたい食器 再使用)を	があれば酸促進し、ごう	己布する みに対す
概要	・目的	用になった 「もったい」 る意識の配 指植	た陶磁器製ない陶器市 ない陶器市 高揚を図る。	食器類を開催する	持ち込んでいた。本事業 は食器のリユ・	へただき回り を通じて、 一ス率 年度	収するととも ごみの2R(- H28	らに、持ち帰発生抑制、 H29	りたい食器 再使用)を H30	があれば香 促進し、ご <i>ã</i> H31	已布する みに対す H32
田標平成 3	・目的	用になった「もったいっる意識の下る意識の下るをできます。」 「もったいっているできます。」 「もったいっている。」 「もったいっている。」 「「もったいっている」 「「もったいった」 「もったいった」 「もったいったいった」 「もったいった」 「もったいったいった」 「もったいった」 「もったいったいった」 「もったいったいった」 「もったいった」 「もったいった」 「もったいた」 「もったいった」 「もったいった」 「もっ	た陶磁器製 ない陶器市 高揚を図る。 票名 位 き行った。 コー夏に	食器類を開催する。	持ち込んでいた。本事業 は食器のリユ・	ただき回、一ス率年度目標値実績値条、はぐ保備	収するととも ごみの2R(- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	に、持ち帰発生抑制、 H29 59 61 の3箇所でないに出店し、	けたい食器 再使用)を H30 62 61 E期開催を	があれば 促進し、ご H31 63 行い、市役	日布する 外に対す H32 64



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき き し ち ま す た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちょうなかったもきなかっ	日立几	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
		評価点	40	45

総合只	85
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	定期開催のほかに事業展開を運営側と協議し続けた結果、 新規拠点にて事業を開催することができた。幅広く市民に ごみの2Rを啓発することができた。	奈良市内3カ所、市役所での休日開催を行ったことで今年度は3000件を超える持ち込みがあった。安定した場所での開催が市民に浸透してきたと感じる。このことから陶磁器食器の2Rが促進されゴミ減量に貢献出来た。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど		まだ周知されていない拠点 (コープ七条) の市民へのアピールを検討して頂きたい事と、本年度は開催出来なかったリユース市の開催を希望します。

N,		Alle	. 2 2 2 2.) N E E E	W. I 1724						
No.			なら・まちぇ	いと京観を							
部名 都市	整備	部		課名	景観課						
		章	5章	都市基盤	ī.			4	協働による	景観まちつ	づくり
総合計画上の 位置付け		基本施策	5-02	景観			展開方向	地域の貴重な景	₹観資源を発掘 し	、、それを市民一	人ひとりが活
		施策	5-02-01	奈良らし	い景観の形	戎		用できる景観施	策を推進します	•	
相手方の名	称	自治会・ホ	「ランティア	団体		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の時期	月	通年				事業開	始年度	平成22年	度		
平成30年度事業	業費	予算	算額		239	決	算額		14	(単位:	千円)
			-3								
事業の概要・目的	5	計画を立てを景観資料	て、街歩きを原として蓄利	を通じて私 責し、観光	との協働に。 たちの住む や街の活性	街角にある	、ちょっとし				
3 -14 - 4	5	計画を立てを景観資料	て、街歩きを	と通じて私	たちの住む や街の活性	街角にある	、ちょっとし				
概要・目的	5	計画を立てを景観資料	て、街歩きを原として蓄利	を通じて私 責し、観光	たちの住む や街の活性	街角にある	、ちょっとし				
3 -14 - 1		計画を立を景観資料を景観資料	て、街歩きを原として蓄利	を通じて私 漬し、観光 活動団体	たちの住む や街の活性	街角にある 化につない 年度 目標値	、ちょっとし げていく。	た素晴らし	い景観スポ	パットを発掘	する。これ
概要・目的	5	計画を立を景観資料を景観資料	て、街歩きを 原として蓄利 票名	を通じて私 漬し、観光 活動団体	たちの住む や街の活性 本数の増	街角にある 化につない 年度	、ちょっとし げていく。 H28	た素晴らし H29	い景観スポ H30	ペットを発掘 H31	する。これ H32
概要・目的	度	計画を立てを景観資産を景観資産を開発を表現である。	て、街歩きを 原として蓄系 原として蓄系 漂名 位 の方景観スプ	を通じて私 責し、観光 活動団体 との協働は よの協働は よったを発	たちの住む や街の活性 本数の増	街角にある 化につない 年度 目標値 まちかど景を ショップを	、ちょっとし デていく。	た素晴らし H29 2 1 題し一般の ひ景観資源	H30 3 1)方々を募積 として蓄積	ポットを発掘 H31 3 集し、街歩や し、観光や	ける。これ H32 4



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
争未計価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
たでらりな	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
たもきっ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
ロ え か っ な か っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	5
		評価点	40	38

総合点		78
行政・協働相手の評価		
(※協働相手の評価から 占数を2倍して質出)	、木記人の場合	訂は行政の

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	身近な場所での景観資源の新たな発見により、奈良らしい 景観を普段から意識していただくきっかけづくりが出来 た。	奈良の素晴らしいと思える景観について、意識 を高めることができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	協働で活動しているボランティア団体は、高齢の方が多数 を占めている。若手の参加者を増やすことが求められる。	今後も市と協力して景観資源の発掘などの活動を継続した いと思う。

No	F0	古光力	海口片出	サルナ・ロンチ	い、生ごごといも	4、4日4					
No.	59	7.76 1	建区丛古?		い街づくり打	<u></u> 推進団体					
部名	都市整備	部		課名	景観課						
, a = .		章	5章	都市基盤	ž L			4	協働による	景観まちつ	
	計画上の ∄付け	基本施策	5-02	景観			展開方向	景観まちづくり市	「民組織の結成、	育成を支援する	5とともに、各
	21317	施策	5-02-01	奈良らし	い景観の形成	戓		組織のネットワー	ク化を図ります。	,	
相手方	の名称	自治会・2	名以上のオ	デランティア	ア団体	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成16年月	度		
平成30	年度事業費	予算	草額		343	決算	算額		78	(単位:	千円)
		l									
	業の ・目的	いただき、	その活動を	・通じて地	さるよう、道路域の景観を				告物を市民	の方々に関	余却して
		いただき、		・通じて地		守る意識を	高めていた	だく。			
概要	・目的	いただき、	その活動を 票名	活動団体	域の景観を				告物を市民 H30	H31	余却して H32
概要		いただき、	その活動を	活動団体	域の景観を	守る意識を	高めていた	だく。			
概要	・目的	いただき、	その活動を 票名	活動団体	域の景観を	守る意識を	高めていた H28	H29	H30	H31	H32
田標平成 3	・目的	おおがま、	その活動を 票名 位	活動団体	域の景観を	守る意識を 年度 目標値 実績値	高めていた H28 38 43	H29 46 47	H30 54 49	H31 62	H32 70



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしてらとできたもったも	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
		評価点	43	44

総合点	87
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	違反広告物を出さない街づくり推進団体との協働によって、地域の景観を守る意識が高められた。	活動当初と比べて簡易広告物の除去件数が減少していることは、活動の成果である。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	より多くの市民の方々に景観の意識を高めてもらうために、活動団体の増加を目指す。	除去件数が減少しているので、今後は活動の意義をPRすることが課題である。

No.	60	事業名	グリーンサ	ポート制団	É						
	市民活動	7.76 1	// //	課名	協働推進	里					
DP71	中以行動	пh				ж					
₩Δ ≡ ⊥ï	ᇒᆫᄼ	章	第5章	都市基盤	Ě			1)	公園·緑地の	の管理や運営	営の多様化
総合計画		基本施策	5-06	公園•緑均	地		展開方向			要などを活用し、市民等	との恊働による公
	13.7	施策	5-06-01	公園·緑坛	地の整備			園・緑地の管理運営	を推進します。		
相手方の	の名称	自治会等	地域の団体	Z		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の)時期	通年				事業開	始年度	平成20年	度		
平成30年	F度事業費	予算	算額		13,620	決算	<u></u> 算額		13,551	(単位:	千円)
事業 概要・				·	利用できる』			民の自主的	な活動の推	推を図る。	
		市民が公園		·	利用できる。	による公園	管理率				H32
	目的	指标		グリーンサ				民の自主的 H29 34	な活動の拍 H30 36	能進を図る。 H31 38	H32 40
概要・	目的	指标	票名	グリーンサ	ナポート制度	による公園 年度	管理率 H28	H29	H30	H31	
概要・	指標の年容	指権が関する。	票名 位 ろぱ」の発 また、活動 公園維持管	グリーン t	ナポート制度 % いだより、ホー などを基に、 ひ推進・拡大	による公園 年度 目標値 実績値 ームページ(手続き方)	間管理率 H28 32 28 の広報活動 去を改善し、	H29 34 31 31	H30 36 33	H31 38 コレ、団体数	40 gの増加



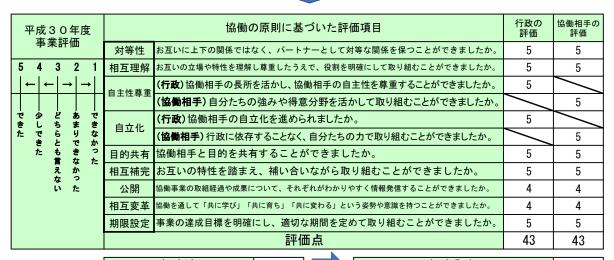
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ でき き し ち ま な た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きなかっ	日立に	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
in te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	2
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	39	34

総合点	73
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 は行政の

	В			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって	グリーンサポート制度に登録する公園は年間を通じて美化が保たれた。 自分たちの地域の公園は自分たちの手で美しくしようという機運が芽生え、登録団体の増加に繋がっている。	・地域がきれいになった。
見えた課題や協	それぞれの団体によって、公園の管理方法が違うため、すべての団体のニーズに沿えない。 参加者の高齢化に伴い、維持管理活動に支障が出始めている。担い手の育成の仕組みを検討する必要がある。	・ 清掃ホフンナイグに関する情報の収集、提供を允美する ・ 活動。の会加た旧せてぶいした行う

No. 61	61 事業名 なら燈花:		会開催事業	É						
部名 観光経済	部		課名	観光戦略記	果					
40 A -1 - 1 -	章	第6章	経済				1	観光資源•	施設の整備	⋕•充実
総合計画上の 位置付け	基本施策	6-01	観光			展開方向				
LE17.7	施策	6-01-01	観光力の	強化						
相手方の名称	特定非営利	利活動法人	、なら燈れ	花会の会	協働事業の	の実施手法	補助・助成	Ì		
実施の時期	8月5日~	14日			事業開	始年度	平成11年	度		
平成30年度事業費	予算	算額		10,000	決算	算額		10,000	(単位:	千円)
事業の 概要・目的	観光閑散期の奈良の夏に多くの観光客を呼び込むため、奈良公園内の7カ所の会場で毎夜約300人を超えるボランティアの人力によって20,000個のろうそくを灯し、歴史的建造物等のライトアップを含めた夏の祭典として、なら燈花会を開催する。									
	指標	票名	期間中の	来訪者						
目標指標	単位		人		年度	H28	H29	H30	H31	H32
					目標値	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
					実績値	911,000	975,000	951,000		
平成30年度 取組内容	しみんだより・観光パンフレット・ホームページ、公共施設へのチラシ・ポスター設置等を通じ、ボランティア募集を積極的に展開。また、「なら燈花会支援会議」に参画し、関係団体と一体になったPR活動に努めた。									



総合点 行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の点 数を2倍して算出)

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって今や夏の奈良の風物詩として認知されている。また、ボランティアをはしめとする多くのスタッフが奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。	経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業だが、「特定非営利活動法人 なら燈花会の会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって今や夏の奈良の風物詩として認知されるに至った。また、この事業が継続されることにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフー人一人が奈良を訪れることにつながり、奈良を愛する心を育むことができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	10日間の開催のため期間を通じて一定数のボランティアを確保することが困難になりつつあり、また役員の後継者不足も見受けられる。	多くのボランティアにより継続できているが、役員の後継 者不足が見受けられる。

No.	62	事業名	ガイド付き	ツアー							
			カイド的さ								
部名	観光経済	部		課名	観光戦略	米					
/ A = /		章	第6章	経済				2	観光客受力	人体制の充	実
総合計画上の 位置付け		基本施策	6-01	観光			展開方向	着地型観光(目	的地である着地	側で企画する観	光)の内容の
江恒	נוטוי)	施策	6-01-01	観光力の	強化				強化に努めます		, , , , , , , , , ,
相手方	の名称	なら・観光:	ボランティブ	アの会		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の	の時期	7月・8月・1	.2月・1月を	除く通年		事業開	始年度	平成22年	度		
平成30:	年度事業費	予算	車額		200	決算	算額		200	(単位:	千円)
		対 観光ボランティアガイドの解説のもと、観光客の皆様に歴史の残る奈良を歩いて、4									
	業の ・目的							る奈良を歩	いて、学び、	、楽しんでも	් රිට්.
		観光ボラン指標			のもと、観光:						
概要	・目的	指植	票名					5奈良を歩 H29	いて、学び、 H30	、楽しんでも H31	からう。 H32
概要			票名	ガイドツフ		集客)の増					
概要	・目的	指植	票名	ガイドツフ	アー参加者(集客)の増 年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要 目標 収取 3	・目的	指相	票名 位	ガイドツフ	アー参加者(集客)の増 年度 目標値 実績値	H28 1,200 638	H29 1,200 601	H30 1,200 897	H31 1,200	H32 1,200



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしてらとできたもったも	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	41	43

総合点	84
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
加関によう (観光客からの評価は高く、満足していただいている。また、協働相手と密に連絡をとることによって、利用者からの感想が聞ける。	行政との情報交換を進めながら、より魅力的な コース設定やテーマ設定を行った結果、お客様 から高い評価を得ることが出来、また参加した いという声を沢山頂いている。
兄んに休起で励	利用者からの評価は高く、コース内容に変化を持たせることにより、30年度の参加人数が増加したたため、さらなる魅力的なコースの造成を期待する。	全てのガイド付きツアーでコース変更を行ったが、特に秋のツアーでは新規ルート設定に加えツアーのタイトルも変えることで、お客様に新規性のアピールが出来、参加人数の大幅増に繋がった。今後も更なる情報交換を進めより魅力的なコースやテーマ設定を行っていきたい。

No.	63	事業名	しあわせに	回廊~なら瑠璃絵~開催事業							
	観光経済		00,45 CE		課名 観光戦略課						
ни-н	B/L/L/ISS 1/7		I		BU/UTXIPU						
総合計画	町上の	章	第6章	経済)		施設の整備	
位置作		基本施策	6-01	観光			展開方向	オフシーズンでなら瑠璃絵」を開作			
		施策	6-01-01	観光力の	強化			育てます。	10,110,100	C 15070 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	D INC D SERVICE
相手方の	の名称	なら瑠璃総	会実行委員	会		協働事業の	の実施手法	補助・助成			
実施の)時期	2月初旬~	~中旬			事業開	始年度	平成21年	度		
平成30年	度事業費	予算	草額		8,000	決算	算額		8,000	(単位:	千円)
事業	÷ ∩	 	木配 亩十	幸大仏殿	、興福寺東会	を 学の 右門	拝組の宝	あや 左良!	司力博物館	の有問盟領	点 一九
概要・					SLEDライト				3 - 17 19 M		# , <u></u> ^_
			茶良公園		るLEDライト				a - 14-10 kg	V KIHIJII	· 二仁
概要・	目的	寺をつなく	茶良公園	内における	るLEDライト				H30	H31	H32
	目的	寺をつなく 指 核	茶良公園	内における 期間中の	るLEDライト	等によるあ	かりの演出	などを行う。			
概要・	目的	寺をつなく 指 核	*奈良公園 票名	内における 期間中の	SLEDライト 来訪者	等によるあ	かりの演出 H28	などを行う。 H29	H30	H31	H32
概要・	指標 0 年度 內容	寺をつなく 指植 単 しみんだよ	※奈良公園票名位の・観光パ	内における 期間中の ンフレット・ 気団体と一個	来訪者 人 ホームペー 体になったF	等によるあ 年度 目標値 実績値 ジ等を通じ	かりの演出 H28 500,000 386,000	H29 500,000 369,000	H30 500,000 412,000	H31 500,000	H32 500,000



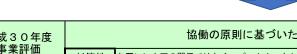
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき き し ち り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
きなかっ	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
ű t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合評価									
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価						
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18						

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業の実施が可能となった。	「なら瑠璃絵実行委員会」による企画運営と、 多くのボランティアの協力によって経費的、内 容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業の 実施が可能となった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	冬季イベントということもあり、当日のボランティアを確保することが困難。	実行委員会と行政機関との間を取り持っていただきました。人海戦術部分においては、ご協力とご尽力をいただきました。奈良という土地が持つ心映えに寄り添いながら、三社寺を結ぶという軸を大切に、新しい感覚を取り入れ、お互いに協力し、よりよい事業にしていきたい。

No.	64	事業名 バサラ祭り開催事業										
部名	観光経済	部		課名	課名 観光戦略課							
		章	第6章	経済				1	① 観光資源・施設の整備・充実			
	計画上の ∄付け	基本施策	6-01	観光		J.	展開方向					
江原	11111	施策	6-01-01	観光力の	強化				-	=		
相手方	の名称	特定非営	利活動法人	、バサラ衆	₹	協働事業の	の実施手法	補助·助成	į			
実施	の時期	8月末				事業開	始年度	平成10年	度			
平成30	年度事業費	予算	算額		1,500	決算	算額		1,500	(単位:	千円)	
	業の ・目的	踊りながら	パレードを	行うものて	祭りで、それがあり、奈良の)夏の顔の			を着たダン	スチームが	各会場を	
		踊りながら		行うものて		関の顔の	一つとして:	実施する。				
概要		踊りながら 指 材	パレードを	行うものて	であり、奈良の)夏の顔の			を着たダン H30 80,000	スチームが H31 80,000	各会場を H32 80,000	
概要	・目的	踊りながら 指 材	パレードを	行うものて	であり、奈良の の来訪者数の)夏の顔の 増 年度	一つとして; H28	実施する。 H29	H30	H31	H32	
目標平成3	・目的	踊りながら 指林 単 来訪者をよ	パレードを 票名 位	(押) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対) (対	であり、奈良の の来訪者数の	度の顔の 増 年度 目標値 実績値 路議し、実	H28 80,000 27,000	実施する。 H29 80,000 30,000	H30 80,000 32,700	H31 80,000 、観光ウイン	H32 80,000	



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$\left \leftarrow \right \leftarrow \left \rightarrow \right \rightarrow \left \right $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕寻里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりな	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
き と で かった き な た	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
えかなっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
ιν t∈	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	40	41

総合点	81
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 数を2倍して算出)	

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	「バサラ祭り実行委員会」による企画運営と、多くのボランティアの協力によって経費的、内容的に行政だけでは賄いきれない規模の事業実施が可能となった。また、この事業に参加することにより、ボランティアをはじめとする多くのスタッフ、出演者一人一人が奈良を訪れる観光客に対する「おもてなしの心」を醸成するとともに、地域に関わる誇りと愛着を持つことにつながり、奈良を愛する心を育むことができ、地域の活性化にも貢献できた。	道路や駅前広場といった公共空間を舞台にすることが多いため、市の支援を得ることで関係諸団体の理解も得やすくなっている。また告知等についても広報誌や記者クラブを通じてのアピール、観光ウィンドウなどの展示多くの協力をいただき、広く市民にアピールできた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	地域での認知度が高まってきたので、今後のイベント の拡大・発展が課題である。	行政の持つ資源を活用し祭りを盛り上げることで、奈良市中心部の活性化や奈良の魅力の発信に繋げていきたいと考えている

No. 6	事業名	月ヶ瀬梅村	太国选 消息	久敕 借						
	/	プ1 ク 1/映1時年			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·					
部名 建設部			課名	道路建設	:					
<i>∞</i> ∧ =1 - 1 −	章	第6章	経済				1	観光資源	・施設の整備	前・充実
総合計画上の 位置付け	基本施策	6-01	観光			展開方向	梅林周游道	路の整備を行い	、観光ネットワーク	かのひとつとし
四世 1717	施策	6-01-01	観光力の	強化			ての環境整備			
相手方の名称	梅林周遊	道路改修委	景会		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成17年	·度		
平成30年度事業費	予算	<u></u> 算額		50,000	決算	草額		54,954	(単位:	千円)
事業の 概要・目的	がら、名勝		林」を周遊	バーとして記 学する道路を						
	指	票名	道路の整	妊備延長 L=	1280m					
目標指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
日保担保	単	位		m	目標値	100	100	100	100	106
					実績値	88	0	220		
平成30年度 取組内容				ついて、早期 備を完了した		者と調整した	よがら取得	に向けた交	渉を進める	ことができ
今後の方針										



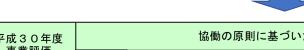
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま ち た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちちちなかできたもちたち	日立几	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3
i t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
		評価点	35	36

総合点	71
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 は行政の

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	委員会が地権者、関係者との仲介に加わることによ り事業をスムーズに進めることができた。	お互いの役割分担を明確にし、対等な関係で意見交換を行い、事業を進めることができた。
	協働相手からの整備内容の要望意見に対し、限られた予算を効率的に執行しているが、お互いが合意するのに時間を要する。	行政の事務手続きは時間を要するため、事業の進捗 を左右する。

No.	66	事業名 転害門前観光駐車場の運営									
部名	観光経済	部		課名	奈良町にき	ぎわい課					
		章 第6章		経済				①	観光資源・	施設の整備	前•充実
	計画上の 骨付け	基本施策	6-01	観光			展開方向	歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイ			
 12 E	21317	施策	6-01-01	観光力の	強化			レや案内看板等	の環境整備を図	図ります。	·
相手方	うの名称	ミディ総合	管理株式会	会社		協働事業の	D実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成18年度(指	定管理者制度導	事入年度)	
平成30	年度事業費	予算	算額		2,920	決算	車額		2,920	(単位:	千円)
	業の ・目的	観光客及	び市民の駐	E車の便宜	を図るためい	こ駐車場を	設置し、指	定管理者制	削度にて運	営管理を行	う。
		指标	票名	駐車利用	台数の増						
日標	票指標					年度	H28	H29	H30	H31	H32
	K 111 NK	単	.位		台	目標値	5,400	5,500	6,724	6,900	7,000
						中华法	5,970	6,625	7,297		
						実績値	5,970	0,020	1,231		
	3 0 年度 阻内容	の安全性、	告時など指 . 利便性の 里運営を行	向上及び	と定期的に 利用促進並	青報共有を	行うとともに	こ、たびたひ	「現地への	訪問も行った だける駐車	た。施設 :場にする



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価対等性		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土性导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちまきないできともきたもき	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	3
		評価点	39	35

総合点	/4
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

切りしての辛日

	行政の意見	協働相手の意見
	駐車場運営の専門的な経験から、大きなトラブルもなく安 定した運営管理を行い利便性の向上に努めた。	転害門駐車場のおかれている目的や位置づけ等について理解することが出来た。またそれは今後の具体的な運用の参考とすることが出来た。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	きたまちエリアの利便性向上のため、さらなる認知度のUPに努めるべく、情報の発信の強化が必要。	周りの民間駐車場と比較すると、その宣伝 (案内方法含む) については不十分であると認識している。条例等の規制や予算の問題もあるが方法を検討する必要があるように思います。

No.	67	事業名	奈良市なら	うまち枚子	-の家						
	 経済		小尺川な!			おわい舗					
1000 10	淫饵				3471/10米						
40 A =1 1		章	第6章	経済	圣済			1	観光資源・	施設の整備	備・充実
総合計画上 位置付け		基本施策	6-01	観光			展開方向	仁然世能の下	芸など体感・体験	できる体制を敷	シェナ
口巴(),,		施策	6-01-01	観光力の	強化				はない はない はる	(1991年前を至	A. 4 9 .
相手方の名	称	ならまち格	子の家指定	管理者コ	ンソーシアム	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の時期	钥	通年				事業開	始年度	平成18年度(指	定管理者制度等	享入年度)	
平成30年度事	業費	予算	算額		4,208	決算	算額		4,208	(単位:	: 千円)
事業の概要・目的		ために格っ	子の家を運	営する。	見し、観光客	及び市民の	の観覧と利信	更に供する	とともに、町	並み保全は	こ資する
3 -14 - 4		ために格っ	1			及び市民の	つ観覧と利信	更に供する	とともに、町	並み保全は	こ資する
概要・目的	勺 ·	ために格っ	子の家を運	営する。		及び市民 <i>0</i> 年 度)観覧と利(H28	更に供する H29	とともに、町 H30	並み保全(H31	こ資する H32
3 -14 - 4	勺 ·	ために格った	子の家を運	営する。							
概要・目的	勺 ·	ために格った	子の家を運 票名	営する。	女の増	年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要・目的	度	ために格子	子の家を運 票名 位 者と定期的元 は地元の	営する。	女の増	年度 目標値 実績値 で、より良い	H28 100,000 100,390 \施設運営	H29 105,000 95,383	H30 100,000 85,152 また、奈良i	H31 115,000 市から積極	H32 120,000 的に観光



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価 対等性 お互いに上下の関係		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ でき き し ち ま な た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
き し ち ら と き ち な かっ	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
		評価点	38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	総合	評価		A
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	奈良町内に所在する各施設との連携を図りながら企画運営 することが出来た。	ならまち散策の拠点として、運営できた
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	訪日外国人に向けた新しい情報発信や企画を求める。	外国人旅行客が増えているので、それに合わせて施設の改修(特に洋式トイレ)を望みます。

No. 68	事業名	奈良町から	うくりおもな	うや館						
部名 観光経済			課名	奈良町に	ぎわい課					
	章	第6章	経済				(I)	観光資源:	施設の整備	崩∙充実
総合計画上の	基本施策	>14 - 1	観光			展開方向				
位置付け	施策	6-01-01	観光力の)強化			伝統芸能や工	芸など体感・体験	できる体制を整	えます。
相手方の名称	特定非営利	活動法人が	らくりおもち	らや塾奈良町	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成24年			
平成30年度事業費	予算	算額		6,990	決集	算額		6,990	(単位:	千円)
事業の 概要・目的	どもたち、	の雰囲気が 観光客など	「残る町家 で世代間	の空間のなだ	かで、からく 問な流のt	くりおもちゃ 具口 て汗F	を介して、訁	坊れていた	だいたお年	寄りや子
		光振興の拠	<u>l</u> 点とする	ために奈良町				-より、 <i>(</i> はりま	らの活性化	と及び奈
				ために奈良町	けからくりお	もちゃ館を	運営する。			
目標指標	指标	光振興の拠票名	<u>l</u> 点とする	ために奈良町	けからくりお 年度	もちゃ館を H28	運営する。 H29	H30	H31	H32
	指标	光振興の拠	<u>l</u> 点とする	ために奈良町	けからくりお	もちゃ館を	運営する。			
	指柱	光振興の拠票名位	L点とするが 入館者数 根差したよ	ために奈良町なの増	「からくりお 年度 目標値 実績値	H28 52,000 46,227	運営する。 H29 52,500 40,972	H30 50,000 37,625	H31 51,000	H32 52,000



平成30年度		行政の 評価	協働相手の 評価				
事業評価 	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4			
5 4 3 2 1	相互理解	3互理解 お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。					
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4				
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		3			
で 少 ど あ でき き し ち り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。					
きなかっ	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4			
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	3	2			
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	3			
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	3			
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	2			
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4			
		評価点	33	28			

総合点	61
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合 占数を2倍して質出)	合は行政の

	В			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	からくりおもちゃを通して、多くの観光客にに 日本及び奈良の文化を紹介する事ができた。	お互いの特性を踏まえ、行政に依存することなく、補い合いながら得意分野に取り組むことができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	新しい企画や催しを行い、さらなる観光客の取 り込みに期待したい。	行政と目的を共有したり、相互変革の意識や姿 勢が持てるような場を持ちたい。

No.	9 事業名	旧鍋屋交	来キたまた	安内证							
		山刺至父			ν" ι ⇒m						
部名 観光経)		課名	奈良町に	さわい課						
(n A -1 - 1 -	章	第6章	経済				1	① 観光資源・施設の整備・充実			
総合計画上の 位置付け	基本施策	6-01	観光			展開方向	歴史の理を中心	とした観光ルー		ポットでのトイ	
	施策	6-01-01	観光力の	強化			レや案内看板等	5の環境整備を図	1ります。		
相手方の名称	鍋屋連絡所の伊	保存・活用と"奈良	きたまち"のまち	らづくりを考える会	協働事業の	の実施手法	委託				
実施の時期	通年				事業開	始年度	平成24年度				
平成30年度事業	予:	算額		213	決算	算額		205	(単位:	千円)	
事業の 概要・目的				5観光客の利 内所を設置 [・]		ともに、地	域の活性化	による観光	振興に寄り	チすること	
2 -14	を目的とし			内所を設置で		ともに、地	域の活性化	による観光	振興に寄与	チすること	
概要·目的	を目的とし	て、まちか	ど観光案	内所を設置で		ともに、地: H28	域の活性化 H29	による観光 H30	振興に寄り H31	チすること 	
3 -14	を目的とし	て、まちか	ど観光案	内所を設置で	ナる。						
概要·目的	を目的とし	で、まちか	ど観光案	内所を設置でない。	する。 年度	H28	H29	H30	H31	H32	
概要·目的	を目的とし	漂名 値 運営にあた	ど観光案来館者参	内所を設置でない。	する。 年度 目標値 実績値	H28 10,000 5,999 協議の場を	H29 10,500 4,716	H30 6,000 4,814	H31 6,500	H32 7,000	



平成30年度		行政の 評価	協働相手の 評価	
事業評価 	対等性	5	5	
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ でき き し ち り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。		
きなかっ	日立几	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	41	42

総合点	83
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	
占数を2倍して質出)	

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	奈良女子大学との連携により、地域の活性化に 繋がっている。また、地元の協力も得られ運営 出来ている。	当会で開催しているイベントに共催頂き市民だよりに案内を掲載いただいたり、案内所の消耗 品を購入いただいたりして助けていただいてい る。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	引き続き、地域に根差した運営を行ってほしい。	当会のイベントへの共催、市民だよりへの掲載 や備品の購入など助けていただいているが、物 品等へのさらなる支援をお願いしたい。また、 新にぎわい構想実現に向け引き続きご努力願い たい。

No.	70	事業名	史跡·名勝	きをめぐるウ	ェルカムサ	ービス〜知	って奈良と	:びらガイド	~			
部名	観光経済	部		課名	観光戦略調	課						
		章	第6章	経済				2	② 観光客受け入れ体制の充実			
	·画上の [†] 付け	基本施策	6-01	観光			展開方向	事業者・市民が奈良	の歴史・文化を学び、る	会良の魅力の理解の下	もてなしの心の籐	
四直的17		施策	6-01-01	観光力の引				成により、来訪者への	充実したサービスの提	供を図ります。		
相手方	の名称	なら・観光	ボランティブ	アガイドの会	;	協働事業の	の実施手法	補助・助成	÷			
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成25年	 度			
平成30年	年度事業費	予算	算額		100	決算	 算額		100	(単位:	千円)	
	業の・目的		転入の届け				観光ボラン	ディアガイ	ドの会による	5観光案内	を行う。	
		指	票名	期間中の来訪者数の								
日樗	指標				年度	H28	H29	H30	H31	H32		
H 17K	10.12	単位		人	目標値	50	50	50	50			
								10			50	
		大模値 11 10 3 転入届出窓口等で、積極的なPR活動に努めた。							3		50	
	0年度 内容	転入届出	窓口等で、	I 積極的なP	R活動に努	実績値 らめた。	11	10	3		50	



平成30年度 事業評価		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事未計1111	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日土仕导里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりなきとでか	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきっ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
ロ え か っ な か っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
ű t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	37	37

総合点	74
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	本市で暮らしはじめる方々に、奈良を知っていただき、地域の魅力を掘り起こしていただきながら、これからともに育んでいただくための第一歩として「おもてなしの心」で迎えることができた。	本制度を利用されたお客様は、他の市にはない制度で、奈良を知るうえで大変良かったととの声が寄せられている。今後とも積極的に利用推進について、取り組む必要性を痛感した。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	参加者の満足度は高いものの、認知度が低く、 参加者が伸び悩んでいる。ポスター掲示に加 え、新たな周知方法を検討。	今年度は、本制度のポスターを作成し、市役所市民課の窓口に掲示を行い、本制度の認知度アップに取り組んだ。今後はマスコミ等との連携を深め、さらに積極的な周知活動に取り組むこととしたい。

No.	71	事業名 奈良市きたまち転害門観光案内所運営事業								
部名	観光経済	部	•	課名 奈良町に						
総合計画上の 位置付け		章 第6章		経済			① 観光資源・施設の整備・充実			備・充実
		基本施策	6-01	観光		展開方向	歴史の道を中心とした観光ルート沿いや、観光スポットでのトイ			
		施策	6-01-01	観光力の強化			レや案内看板等	の環境整備を図	切ます。	
相手方	の名称	転害門前	旧銀行跡建	物活用協議会	協働事業の	の実施手法	委託			
実施の	の時期	通年			事業開	始年度	平成25年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額	1,677	決算	算額		1,671	(単位:	千円)
	業の ・目的	る観光案に		Fである奈良市所有の 資源の発掘及び調査						
		指	票名	来館者数の増						
日樗	[指標	単位			年度	H28	H29	H30	H31	H32
н гл	(10 1)			人	目標値	10,000	10,500	10,000	10,100	10,200
										10,200
					実績値	9,353	8,103	7,381		10,200
	〇年度 I内容			っては、委託先と適宜 見催し、きたまち地域の	情報交換。	や協議の場	を設けなが	ぶら実施した		



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	4
$\left \begin{array}{c c} \leftarrow & \leftarrow & \rightarrow & \rightarrow \end{array} \right $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日工圧等里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で少どあできるちょき	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちまきたでらりな	日五元	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
き と で か た も き っ 言 な た	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	3
えかなっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
iv te	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	3
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	35	35

総合点	70
行政・協働相手の評価点を合計して	
(※協働相手の評価が未記入の場合 数を2倍して算出)	は行政の点

	総合	評価		В
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	観光客への利便性の向上及び地域の活性化に繋 がる運営が出来た。	今年度は観光案内所の紹介掲示板や周辺の観光 看板の設置をいただき、案内文についても、ご 相談いただけたことは良かった。モニターとCD 再生機を設置いただけたことで、ビジュアルに よる観光案内が可能となった。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	今後のきたまちの活性化の為に、お互い意見を 出し合い協働していきたい。	きたまちを散策する方々が増えてきて、案内する上で奈良町界隈のマップは充実しているが、きたまち界隈のマップがなく苦慮している。今後、きたまちを紹介するマップづくりに協働して取り組みたい。

No.	72	② 事業名 奈良町南観光案内所運営管理										
		7:20 1	宗民門用	1								
部名観	見光経済	部		課名	奈良町に	きわい課						
総合計画上の 位置付け		章第6章基本施策6-01		経済			① 観光資源・施設の整備・充実					
				観光			展開方向	【歴文の道を中心とした観光ルート伯いで、観光へかットでのPA				
		施策	6-01-01	観光力の	強化			レや案内看板等	等の環境整備を	図ります。		
相手方の	2名称	有限会社《	くるみの木			協働事業の	の実施手法	委託				
実施の問	時期	通年				事業開	始年度	平成27年月	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			
平成30年度	度事業費	予算	草額		28,065	决 算	算額		28,065	(単位:	千円)	
事業 <i>の</i> 概要・目	ひ	内外に発信	言しながら、	奈良町南	委託先と適宜 阿観光案内所 がら、第	rへの誘客	を促進する	。また、駐耳				
	ひ	内外に発信	言しながら、 や利便性の	奈良町南	可観光案内所 がら、第	rへの誘客	を促進する	。また、駐耳				
概要・目	か 目的 	内外に発作の安全性が	言しながら、 や利便性の	奈良町南の一人に努	可観光案内所 がら、第	rへの誘客	を促進する	。また、駐耳				
	か 目的 	内外に発作の安全性 ³ 指植	言しながら、 や利便性の	奈良町南 向上に努 来館者数	可観光案内所 がら、第	「への誘客 ド内所と一位	を促進する本的な活用	。また、駐車 を行う。	車場の運営	にあたって	は、施設	
概要・目	か 目的 	内外に発作の安全性 ³ 指植	言しながら、 や利便性の 票名	奈良町南 向上に努 来館者数	可観光案内別 そめながら、第 なの増	「 下への誘客 下と一位 年度	を促進する 本的な活用 H28	。また、駐車 を行う。 H29	車場の運営 H30	にあたって H31	は、施設 H32	
概要・目	か目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	内外に発作の安全性が指揮を内所の記入のいる。	言しながら、 や利便性の 票名 位 軍営にあた。	奈良町南 か向上に努 来館者数 っては、委 奈良町南	可観光案内別 そめながら、第 なの増	「一への誘客」 年度 目標値 集積値 特への誘客	を促進する 本的な活用 H28 50,000 30,522 や協議の場	。また、駐車を行う。 H29 50,500 31,855 を設けなか。また、駐車	申場の運営 H30 51,000 24,611	H31 51,500 奈良町の鬼	は、施設 H32 52,000 魅力を国	



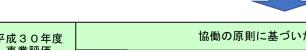
平成30年度	協働の原則に基づいた評価項目		行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	5
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	- 自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土注导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしちまきなたきときかったもき		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	5	5
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	5
		評価点	43	45

総合点	88
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	A			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	民間ならではの手法で運営・経営を行う事により、行政では成し得なかった活性化をもたらすことが出来た。	行政との協働により、地域住民との良好な関係を持続でき、トラブルなく事業が続けることができた。弊社の特性をご理解いただき、尊重していただいており、安心して弊社らしく事業を遂行できた。
	少子高齢化により、人材不足という課題を乗り 切るためにお互い創意工夫が必要である。	昨年に引き続き、行政との共同施設としての判断や手続きなど、相談に乗っていただき、間違いのないようサポートをお願いしたい。

No.	73	事業名 奈良町にぎわいの家運営管理									
部名	観光経済		7.7.2	課名	課名 奈良町にぎわい課						
		章	第6章	経済				①	観光資源•	施設の整備	備∙充実
	画上の	基本施策	×1	観光			展開方向		しや伝統文化が		>=> 1
位值 	付け	施策	6-01-01	観光力の)強化			す。	して伝統文化が	148・148 でさる	01年制を登えま
相手方	の名称	奈良町に	ぎわいの家	管理共同	体	協働事業の	の実施手法	指定管理			
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成27年			
平成30	年度事業費	予算	算額		16,560	決算	章額		16,560	(単位:	: 千円)
	業の • 目的				町に暮らす住 創出の拠点と						息づく歴
		史文化の			削出の拠点と						息づく歴
概要	・目的	史文化の	発信拠点、	にぎわい	削出の拠点と						息づく歴 H32
概要		史文化の登場を	発信拠点、	にぎわい	削出の拠点と	eするため! 年度 目標値	C奈良町に H28 100,000	ぎわいの家 H29 105,000	だ運営する H30 97,500	ó.	
概要	・目的	史文化の登場を	発信拠点、 票名	にぎわい	創出の拠点となる。	生するために	C奈良町に H28	ぎわいの家 H29	を運営する H30	Н31	H32
田標平成 3	・目的	史文化の ³ 指 権 単 指定管理	発信拠点、 票名 位 者とと定期的 共し、地元の	にぎわいれ来館者数	創出の拠点となる。	### ### #############################	大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大会・大	H29 105,000 93,247 を行った。	H30 97,500 93,006 また、奈良i	5。 H31 98,500 市から積極	H32 100,000 的に観光



平成30年度 事業評価			協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
争耒評1	対等性 お互い		お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	4	4
5 4 3	2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow$	$ \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
		日土仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で少どきしち	あまり	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きしてらとも	りなか		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	きった	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
え	かった	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	4
เง้	t.	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
		相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
		期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
			評価点	38	38

総合点	76
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
	町家や奈良町の文化の紹介のみならず、独自の 企画で観光客や地元住民へのアプローチが出来 た。	奈良町にぎわい課の情報やネットワークを通して、奈良町の生活文化を奈良町にぎわいの家の 手法で表現し、来館者に発信できた。
		奈良町の活性化および町家保存のための施策を 相互に意見交換し、連動して目的に向かう関係 を、今以上に構築したい。

N			+ + - + +.								
No.	74		佘艮 上云	フェスティバル							
部名	観光経済	部		課名	産業政策	課					
		章 第6章		経済				3	産業の支援	と地域経済	の活性化
総合計画 位置付		基本施策	6-04	商工・サー	ービス業		展開方向	奈良の伝統工芸と伝	統産業の継承・発展の	ため、制作体験やイベ	ベント、インターネット
	119 17	施策	6-04-01	商工・サー	ービス業の掳	뒞		【を通じて情報発信を行	行い、工芸品等の販路 問題については、研修	拡大に努めます。また	:、緊急の課題であ
相手方	の名称	工芸作家				協働事業の	の実施手法	共催			
実施の	の時期	年1回				事業開	始年度	平成元年月	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
平成30:	年度事業費	予算	算額		543	決.	算額		533	(単位:	千円)
	業の ・目的	赤膚焼等の	の工芸作品	品の特別展	に合わせて、 示、制作実 をすることで	演・体験な	どを通じて	、奈良工芸			
		赤膚焼等のまた工芸品	の工芸作品	品の特別展	示、制作実 をすることで	演・体験な	どを通じて	、奈良工芸			
概要	・目的	赤膚焼等のまた工芸品	の工芸作品 品を期間中	品の特別展 、特別販デ	示、制作実 をすることで	演・体験な	どを通じて	、奈良工芸			
概要		赤膚焼等(また工芸品	の工芸作品 品を期間中	品の特別展 、特別販売 来場者数	示、制作実 をすることで	演・体験な 工芸の振り	どを通じて、	、奈良工芸める。	に対する理	解と認識を	深める。
概要	・目的	赤膚焼等(また工芸品	の工芸作品品を期間中	品の特別展 、特別販売 来場者数	示、制作実売することで	演・体験な 工芸の振動 年度	どを通じて、 以発展に努っ H28	、奈良工芸 める。 H29	に対する理 H30	解と認識を H31	深める。 H32
田標平成3	・目的	赤膚焼等6また工芸品 指植 単 平成30年	の工芸作品を期間中 需名 票名 位	品の特別展、特別販売 来場者数	示、制作実 で での増 人	演・体験な 工芸の振り 年度 目標値 実績値	どを通じて、 具発展に努 H28 6,300 5,453	、奈良工芸 める。 H29 6,350 5,515	H30 6,400 5,774	解と認識を H31 6,450 6,417	深める。 H32 6,500



平成30年度 事業評価	協働の原則に基づいた評価項目 対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		行政の 評価	協働相手の 評価
尹未計Ш			5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工任寺里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で少どあできしちまき	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちまきなたでとでか	日立に	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
たもきっ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	5
えかっ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
ű t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	3	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	37	42

総合点	79
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 数を2倍して算出)	算出 は行政の点

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
得られた効果	工芸作品の展示のほか、制作体験教室の講師等工芸作家の協力抜きにはなし得ない事業がほとんどである。お茶会の実施や工芸品の人気投票などの企画を通して昨年度より来館者が増加し、より多くの人へ工藝館や伝統工芸の周知を図ることができた。	余良巾の協力により、地酒の試飲販売や、珠光条会 実行委員会の協力を得てお茶会の開催ができた。まち
働相手に対して 求めることなど	若手作家からベテラン作家まで、工芸関係者が工芸フェスティバルにおける目標や理念を共有し、負担が偏ることなく全体で取り組むことが重要である。工芸フェスティバルへの協力が若手作家にとってもメリットとなるように、企画・立案を行っていくことが今後の課題である。	お茶席や地酒販売など事業の多様性を高めるために は奈良市との協働が不可欠で有り、感謝とともに今後 も継続をお願いしたい。また、イベントに関わる、

No.		事業名 「奈良しみんだより」の英訳									
	75	7-76-1	余艮しみ	んたより」	の 英訳						
部名	総合政策	部		課名	秘書広報	果					
		章 第7章		基本構想の推進				1	市政情報の	の提供	
	ト画上の ∄付け	基本施策	7-01	市政情報	の発信・共	有	展開方向	市政情報入手に	こついての市民	ニーズの把握にタ ど多様な広報手具	努めるとともに、 みを利用し、そ
一一一	11917	施策	7-01-01	開かれた	市政の推進					ることで、有効な	
相手方	の名称	奈良S.G.C	Gクラブ			協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	毎月				事業開	始年度	_			
平成30	年度事業費	予算	算額		120	決算	算額		120	(単位:	千円)
事	業の・日的										
170 \$	- -					情報をお知	いらせする。				
1771 X			票名	配置部数		情報をお先	らせする。 				
						情報をお知	H28	H29	Н30	H31	H32
	· 日間	指标		配置部数				H29 190	H30 200	H31 200	H32 200
		指标	票名	配置部数	:	年度	H28	1120	1100		
目標平成 3		指 本 単 行政は「奈 みんだより	票名 位 ぼ良しみんだ のPDFをi	配置部数部でより」の掲載を	:	年度 目標値 実績値 料を提供し にした。	H28 190 198	190 195 用紙を支給	200 195 いた。また	200 200 、完成した3	200



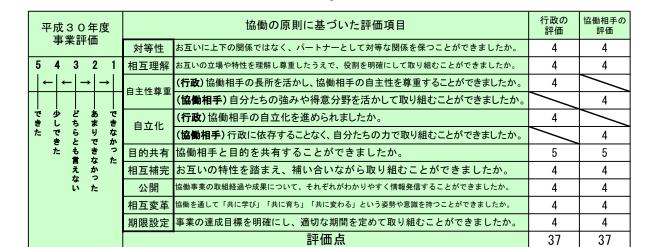
	平成30年度 事業評価 一			行政の 評価	協働相手の 評価			
	争	耒詽	' 1		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5	4	3	2	1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
←	- ←	- -	→ -	•	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
					日工任守里	(協働相手)自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
でき	少 し	どち	あま	でき	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
きた	でき	6	りで	なか	日立に	(協働相手) 行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
	t	ě	きな	った	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
		言えな	かっ	/-	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
		い	Æ		公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
					相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
					期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	5
						評価点	42	43

総合点 85 行政・協働相手の評価点を合計して算出 (※協働相手の評価が未記入の場合は行政の 点数を2倍して算出)

•		総合評価							
	A 評価	B評価 C評価 D評価			E評価				
	90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18				

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	外国籍市民等が増加する中、市政情報の需要も高まり、しみんだよりの英語版は必須となっている。ごみの出し方等の生活に必須の情報や、市役所での各種手続き案内など、外国語対応を急ぐ市政情報について、しみんだよりで毎月のお知らせを精度の高い英語翻訳で行えることは、日本部が分からない住民が安心して市で暮らすための一助となっている。さらには外国籍市民にもまちづくりへの参画を幅広く促すことにも繋がるため、今後とも力を入れて取り組んでいきたい事業である。	当クラブ翻訳委員会にはいろいろな分野で活躍した委員がたくさん在籍し「奈良市民だより」の英語版の発行に携わっている。 英語版市民だよりの発行は25年間以上、一度も途絶えていない。 就労のために奈良市内に居住する外国人は増加しており、地域での自治体情報や健康に関する情報等は国情の違いもあり大変重要である共に、利用している外国人には重宝されている。 行政のご協力により原稿の配信の電子化によるスピード化が進み、月初に発行ができた月があった。 配布先も以前より2個所追加された。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	スケジュールを前倒し原稿データを早く先方へ送付すること、また、先方での作業工程を迅速化して頂くことが解決 管であるが、精度を維持する中ではどちらも難しい。双方	英語版発行までの作業工程上では、市の協力のもとに電子化を進めて、工程上の無駄を少なくするように努力しているが、機械翻訳では出来ない正確な情報の発信のために、委員会内でのプレ校正の後、ネイティブの方による英文校正を確実に実施している。 在留外国人が立ち寄りそうな場所には、英語版市民だよりを置いてもらえるような活動も続行する。 奈良市観光協会の輪転機を使用してきたが老朽化により、他所での印刷オブションを検討中である。

No.	76	事業名 まちづくり振興事業「月ヶ瀬地域振興協議会」									
部名	市民生活	部		課名	月ヶ瀬行政	女センター	地域振興	課			
		章 第7章		基本構想の	の推進			(2)	市政に対す	る提言、要望	望等の反映
	├画上の ├付け	基本施策		市政情報の発信・共有		 有	展開方向	新市建設計画	L í」を着実に実施	し、月ヶ瀬地域振	興協議会の活
加工	L19 ()	施策	7-01-01	開かれた市	市政の推進			動を通じて、市	政に対する提言	、要望等をまちつ	ろいに反映さ
相手方	の名称	各種団体	·自治会等			協働事業の	の実施手法	実行委員	会・協議会		
実施の	の時期	通年				事業開	始年度	平成17年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		1,700	決算	算額		1,700	(単位:	千円)
	業の ・目的	展に資する	3.	5将来のまち		いて協議	を行うほか、	地域の振り	興等を図り。	もって奈良	市の発
		展に資する		会議の開作							
概要		展に資する	票名	会議の開催	崔回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
概要	・目的	展に資する	3.		崔回数	年度目標値	H28	H29 24	H30 24		
概要	・目的	展に資する	票名	会議の開催	崔回数	年度	H28	H29	H30	H31	H32
目標 平成 3	・目的	展に資する 指 相 行 で 行った。 関 すること	票名 位 て、イベント の会議の例	会議の開催	崔回数 豆 交付、市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	年度 目標値 実績値 実験関係課す くりに及び 保存及び	H28 24 13 及び機関等 ることや新 反興に関す	H29 24 14 等への連絡 市建設計画 ること、地切	H30 24 14 調整、協議 証に伴う要等 或イベント等	H31 24 24 会事務局と 望活動、進技	H32 24 にして支援 歩状況に



総合点	74		総合	評価		В
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合	算出	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
(忽励動性子の計画が未記人の場合 点数を2倍して算出)	114711以(()	90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって得られた効果	地域の振興を目的として地域の団体が連携し、事業を企画、実施し、自主運営による地域の活性化並びに地域コミュニティの形成ができた。	地域イベントについては、地域団体や住民が一体となって、活性化に向けての取り組みができた。
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	地域組織としての自主的な活動の充実強化のため、リーダー、後継者の育成が不可欠であり、自立化を進め行政との役割分担を明確化し、今後の組織の在り方、方向性について具体的な検討の場を持ち、話し合っていく必要がある。	自立化に向け組織の在り方等話し合っていく必要がある ので今後も協働を図っていきたい。

	77	事業名 都祁まちづくり協議会									
No.			まないまり、		- '	7 . S . 2m	(4) t= t= t= 1.4-1				
部名	市民生活			課名	都祁行政	センター地					
, <u>-</u> .		章 第7章		基本構想	基本構想の推進 ② 市政に対する提言、要望			翟等の反映			
	計画上の ∄付け	基本施策	7 - 01	市政情報	の発信・共	有	展開方向	新市建設計画	を推進するため、	都祁まちづくり協	協議会の活動を
 17 E	יונו ב	施策	7-01-01	開かれた	市政の推進			連じて、市政にす。	対する提言、要	望等をならづくりし	に反映させま
相手方	の名称	地域住民	(都祁まち~	づくり協議	会)	協働事業の	の実施手法	補助・助成	Ì.		
実施	の時期	通年				事業開	始年度	平成17年	度		
平成30	年度事業費	予算	算額		3,500	決算	算額		3,500	(単位:	千円)
	事業の 概要・目的 1. 住民要望の取りまとめ及び新市建設計画の進捗に関すること。2. 業) 3. 地域振興事業(都祁高原マラソン大会)					。2. 地域間	『 交流事業	(農業体験)	交流事		
		指标	票名	利用者数	(の増						
日垣	5 华 堙	指植	票名	利用者数	(の増	年度	H28	H29	Н30	H31	H32
目標	雲指標		票名 位		(の増 人	年度目標値	H28 1,600	H29 1,620	H30 1,640	H31 1,660	H32 1,680
目標	震指標		·· -							1121	
平成 3	票指標 3 0 年度 引内容	都祁地域の流事業を実行し、地域がでも、地域が	位 の自治会・自 施した。4月 るし柿・しめ	治連合会へには、参加 には、参加 縄作り体験 一環としてで	人 、協力を呼び 叩者を募集し、 ほと1年をとお 市内外からの	目標値 実績値 かけ、住民 、5月から茶 て農業体	1,600 1,487 要望の取りま 摘体験、スン 険をしてもら	1,620 1,596 まとめを行う。 ベラン・ホタル い地域間交	1,640 1,577 地域交流事 自由観賞、 流を図った。	1,660 1,660 業として、農 ブルーベリー まちづくり活	1,680 1,680 最業体験交 一採り、収 動におい



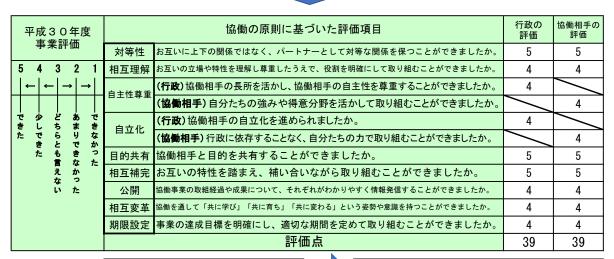
平成30年度		行政の 評価	協働相手の 評価	
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	4	
	日工仕导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		4
で 少 ど あ で き し ち ま き	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	3	
たでらりなきとでか		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		3
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	4	4
言 な た え か な っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	_	_
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	3	4
		評価点	31	32

総合点	63
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	算出 合は行政の

	В			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75~61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見		
協働によって 得られた効果	一体的なまちづくりを進めるための新市建設計画の推進や、都祁地域の振興及び地域間交流の場として農業体験交流及び都祁高原マラソン大会を実施し、都祁地域の持っている魅力を発信することができた。	互いの特性を発揮しながら、役員会等で十分 な協議を重ね情報共有を行うことで、都 部地域 の活性化につなげることができた。		
協働することで 見えた課題や協 働相手に対して 求めることなど	活動団体の自主活動の充実と、強化のための リーダー養成及び確保。	行政との関わりや、協働における役割分担の 明確化を図りながら、まちづくり活動を展開し ていく。		

No.	78	事業名	地域の未	来について	の懇談会	(令和元年	F度より、	「地域ミー	-ティング	」に変更)	
部名 市員	民活動	部	課名 地域活動		推進課						
総合計画 Lの		章	第7章	基本構想	<u></u>			(1)	市民参画	及び協働の	推進
		基本施策	7-02	市民参画・	•協働		展開方向		市長が地域に出向いて地域活動に取り組む各種団体と対話を行い、地域の課題に対する認識を共有し、協働して解決に向けて考える場として、「地域		
四旦的	''	施策	7-02-01	市民との協	協働による 市	7政運営			開催し、地域と行政	が協働して、住みよ	
相手方の名	名称	奈良市自治	治連合会			協働事業の	の実施手法	共催			
実施の時	寺期	通年				事業開	始年度	平成254	丰度		
平成30年度	事業費	予算	算額		0	決算	算額		0	(単位:	千円)
丰业 ~		市長が直接地域に出向き、地域活動に取り組む各種団体の役員する認識を共有し、地域・行政が協働して解決に向けて考えていら「地域ミーティング」を実施。平成29年度に開催手法の見直し区単位ではなく奈良市自治連合会のブロックを単位として、市長の役員との対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強来についての懇談会」として開催している。					えていくこ	とを目的に	こ、平成25	年10月か	
事業の 概要・目	目的	区単位でし	はなく奈良 の対話を通	表市自治連 通して情報	合会のブロ 共有と一層	コックを単 骨のパート	位として、	市長が地	域を訪れ、	地区の主	要四団体
	目的	区単位で の役員と 来につい・	はなく奈良 の対話を通	表市自治連 通して情報	合会のブロ 共有と一層 開催してし	コックを単 骨のパート	位として、	市長が地	域を訪れ、	地区の主	要四団体
	目的	区単位で1 の役員と0 来につい	はなく奈良の対話を通ての懇談会	ま市自治連 通して情報 として 開催地区	合会のブロ 共有と一層 開催してし 数	1ックを単 骨のパート いる。 年度	位として、 ナーシップ H28	市長が地	域を訪れ、	地区の主	要四団体
概要・目	目的	区単位で1 の役員と0 来につい	はなく奈良 の対話を通 ての懇談会	ま市自治連 通して情報 として 開催地区	合会のブロ 共有と一層 開催してし	1ックを単 骨のパート いる。 年度 目標値	位として、 ナーシップ H28 30	市長が地 プの強化を H29	域を訪れ、 図ることを H30 40	地区の主を目的に「	要四団体 地域の未
概要・目	目的	区単位で1 の役員と0 来につい	はなく奈良の対話を通ての懇談会	ま市自治連 通して情報 として 開催地区	合会のブロ 共有と一層 開催してし 数	1ックを単 骨のパート いる。 年度	位として、 ナーシップ H28	市長が地 プの強化を H29	域を訪れ、 図ることを H30	地区の主 を目的に「 H31	要四団体 地域の未 H32
概要・目	標集集	区単位ででの役員との来について指権	はな対 な対 が で 一 来 位 年 し で で で で で で で で で で で で で	表市自治連通して情報を 通して情報を 開催地区 開催地区	合会のブロス 共有としている 数 2区で「地)	1ックを単 層のパート へる。 年度 目標値 実績値 域の未来に	位として、 ナーシップ H28 30 23	市長が地 プの強化を H29 35 25 懇談会」を	域を訪れ、 図ることを H30 40 31	地区の主 を目的に「 H31	要四団体 地域の未 H32 42



総合点	/8
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の点
数を2倍して算出)	

	Α			
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

		行政の意見	協働相手の意見
	こよって れた効果	では、 地域課題について地域・行政双方が認識を共有するとともに、その課題解決が進められた。また、両事業の開催により、地域の各団体の役員が一堂に会することで、各地区におけ	「地域の未来についての懇談会」では、市長と各ブロックの主要四団体役員が奈良市から示された共通の内容についての対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強化が図れた。地域ミーティングでは、その地域ごとに抱えている課題について地域・行政が共有し、課題解決が図られた。奈良市自治連合会として取り組まなければならない課題も見え、地域自治協議会設立の機運も高まった。
見えた働相手	課題や協に対して	「地域ミーティング」では、開催地区や課題の偏りがあったため、平成29年度の途中に開催手法の見直しを行い、「地域の未来についての懇談会」として開催することとなったが、市の説明が大半で話し合いの場になっていないなどの意見を受けて再度見直しを行い、改めて「地域ミーティング」として、話し合いたいテーマの提出をしてもらい、より多くの地区で実施できるよう中学校区単位で実施することとなった。	各地域と行政が情報や意見交換等交流の場を持ち、 対話を通して情報共有と一層のパートナーシップの強 化を図ることが必要である。

No.	79	事業名	HUG ² (は	グルナグ) 奴	n						
			1100 (14			÷m					
部名	市民活動	部		課名	協働推進	米					
総合計画上の 位置付け		章	第7章	基本構想	の推進			① 市民参画及び協働の推進			
		基本施策	7-02	市民参画	·協働		展開方向	市民参画と協働によるまちづくりを総合的・計画的に推進するために、本市で実施し、 又はこれから実施しようとする協働事業を実施計画として策定した「奈良市市民参画」			
		施策	7-02-01	市民との	協働による 「	万政運営		び恊働によるまちづく	り推進計画」に基づき、	、市民参画と協働を進る	めていきます。
相手方	ちの名称	市民公益》	舌動団体	-		協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施	の時期	5月~12月				事業開	始年度	平成26年月			
平成30	年度事業費	予算	算額		49	決算	草額		49	(単位:	千円)
		十日)~ .15	(=\ \ = \ -	み十日 ハー	光江到口口	の様と、よい	(垂山)ァ へいい	ナルロー・・・・	レーナ シノ 1. 1 ユ	リテ フの曲	- サ・アー
	業の ・目的	え、ともに流機会創出を	舌動したりう を目的に、	支援したりボランティン	益活動団体 するきっかり アインフォメ	をつくり出	すこと、また	市民公益	舌動団体の	情報交換。	や交流の
	-14	え、ともに清	舌動したりう を目的に、	支援したりボランティン	するきっかり	をつくり出	すこと、また	市民公益	舌動団体の	情報交換。	や交流の
概要	・目的	え、ともに流機会創出を	舌動したりう を目的に、	支援したりボランティン	するきっかり アインフォメ	をつくり出	すこと、また	市民公益	舌動団体の	情報交換。	や交流の
概要	-14	え、ともに流機会創出を	舌動したりまと目的に、	支援したりボランティン ボランティン	するきっかり アインフォメ	をつくり出 ーションセン	すこと、また ノターにおい	市民公益ネハて、HUG	舌動団体の ² (はぐはぐ	情報交換。)祭りを開催	や交流の 異する。
概要	・目的	え、ともに流機会創出を 指板	舌動したりまと目的に、	支援したりボランティン ボランティン	するきっかりアインフォメ	をつくり出ーションセン	すこと、また ノターにおい H28	市民公益 いて、HUG H29	括動団体の ²² (はぐはぐ	情報交換。) 祭りを開作 H31	や交流の 量する。 H32
概要 目標 平成 3	票指標	え、ともに活機会創出を 構会創出を 指権 単 HUG ² (は 団体と職員	活動したりまき目的に、注意を目的に、注意を目的に、注意を含めています。 票名 位	支援したり ボランティン HUG ² 祭 サポーター 重ねた。	するきっかりアインフォメ	をつくり出 ーションセン 年度 目標値 実績値	サンプリング H28 660 770 サポーター	# 29 695 744	活動団体の (はぐはぐ H30 760 1,146 目に1回開作	情報交換。) 祭りを開催 H31 780 催し、市民公	や交流の 全する。 H32 800



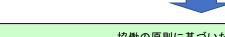
平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	対等性 お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。		5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	4	4
$ \leftarrow \leftarrow \rightarrow \rightarrow $	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日工社导里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち り た で ら り	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	4	
きしちらときなかっ		(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		4
	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な つ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	4	4
ů t	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	4	4
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	4	4
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	4	4
		評価点	39	39

総合点	78
行政・協働相手の評価点を合計して	算出
(※協働相手の評価が未記入の場合	は行政の
点数を2倍して算出)	

	総合	評価		Α
A評価	B評価	C評価	D評価	E評価
90~76	75 ~ 61	60~46	45 ~ 32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見
協働によって 得られた効果	行政・団体が互いに得意分野を発揮し、短所を補い合うことで、相乗効果を生み出し、イベントの成功につながった。	・多くの来場者があり、団体の紹介やPRができた。 ・年々参加団体が増え、活性化して素晴らしい。 ・ボランティア団体が一堂に会すいい機会だと思う。 ・他の団体の方々とのつながりができ、よかった。
	団体の活動を、より効果的に市民に知ってもらうための方 法を探り、また、団体・市民がより気軽に参加できるよ う、祭りの日程や内容を検討する。	・来場者を増やすことばかりでなく、各団体の活動をより 知ってもらうための工夫が必要。 ・イベントを通じて、普段個々に活動している団体相互の 交流を図り、団体同士の協働を生み出す。

N-	00	丰业 力	10 1월 #4구구	不明度/学	まなった。事人						
No.	80	事業名	租稅教主	F-47F- (F)	舞師の派遣)						
部名	財務部			課名	市民税課						
	章 第7章		基本構想の推進				①	健全な財政	汝運営		
総合計画上の 位置付け		基本施策	7-04	行財政運	[営		展開方向		* Am b 76 # 3 m1	and also days an administration of	A 1991 A 1
14.6	, ניו ניו	施策	7-04-01	効率的な	:行財政運営	•		財源催保への1	X組を強化し、射	政基盤の安定化	を図ります。
相手方	の名称	奈良税務	署管内 租	税教育推	進協議会	協働事業の	の実施手法	事業協力			
実施の	の時期	11月~1	月頃			事業開	始年度	平成20年	度		
平成30年	年度事業費	予算	算額		0	決犯	算額		0	(単位:	千円)
]、奈良県、県内市町村、学校教育機関及び関係民間団体等で組織する奈良県租税教育推進連絡協 事業の一環として、奈良税務署管内 租税教育推進協議会が開催する租税教室に職員を講師として する。						
事類 概要		会事業の造する。	一環として、	奈良税務	务署管内 租	税教育推定	性協議会が				
		会事業の造する。		奈良税務		税教育推議	生協議会が	開催する租	祖税教室に	職員を講師	として派
概要	•目的	会事業の遺する。	環として、	奈良税務	※署管内 租	税教育推議 継続して行 年度	性協議会が		税教室に H30	職員を講師 H31	として派 H32
概要		会事業の遺する。	一環として、	奈良税務	务署管内 租	税教育推議 継続して行 年度 目標値	生協議会が デラ H28	開催する和 H29 1	祖税教室に	職員を講師	として派
概要	•目的	会事業の遺する。	環として、	奈良税務	※署管内 租	税教育推議 継続して行 年度	生協議会が 計 計 H28	開催する和 H29	税教室に H30	職員を講師 H31	として派 H32
概要	指標 0年度	会事業の 遣する。 指材 単	- 環として、 票名 - 位	市職員の	※署管内 租	税教育推注 継続して行 年度 目標値 実績値	生協議会が	開催する和 H29 1 3	H30 3 4	職員を講師 H31 3	として派 H32 3



平成30年度		協働の原則に基づいた評価項目	行政の 評価	協働相手の 評価
事業評価	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができましたか。	5	5
5 4 3 2 1	相互理解	お互いの立場や特性を理解し尊重したうえで、役割を明確にして取り組むことができましたか。	5	5
	自主性尊重	(行政)協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができましたか。	5	
	日土仕寻里	(協働相手) 自分たちの強みや得意分野を活かして取り組むことができましたか。		5
で 少 ど あ で き し ち ま き た で ら り な	自立化	(行政)協働相手の自立化を進められましたか。	5	
たでらりな	日立化	(協働相手)行政に依存することなく、自分たちの力で取り組むことができましたか。		5
たもきつ	目的共有	協働相手と目的を共有することができましたか。	5	5
言 な た え か な っ	相互補完	お互いの特性を踏まえ、補い合いながら取り組むことができましたか。	5	5
いた	公開	協働事業の取組経過や成果について、それぞれがわかりやすく情報発信することができましたか。	3	3
	相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができましたか。	5	5
	期限設定	事業の達成目標を明確にし、適切な期間を定めて取り組むことができましたか。	5	4
		評価点	43	42

総合点	85
行政・協働相手の評価点を合計して (※協働相手の評価が未記入の場合 点数を2倍して算出)	

>	総合評価			Α	
	A 評価	B評価	C評価	D評価	E評価
	90~76	75~61	60~46	45~32	31~18

	行政の意見	協働相手の意見	
協働によって 得られた効果	職員を講師として4校に派遣し、次代を担う市内の児童・生徒に、税の仕組み、役割、機能等の租税に関する知識を持ってもらうことで、納税意識の向上を図り、将来的な自主財源の確保につながった。協議会が派遣先の募集等をとりまとめ、各協働先との調整を行うことで、事業をより効率的に進められている。	市職員が租税教室の講師を協働することにより、 学校側が希望する日程で租税教室を開催することが できた。	
働相手に対して	開催日程が繁忙期と重なると、事前に十分に準備ができない場合がある。また、税制改正等により職員一人当たりの事務量が増え、派遣する人員の確保が困難になりつつある。	引き続き市職員の講師派遣を増やしていただくとともに、市立の学校への租税教室の開催勧奨についてお願いしたい。また、市職員が講師を協働する際には、市税の使われ方など、市役所ならではの身近な題材を取り入れた授業に取組んでいただくことを提案したい。	